

千葉県八千代市

浅間内遺跡発掘調査報告書

浅間内遺跡 第5次本調査

浅間内遺跡 第7次確認調査

平成14年度

八千代市教育委員会

凡 例

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成13年度市内遺跡発掘調査事業として、国及び県の補助金を受けて実施した浅間内遺跡第5次本調査と第7次確認調査の報告書である。
2. 調査名及び所在地、期間、面積、調査原因は下記のとおりである。

No.	調査名	所在地	調査期間	面積	調査原因
1	第5次本調査	村上字白筋2742-1ほか	13.6.6 ～13.9.28	本調査 1,400㎡ 下層確認 4㎡	土地区画整理
2	第7次確認調査	村上字浅間内2775ほか	13.12.17 ～14.1.25	284㎡ ／3,600㎡	

3. 発掘調査は、常松成人が担当した。
4. 整理作業のうち基本整理は、平成13年度事業として平成13年10月1日から平成14年3月26日までの期間に行い、本整理及び報告書印刷は平成14年度事業として平成14年10月1日から平成15年3月31日までの期間に行った。
5. 本書の図版作成は、伊藤弘一、立石勝代、常松成人、野中則子、平林かな子が行い、編集・執筆は常松成人が行った。なお、旧石器については、田村 隆氏（千葉県立房総風土記の丘）にご協力及びご教示をいただいた。
6. 遺構No.とトレンチNo.は、調査順の数字と記号（アルファベット）で表記した。記号は以下のとおりである。
住居跡 D ピット・土坑 P 溝 M
その他の遺構 I トレンチ T
7. 遺構No.やトレンチNo.は、本遺跡における過去の調査で用いた番号の継続となっている。このため第5次本調査における各遺構No.は、住居跡が76Dから、土坑が572Pから、溝が27Mから、その他の遺構が4Iからとなっている。但し、住居跡の中には、平成6年度に一部を調査した10Dも含まれている。第7次確認調査におけるトレンチNo.は、23Tからとなっている。
8. 図中のスクリーンパターンは、遺物の場合、縄文時代の繊維土器及び須恵器、赤彩部分及び内面黒色処理部分を示している。遺構については以下のとおりである。



9. 遺構平面図の一点鎖線（——・——）で囲まれた範囲は、硬化面を表す。
10. 調査区のグリッドは、100m四方の大グリッドを10m四方の中グリッドで100分割し、「大グリッドNo.—中グリッドNo.G」（例：H10-54G）という方式で表記した。第5次本調査の区域は、大グリッドはすべてH10に属している。該当地点の北西のポイントのグリッドNo.がその地点のグリッドNo.となる（第5図参照）。なお、第7次確認調査区域では、このグリッド法を採用できなかった。
11. 第5次本調査で出土した鉄・銅の金属製品については、X線写真撮影及び保存処理を株式会社京都科学に委託し、処理済みである。
12. 土層説明の色調の表記法については、一部、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』（13版1993.1）を用いている。
13. 発掘調査から整理作業の間において、以下の諸氏・機関にご指導・ご協力をいただきました。記して感謝いたします。
株式会社京都科学 古代生産史研究会 田村 隆 千葉県教育庁文化課（文化財課） 峰村 篤
八千代市辺田前土地区画整理組合
14. 出土した遺物・写真・図面等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。

本文目次

凡例	6	近世	40
I 序章	7	その他の遺構・遺物	40
1 調査に至る経緯	4	8 調査のまとめ	44
2 浅間内遺跡の概要	6	III 第7次確認調査の遺構と遺物	
3 調査の経過	8	1 縄文時代	45
II 第5次本調査の遺構と遺物		2 弥生時代	45
1 旧石器時代	10	3 古墳時代	45
2 縄文時代	12	4 奈良・平安時代	45
3 弥生時代	15	5 中・近世	45
4 奈良時代	15	6 調査のまとめ	49
5 平安時代	22	報告書抄録	50

挿図目次

第1図	八千代市と浅間内遺跡の位置	4	第28図	76D出土遺物分布図	28
第2図	浅間内遺跡と周辺の遺跡	5	第29図	76D-A炭化材出土状況図	28
第3図	浅間内遺跡周辺の旧地形	5	第30図	76D出土遺物実測図(1)	29
第4図	浅間内遺跡の各調査地点	7	第31図	76D出土遺物実測図(2)	30
第5図	浅間内遺跡第5次本調査遺構配置図	9	第32図	76D出土遺物実測図(3)	31
第6図	旧石器調査トレンチ平面図・土層断面図	11	第33図	76D出土遺物実測図(4)	32
第7図	旧石器時代遺物実測図	11	第34図	76D出土遺物実測図(5)	33
第8図	縄文時代遺構実測図	13	第35図	76D出土遺物実測図(6)	34
第9図	縄文時代遺物実測図	14	第36図	76D出土遺物実測図(7)	35
第10図	80D実測図	16	第37図	78D実測図	36
第11図	575P・576P実測図	16	第38図	78Dカマド実測図	36
第12図	80D出土遺物実測図	17	第39図	78D出土遺物分布図	37
第13図	弥生時代遺物実測図	17	第40図	78D出土遺物実測図(1)	37
第14図	10D-A実測図	19	第41図	78D出土遺物実測図(2)	38
第15図	10D-Aカマド実測図	20	第42図	572P・577P・579P実測図	39
第16図	10D-B実測図	20	第43図	577P出土銅鏃実測図	39
第17図	10D出土遺物実測図	20	第44図	582P実測図	41
第18図	77D実測図	21	第45図	582P出土遺物実測図	41
第19図	77D出土遺物実測図(1)	21	第46図	4I実測図	41
第20図	77D出土遺物実測図(2)	22	第47図	4I出土遺物実測図	42
第21図	79D実測図	23	第48図	573P・580P・583P実測図	42
第22図	79Dカマド実測図	23	第49図	その他の遺物実測図	43
第23図	79D出土遺物実測図	24	第50図	第7次確認調査遺構配置図	46
第24図	76D-A実測図	26	第51図	第7次確認調査トレンチ土層断面図	47
第25図	76D-Aカマド実測図	26	第52図	第7次確認調査出土遺物実測図(1)	48
第26図	76D-B実測図	28	第53図	第7次確認調査出土遺物実測図(2)	49
第27図	76D-Bカマドの痕跡の断面図	28			

表 目 次

第1表	浅間内遺跡の発掘調査一覧表	7	第36表	76D出土鉄製品観察表	35
第2表	旧石器調査トレンチ北壁土層観察表	11	第37表	76D出土土製品観察表	35
第3表	旧石器時代遺物観察表	11	第38表	76D出土石製品観察表	35
第4表	縄文時代遺構計測表	13	第39表	78D土層観察表	36
第5表	縄文時代遺構土層観察表	13	第40表	78Dカマドそで土層観察表	36
第6表	縄文土器観察表	14	第41表	78D出土遺物観察表(1)	38
第7表	縄文時代土製品観察表	14	第42表	78D出土遺物観察表(2)	39
第8表	縄文時代石器観察表	14	第43表	78D出土鉄製品観察表	39
第9表	80D土層観察表	16	第44表	78D出土石製品観察表	39
第10表	575P・576P計測表	16	第45表	78D出土炭化物観察表	39
第11表	575P土層観察表	16	第46表	572P・577P・579P計測表	39
第12表	576P土層観察表	16	第47表	572P・577P・579P土層観察表	39
第13表	80D出土遺物観察表	17	第48表	577P出土銅鏃観察表	39
第14表	80D出土鉄製品観察表	17	第49表	582P計測表	41
第15表	弥生時代遺物観察表	17	第50表	582P出土遺物観察表	41
第16表	10D土層観察表(A-A')	19	第51表	4I土層観察表	41
第17表	10D土層観察表(B-B', C-C')	19	第52表	4I出土遺物観察表	42
第18表	10D-Aカマド土層観察表	20	第53表	4I出土鉄製品観察表	42
第19表	10D出土遺物観察表	20	第54表	4I出土石製品観察表	42
第20表	10D出土鉄製品観察表	20	第55表	573P・580P・583P計測表	43
第21表	77Dカマド土層観察表	21	第56表	573P・580P土層観察表	43
第22表	77D P2土層観察表	21	第57表	土器・土製品観察表	43
第23表	77D出土遺物観察表	22	第58表	鉄銭観察表	43
第24表	79D土層観察表	23	第59表	石製品観察表	43
第25表	79Dカマド土層観察表	24	第60表	第7次確認調査23T土層観察表	47
第26表	79D出土遺物観察表	24	第61表	31T土層観察表	47
第27表	76D土層観察表	27	第62表	56T土層観察表	47
第28表	76D-Aカマド土層観察表	27	第63表	72T土層観察表	47
第29表	76D-Bカマド痕跡土層観察表	28	第64表	第7次確認調査縄文土器観察表	48
第30表	76D出土遺物観察表(1)	30	第65表	第7次確認調査縄文時代遺物観察表	49
第31表	76D出土遺物観察表(2)	30	第66表	第7次確認調査出土石鏃観察表	49
第32表	76D出土遺物観察表(3)	32	第67表	第7次確認調査出土遺物観察表	49
第33表	76D出土遺物観察表(4)	34	第68表	第7次確認調査出土鉄斧観察表	49
第34表	76D出土遺物観察表(5)	34	第69表	第7次確認調査泥面子観察表	49
第35表	76D出土遺物観察表(6)	35			

図 版 目 次

図版1	第5次本調査-1	図版7	第5次本調査-7, 第7次確認調査-1
図版2	第5次本調査-2	図版8	第7次確認調査-2, 遺物-1
図版3	第5次本調査-3	図版9	遺物-2
図版4	第5次本調査-4	図版10	遺物-3
図版5	第5次本調査-5	図版11	遺物-4
図版6	第5次本調査-6		

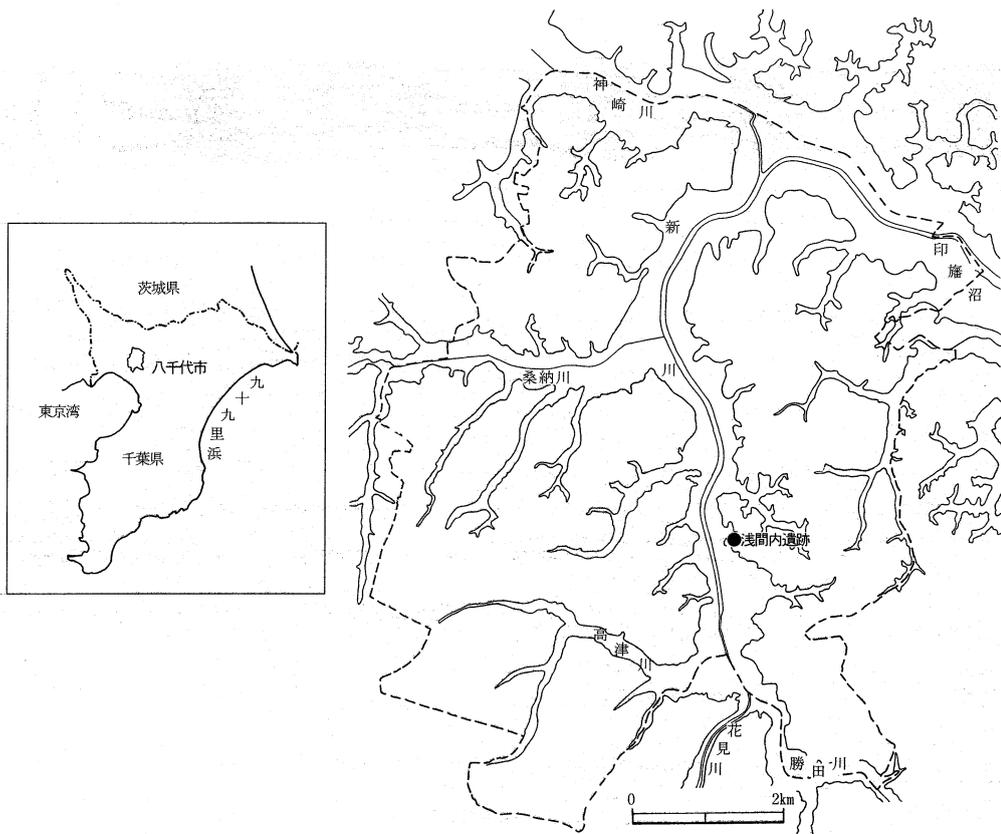
I 序 章

1 調査に至る経緯

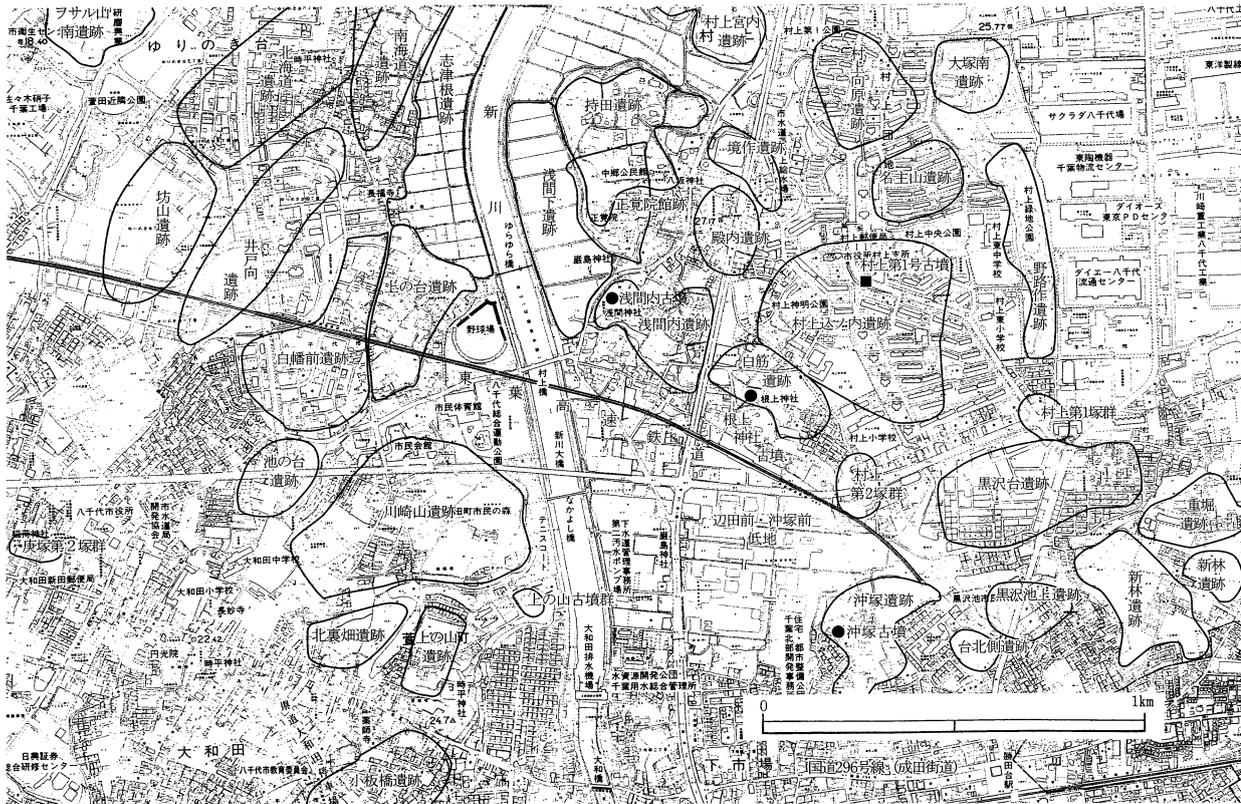
(1) 照会と回答

浅間内遺跡の発掘調査原因である八千代市辺田前土地区画整理事業は、東葉高速鉄道村上駅周辺地区の都市計画道路や公園等の公共施設の整備改善及び宅地の利用増進を図り、健全な市街地を造成することを目的として、平成5(1993)年の八千代市辺田前土地区画整理組合(以下「組合」と略)の設立認可以来、継続されている事業である。

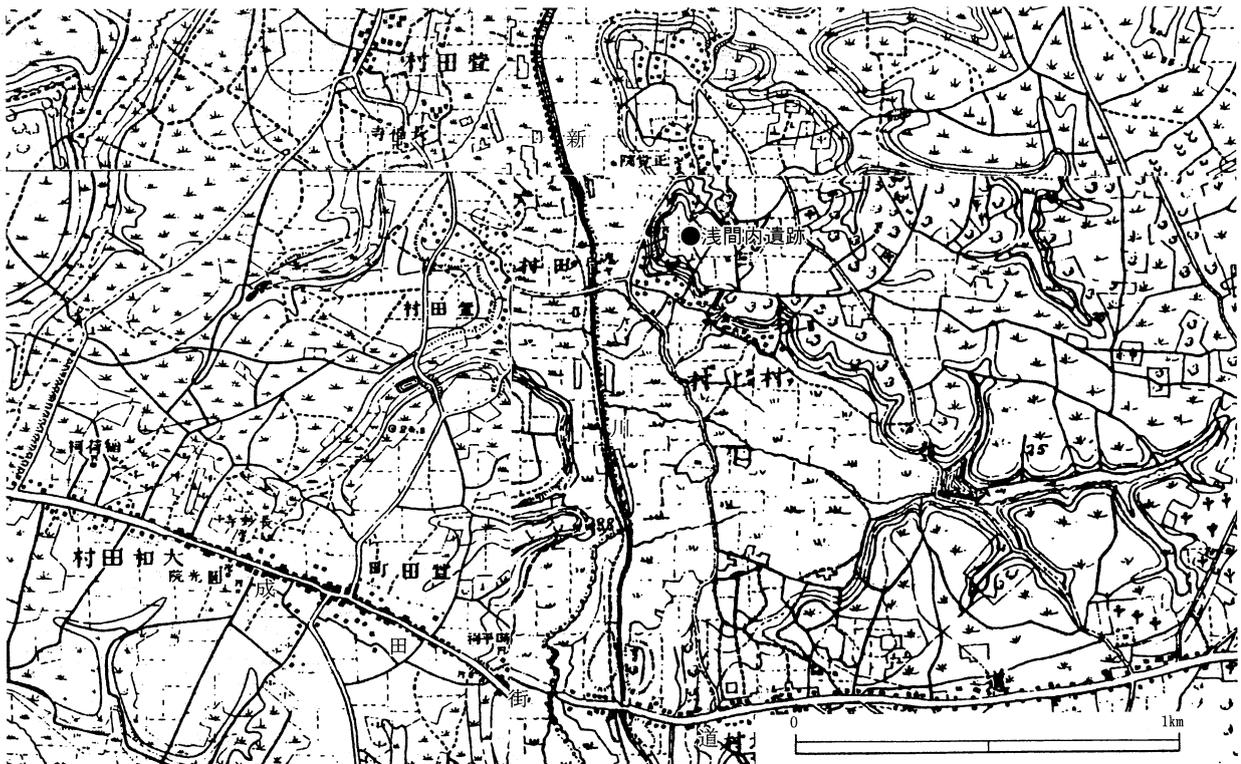
この事業に伴う事業地内の文化財及び埋蔵文化財の取扱いについては、平成2(1990)年5月に組合(当時は設立準備委員会)から照会が提出され、平成3(1991)年4月に千葉県教育委員会によって、事業区域596,000㎡のうち98,000㎡について、遺跡有りの回答が出されている。区域内の遺跡名は沖塚遺跡、白筋遺跡、浅間内遺跡、根上神社古墳(市指定文化財)である。その後、組合と八千代市教育委員会(以下「市教委」と略)との間で文化財の取り扱いについて協議がもたれた。根上神社古墳については現況保存としたが、その他の遺跡については記録保存を原則とし、発掘調査を行うという方針で協議が進められた。また、発掘調査の組織は、事業の進捗・効率等を考慮し、八千代市遺跡調査会(以下「調査会」と略)とし、調査費用は国庫補助・県費補助は受けず、事業者である組合の負担によって行うこととした。



第1図 八千代市と浅間内遺跡の位置



第2図 浅間内遺跡と周辺の遺跡



第3図 浅間内遺跡周辺の旧地形 (明治15年第一師管地方二万分一迅速測図に加筆)

(2) 発掘調査（平成5年～平成12年）

平成5年の組合認可を受け、組合・市教委・調査会の三者間で埋蔵文化財に関する協定を締結し、調査に着手することとなった。

平成5年度は沖塚遺跡の確認調査及び本調査を行い、平成6年度は浅間内遺跡の第1次確認調査・第2次確認調査・第3次確認調査・第1次本調査・第2次本調査（一部）、白筋遺跡の第1次確認調査を行い、平成7年度は浅間内遺跡第2次本調査・第3次本調査、平成8年度は浅間内遺跡の第3次本調査の基本整理の残務を行い、平成10年度は白筋遺跡の第2次確認調査・本調査を行った。

平成11年度からは、組合の要請により、国庫補助及び県費補助を受けて市教委が直営で調査するよう改め、浅間内遺跡の第4次確認調査を行った。平成12年度は直営で浅間内遺跡の第5次確認調査・第4次本調査、白筋遺跡の第3次確認調査を行ったが、補助の対象とならない都市計画道路部分に当たる浅間内遺跡の第6次確認本調査は、事業者負担の調査会体制で行った。

(3) 平成13年度の調査

平成13年度の調査は、浅間内遺跡の第5次本調査及び第7次確認調査である。

第5次本調査

第5次本調査の区域は、周囲の土地が削り取られているため、独立丘状になっている。当初土木工事等を行わない予定であったため、道路拡幅部分に当たる区域のみを平成6年度に第1次本調査の一部として調査し、住居跡6軒を検出した。事業計画が変更されたため調査の協議を行い、第1次本調査の結果からみて住居跡の分布が予想されたため、確認調査は省略し本調査を実施することにした。排土の場内処理は困難なので、場外に排土置き場を確保することや基準点測量、駐車場などについて、組合の協力を得た。平成13年6月1日に組合から文化財保護法第57条の2第1項の規定による土木工事の発掘届（以下「土木工事の届」と略）が提出された。準備が整った6月6日に表土剥ぎを開始した。

第7次確認調査

第7次確認調査の対象地は、当初から調査の予定があったが、梨畑として利用されているため、梨への影響を考慮し調査を控えてきた。しかし、調査対象地がここだけとなり、組合の事業期間も残り少なくなってきたため、土地所有者の意向を尊重した上で、調査に踏み切ることとした。土地所有者としては、工事が始まる直前まで梨の収穫をしたいとの意向であり、調査は梨への影響を極力少なくする方法を採ることとした。梨の根を傷めないよう、土地所有者・耕作者の立ち会いのもとでトレンチの設置を行い、掘削・埋め戻しはすべて人力で行うこととした。また、乾燥を避けるため埋め戻しはできる限り迅速に行うよう配慮した。平成13年12月14日に組合から土木工事の届が提出され、準備の整った12月17日に調査を開始した。

2 浅間内遺跡の概要

(1) 遺跡の立地

浅間内遺跡は、市域の南部、新川の東岸に位置する。北を新川の低地から東に入る小谷に、南を入り江状の辺田前・沖塚前低地に画された台地上に立地する。この低地は、平戸川（開削によって花見川と繋げられ、現在は新川と呼称）の最上流地域にあって広大な面積を有する。台地上の標高は24m～26mである。この台地上西端には浅間神社が鎮座し、地名の由来となっている。



第4図 浅間内遺跡の各調査地点 No.は第1表に対応

第1表 浅間内遺跡の発掘調査一覧表

年度	調査名	面積 (㎡)	第4図No	主な結果	文献
平成6年度	第1次確認調査	1,100 / 11,510	①	竪穴住居跡39軒等 第1次、第2次本調査へ	市教委 (1996)
	第2次確認調査	30 / 200	②	溝1条。本調査せず	
	第3次確認調査	450 / 4,500	③	竪穴住居跡16軒等 第2次、第3次本調査へ	
	第1次本調査	1,000	④	竪穴住居跡11軒等	
	第2次本調査	1,400	⑤	竪穴住居跡10軒等	
平成7年度	第2次本調査	3,000	⑥	(2次・3次併せ) 竪穴住居跡51軒、古墳1基、方形周溝状遺構2基、土坑281基 旧石器遺物集中箇所3箇所等	市教委 (1997)
	第3次本調査	4,300			
平成11年度	第4次確認調査	150 / 570	⑦	古墳時代後期住居跡1軒等 第4次本調査へ	市教委 (2000)
平成12年度	第5次確認調査	94 / 1,054	⑧	遺構無し。本調査せず 古墳時代後期住居跡1軒、古墳時代前期ピット12基	市教委 (2002)
	第4次本調査	98	⑨		
	第6次確認本調査	500	⑩	奈良時代住居跡1軒、平安時代住居跡1軒	-

(2) 浅間内遺跡におけるこれまでの調査

浅間内遺跡は、昭和57(1982)年度に市教委が県費補助を受けて実施した、埋蔵文化財包蔵地所在調査において初めて認識され、縄文時代後期及び奈良・平安時代の遺物包含地として八千代市の遺跡No.204として登録された(市教委1983)。

本遺跡ではこれまで辺田前土地区画整理事業に先行する調査が断続的に行われてきた。まとめると第1表のとおりであり、多くの成果が出ている。これらは大半が未整理であるため詳しい内容を明らかにすることはできないが、旧石器時代、縄文時代早期燃糸文・中期阿玉台式、弥生時代後期、古墳時代前期・中期・後期、奈良時代、平安時代、中世、近世という各時代の遺構あるいは遺物が検出されている。

(3) 周辺の遺跡

浅間内遺跡が所在する村上地区は、遺跡密度が比較的高い地域である。国道16号線を挟んだ南東には白筋遺跡がある。浅間内遺跡と同じ事業に先行する調査で、遺跡の南東端の斜面で平安時代住居跡1軒が検出されている。この遺跡の範囲内に市指定史跡である根上神社古墳が所在している。部分的な調査で周溝を確認している(市教委2002)。浅間内遺跡の東方にある公団村上団地の建設に先立って行われた村上込ノ内遺跡の調査では、旧石器時代～近世に至る遺構・遺物が検出されている。169軒の住居跡や24棟の掘立柱建物跡などである。この遺跡内には村上1号墳があり、横穴式石室の中から直刀2点、鉄鏃100点以上などが出土した(千葉県都市公社1975)。浅間内遺跡の北方には殿内遺跡があり、古墳時代前期・後期、奈良平安時代の住居跡が計37軒検出された。谷を隔てた北側には正覚院館跡がある。中世の堀跡や土塁が確認されている。正覚院館跡に一部交わって持田遺跡があり、古墳時代後期の住居跡12軒などが検出されている(市教委1995)。

この他にも、辺田前・沖塚前低地から東に延びる谷に臨む沖塚遺跡・台北側遺跡・黒沢池上遺跡・新林遺跡・二重堀遺跡等縄文時代を主体とした遺跡群がある。また西方、新川を隔てた萱田町には、弥生時代後期～古墳時代中期を中心とした集落跡である川崎山遺跡、奈良・平安時代の集落跡である上の台遺跡がある。

3 調査の経過

(1) 第5次本調査

第5次本調査の区域は、辺田前・沖塚前低地に臨む台地上、標高27m前後の山林である。現在は、北側の比高約3.5m、南側の比高約15mという独立丘状になっているが、この付近は地形改変が著しく、周囲が削平されているため、もとは周辺の同標高の土地と地続きであったと考えられる。地名は「白筋」であり、国道16号線で隔てられた南東の白筋遺跡の台地とつながっていた。浅間内の台地とは小谷で区切られている。

表面採集によって土師器片などを得た。また一部に焼土が観察された。

調査期間は、平成13年6月6日～9月28日である。6月6日～18日重機表土剥ぎ作業。重機2台で表土の除去及び排土の処理を行い、ダンプトラックで排土を搬出する。19日～28日遺構検出作業。28日から遺構調査を開始する。10D・76Dから着手する。7月16日、78D調査開始。23日、77D・79D調査開始。8月16日～17日、76D～77D部分を人力で表土除去。23日、ピット調査開始。30日、4Iの調査開始。9月14日、80D調査開始。一部人力で表土除去。19日～21日、10Dに旧石器調査のトレンチを設定し調査する。21日、溝の調査開始。28日に現地調査を終了した。

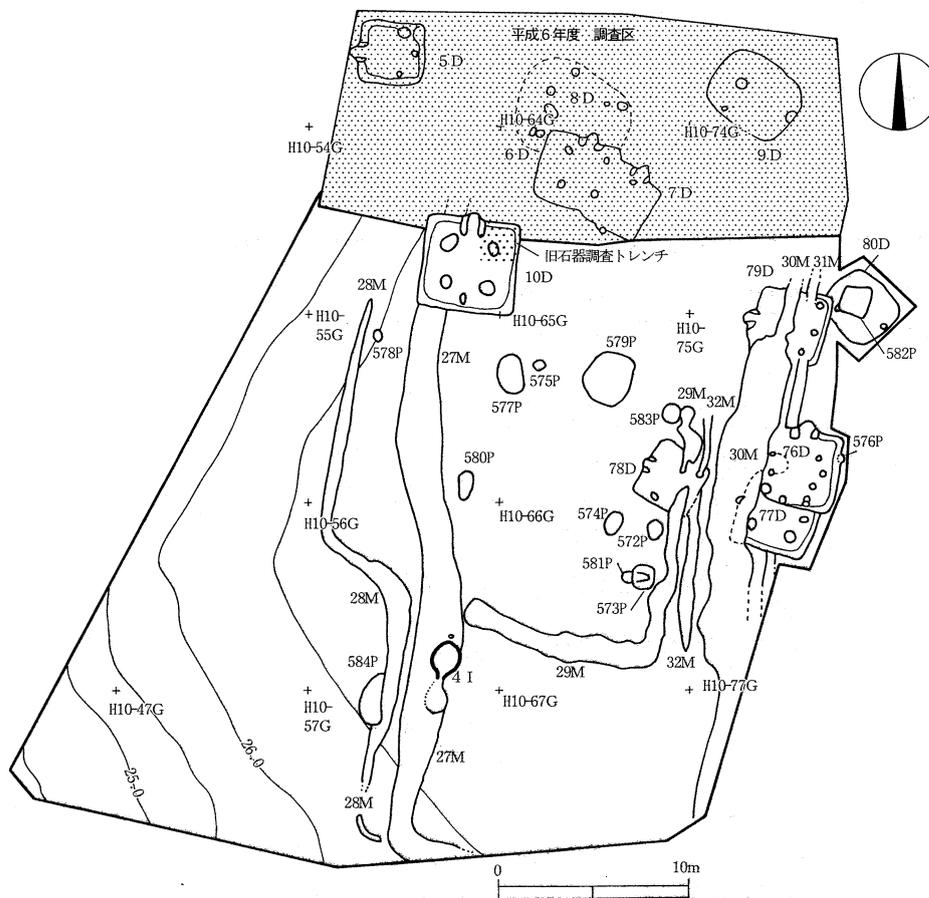
(2) 第7次確認調査

第7次確認調査の区域は、浅間内遺跡の中央部に当たる標高27m前後の地点である。表面採集によって土師器片などを得た。

調査期間は、平成13年12月17日～平成14年1月25日である。調査方法は、前述したように梨畑内の調査が主であるため、任意のトレンチを設定して掘削することとした。まず、12月17日～18日に土地所有者に立ち会っていただきトレンチを設定した。トレンチNo.は、これまでの調査の連番で23Tから付番した。南側の梨畑の西端付近から調査を着手する。18日掘削（手掘り）開始。20日～21日測量のための杭打ち等準備。掘削，記録，埋め戻しを繰り返す。1月23日までに南側の梨畑の23T～73Tの調査を終了し，23日～25日に北側の畑地の74T，北西側の75T，76T，さらに北側の梨畑の77T，78Tを調査し，25日に埋め戻し，器材撤収まで終了した。

参考文献

- 財団法人千葉県都市公社(1975)『八千代市村上遺跡群 1974』
- 八千代市教育委員会(1983)『八千代の遺跡—千葉県八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書—』
- 八千代市教育委員会(1995)『平成6年度八千代市埋蔵文化財調査年報』
- 八千代市教育委員会(1996)『八千代市埋蔵文化財調査年報 平成6年度版』
- 八千代市教育委員会(1997)『八千代市埋蔵文化財調査年報 平成7年度版』
- 八千代市教育委員会(2000)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成12年度』
- 八千代市教育委員会(2002)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度』



第5図 浅間内遺跡第5次本調査遺構配置図

Ⅱ 第5次本調査の遺構と遺物

第5次本調査によって検出された遺構は、竪穴住居跡6軒、墓坑1基、炭焼窯1基、土坑13基、溝6条である(第5図)。また、得られた遺物は総数3,729点である。これらを時代別に分類すると、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、奈良時代、平安時代、江戸時代、近現代に分けることができる。以下、時代順に遺構と遺物を報告する。

1 旧石器時代

旧石器時代の遺物は6点である。10D及び10D内に設定したトレンチから出土した5点と、H10-44Gから出土した1点である。

(1) 10D及び旧石器調査トレンチ

竪穴住居跡10Dの柱穴P3を掘削中、その壁から玉髓製の石刃が出土した(第7図1)。壁をやや掘りすぎた結果出土したもので、この出土位置はほぼ原位置を保っていると考えられた。そこで10Dの調査終了後、P3を含む部分、住居跡の約4分の1に当たるところに約2m×2mのトレンチを設定し掘削した。

その結果、石刃出土位置と同様、AT相当層の直下の層で類台形石器(第7図2)、端部整形刃器(同図3)が出土した(第6図)。また出土位置はわからないが、使用痕付き剥片(同図4)が出土した。他に10D覆土中にも使用痕付き剥片(同図5)があった。

石刃(第7図1)

素材の玉髓は、茨城県久慈川中流域に大量に分布するほか、上総丘陵第四紀の砂礫層中や、茨城県内に広く分布する第四紀の礫層中にも包含されている。

第3表に記した特徴は、下総地域における第2黒色帯上部を産出層準とする粗製石刃の特徴と矛盾しない。また、腹面左側縁部に細かな連続剥離痕が観察されるが、これは骨角のような硬質の対象物との接触によるものと判断される。この部位の縁边角は約36°で、硬質物の加工縁边角としては小さすぎ、縁辺にかかる過負荷によって細魚鱗状の側縁破碎痕が発生したのではないかと考えられる。

類台形石器(第7図2)

素材は、中生代以前の古期岩類の珪質黒色頁岩である。この種の頁岩は関東平野周辺の山地にはどこでも大量にあり、また、第四紀の礫層中にも大量に包含されている。

端部整形刃器(第7図3)

平坦打面をもつ縦長剥片の尾部を、斜めに切り取った剥片である。これはいわゆるブランディング(刃潰し)ではなく、角度のやや浅い(50~65°)通常の調整剥離によるものである。1と同様の粗製石刃生産を背景としているものと考えられる。仮に本資料が手持ちで使用されていたとすると、切り取り部との位置関係から左利きの人物が想定される。これは1の連続剥離痕から推定される利き手とも一致し興味深い。

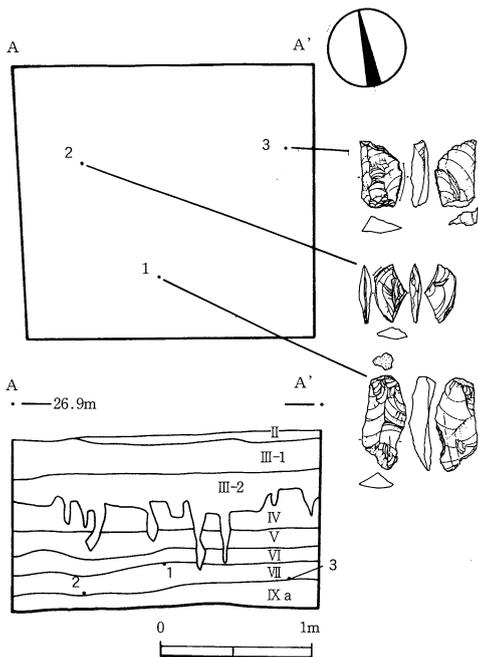
使用痕付き剥片(第7図4)

素材のチャートは、2・3と出自を同じくしており、広域に分布している。

使用痕付き剥片(第7図5)

風化の状況から、第三紀層に由来する頁岩の可能性が高いが断定はできない。腹面は不整な破碎状況をしており、何らかの衝撃による破碎かと疑われる。

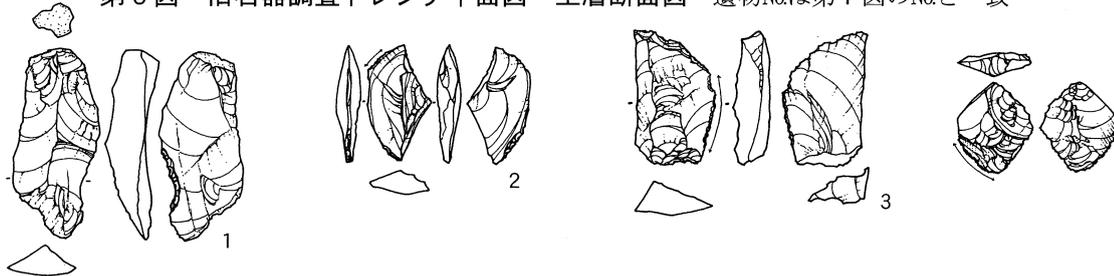
第3表①②の特徴から、盤状の石核から求心的に剥離された剥片であると考えられる。このことから



第2表 旧石器調査トレンチ北壁土層観察表

No.	層位	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かさ	密度	可塑性	植物根	その他
1	II	漸変	7.5YR4/3 褐色	含む	SiL	小歪角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	
2	III-1	漸変	7.5YR4/4 褐色	含む	SiCL	小歪角塊状	含む	小	19	中	細根含む	
3	III-2	漸変	7.5YR4/4 褐色	含む	SiCL	小歪角塊状	含む	小	21	中	細根含む	径 1-2mm 赤褐色燭石 径 0.5mm 黒色燭石
4	IV	波状明瞭	7.5YR4/4 褐色	含む	SiC	小歪角塊状	含む	小	23	強	細根含む	径 0.5mm 黒色燭石 径 1mm 灰色燭石 火山ガラス
5	V	判然	7.5YR4/4 褐色 5/4 赤褐色 雲状	含む	SiC	小歪角塊状	含む	中	25	強	細根含む	径 1-2mm 黒色燭石 径 1mm 橙褐色燭石 火山ガラス
6	VI	判然	7.5YR5/4 赤褐色	あり	SiC	小歪角塊状	含む	中	26	強	細根あり	径 1-2mm 黒色燭石 径 1mm 橙褐色燭石 径 1mm 灰色燭石 火山ガラス含む
7	VII	判然	7.5YR4/6 褐色	あり	SiC	小歪角塊状	頗る含む	小	24	強	細根あり	径 2-3mm 暗褐色燭石 径 1-2mm 黒色燭石 赤褐色燭石
8	IXa	判然	7.5YR4/4 褐色	含む	SiC	小歪角塊状	含む	小	23	強	細根あり	径 2-3mm 暗褐色燭石 径 1-2mm 橙褐色燭石 黒色燭石

第6図 旧石器調査トレンチ平面図・土層断面図 遺物No.は第7図のNo.と一致



第3表 旧石器時代遺物観察表

図No-遺物No.	現地取り上げNo.	器種	遺存状態	寸法 (mm)			質量 (g)	材質	色	調整 その他の特徴
				長さ	幅	厚さ				
7-1	100-121	石刃	完形	50	15	9	9.9	玉髓	乳白色	①ゆるく湾曲した原礫面を打面とする。②打角が111°と大きめ。③背面に上下両端からの対向剝離痕が観察される。
7-2	T.P.1-1	類台形石器	完形	31	16	7	2.1	珪質頁岩	黒色	①貝殻状剥片の一端に微細な基部加工を施した粗製の台形石器(あるいは類切出型石器)。②打面に接して短めの斜刃。この部分に刃こぼれあり。
7-3	T.P.1-2	端部整形刃器	完形	36	24	10	7.1	珪質頁岩	黒色	①平坦打面をもつ。②剝離角が28°と極めて大。③大きめの打面を残置。④切り取り部に接する側縁部に使用痕が顕著。⑤この使用部分の縁辺角約30°
7-4	T.P.1-一括	使用痕付き剥片	完形	24	19	6	2.1	チャート	灰色に黒色の縞	①背面右側縁下部に細かな刃こぼれ。②この部分の縁辺角は29°と極めて小、やや腹面側に湾曲した爪形の作業線となっている。
7-5	100-33	使用痕付き剥片	欠損か	38	43	11	2.1	珪質頁岩	表面は灰黒色に風化。内面はやや光沢をもつ漆黒色。細い白色の縞	①細長く鋭利な打面を残置。②背面に對向する剝離痕。③底部側縁に細かな刃こぼれ。④この部分の縁辺角は約25°
7-6	H10-44G-1	小型石槍	基部	24	15	5	3	泥岩	黄灰色。灰黒色の縞が縦横に入る	①素材は縦長剥片あるいは石刃。②尾部端の面を除去するための小剝離痕集中。③調整剝離は背面・腹面とも縁辺部に限定。完全な両面加工とは言えない。

第7図 旧石器時代遺物実測図

1や4等とは異なる剥片生産手法が存在していたことがわかる。また、③④のとおり、縁辺角約25°というのは3・4に近く、また1の値を上限とすれば、本遺跡を形成した人々は約30°~40°程度の角度をもつ剥片を、刃器のサポートとして意図的に選抜していたことが推察される。これは本遺跡のみの傾向ではなく、詳しく刃角の計測が行われた市原市武士遺跡各文化層においても全く同様の結果が得られている(千葉県文化財センター1996)。

(2) グリッド出土石器

調査区北西端のH10-44Gのソフトローム上部付近から、小型石槍(第7図6)が1点出土した。

小型石槍（第7図6）

風化のため本来の色調をうかがうことはできない。第3表③の特徴から、割り取系の石槍の仲間と見られる。正確な帰属時期は不詳であるが、小型石槍末期の所産（石器群E：非面取り系石槍石器群；千葉県立房総風土記の丘2001）と考えておく。

2 縄文時代

縄文時代の遺物としては、調査区域内から中期阿玉台式の土器片などが約200点出土している。遺構としては、土坑4基が縄文時代に属するものと判断した。いずれも覆土は褐色系の土が主体であった。各遺構の規模等は第4表のとおりである。

(1) 574P

長楕円形の凹み状遺構である。中期阿玉台式の土器小片が1点出土した。

(2) 578P

楕円形の凹み状遺構である。中期阿玉台I a式の比較的大きな破片（第9図-1）が、口縁部を下にした逆位の状態で出土した（図版1(7)）。また、付近で底部の破片が出土した（第9図-2）。

(3) 581P

長楕円形、有段の遺構である。573Pに切られるかたちで検出された。縄文土器片1点、紛れ込みと考えられる土師器の細片2点が出土した。

(4) 584P

長楕円形の遺構である。28Mに切られるかたちで検出された。阿玉台式土器片4点が出土し、うち2点が接合した（第9図-3）。

(5) その他の遺構及び遺構外出土遺物

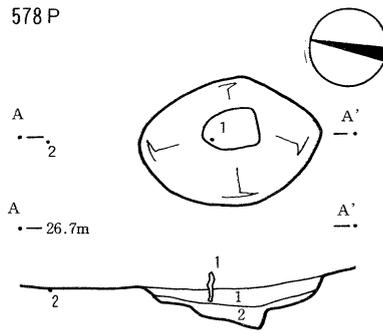
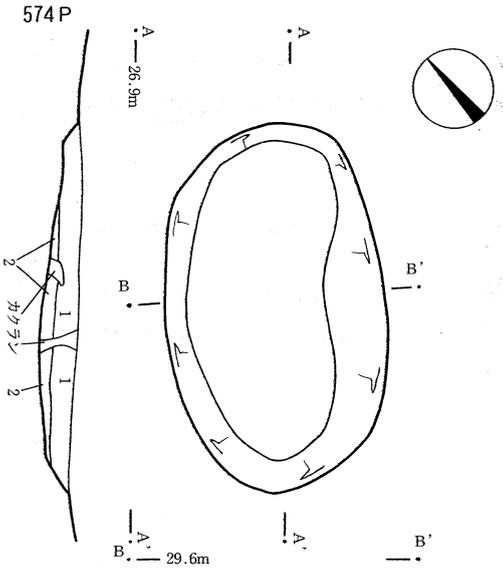
近現代の遺構と考えられる4I及びその周辺、583Pと27Mから縄文土器が出土した。4I周辺で出土した土器については第47図-7、8に示した。583Pと27Mから出土した土器は、第9図-5、6に示した。いずれも阿玉台I a式の範囲内と考えられる。

遺構外からは74点の縄文土器が出土した。これらのうち最も古い時期のものは早期撚糸文期前半のもの（第9図-7）である。井草式が。同図-8は前期黒浜式。同図-9～13は阿玉台式である。

この他、土製品として、土製円盤と土器片錘がある。いずれも阿玉台式土器の再利用品である。土製円盤の割れ口には擦ったような痕跡がある。土器片錘の17,18は糸掛け用と考えられる溝が不明瞭で、割れ口の処理（縁辺調整）は雑である。いわゆる「神野型土器片錘」（小笠原1997）に類似するものである。

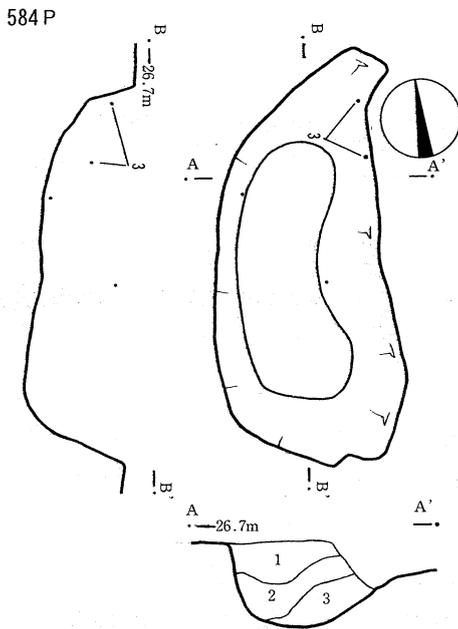
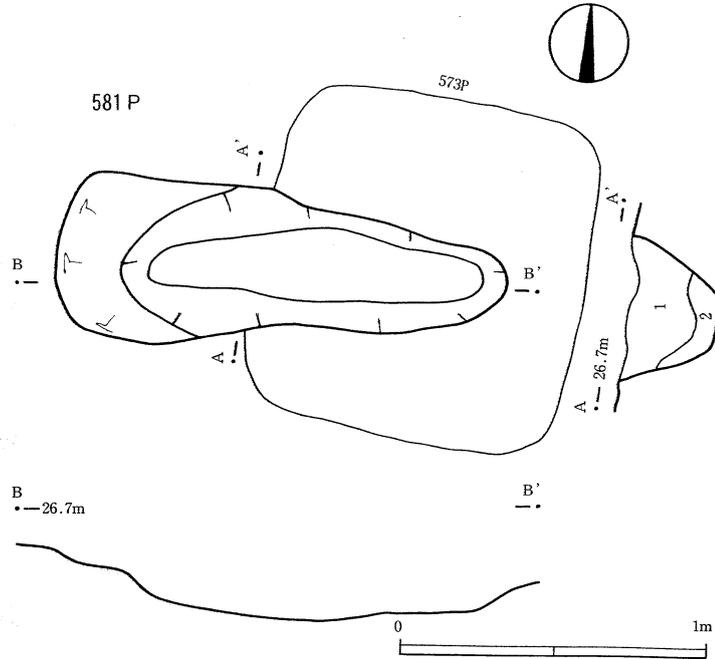
石器としては、80Dの東側拡張の際、表土付近から出土した石鏃1点である。偏平な作りの石鏃である。

剥片は19点出土した。このうち頁岩と考えられるもの10点、黒曜石4点、チャート3点である。577Pから頁岩6点、チャート1点、不明1点が出土しており、やや集中している。他にH10-67Gから焼けた礫が1点出土している。



第4表 縄文時代遺構計測表

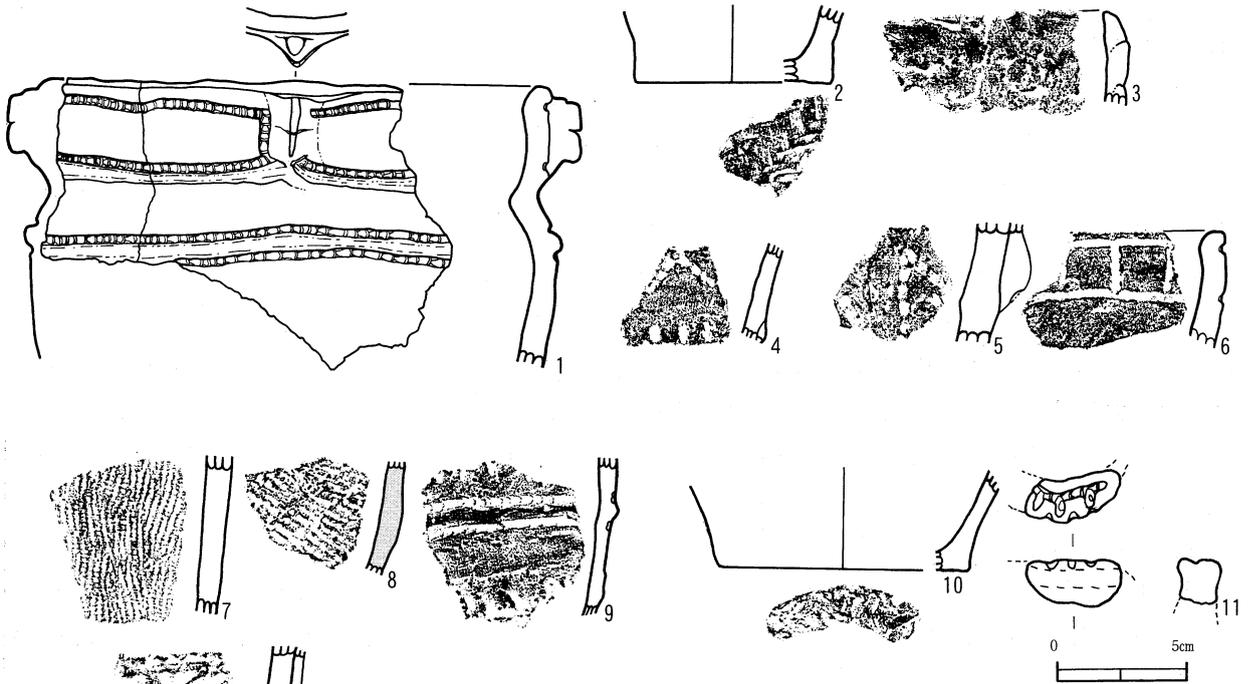
遺構No	上面規模 (m)		底面規模 (m)		深さ (m)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
574P	1.23	0.72	1.06	0.45	0.13
578P	0.60	0.42	0.19	0.14	0.14
581P	1.48	0.50	1.09	0.25	0.30
584P	2.78	1.20	1.70	0.66	0.68



第5表 縄文時代遺構土層観察表

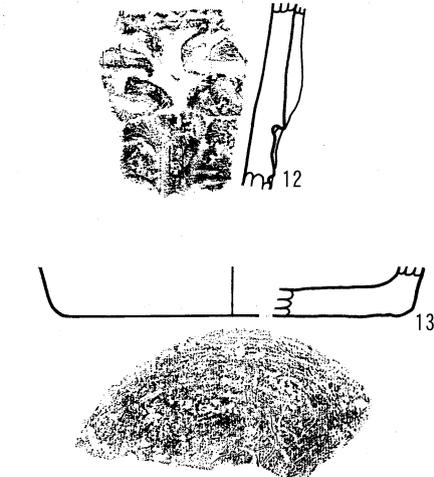
No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	締密度	可塑性	植物根
574P										
1	判断	7.5YR4/3 褐色	含む	SIC	小垂角塊状	富む	小	16	弱	細根あり
2		7.5YR4/3 褐色 主. 4/4 褐色斑状	含む	SIC	小垂角塊状	富む	小	19	中	細根あり
578P										
1	--	7.5YR4/3.5 褐色	含む	SiCL	小垂角塊状	富む	小	15	弱	細根含む
581P										
1	漸変	7.5YR4/3 褐色	含む	SiCL	垂角塊状	富む	小	22	中	細根含む
2		7.5YR4/4 褐色	含む	SIC	小垂角塊状	含む	小	20	強	細根あり
584P										
1	明瞭	7.5YR4/4 褐色	含む	CL	小垂角塊状	富む	小	19	中	細根含む
2		7.5YR3/3.5 暗褐色 主. 4/4 褐色斑状	含む	CL	小垂角塊状	含む	小	17	中	細根含む
3	判断	7.5YR3/3 暗褐色 4/3 褐色斑状	含む	CL	小垂角塊状	含む	小	20	中	細根あり

第8図 縄文時代遺溝実測図 遺物No.は第9図のNo.と一致



第6表 縄文土器観察表 (第9図)

器名・遺物名	現存状況	器種・器形	部位	復元計測値等 (cm)	色	胎土	文様・調整・その他の特徴
9-1	578P-1	深鉢	口縁部	復元口径 18.8	外:黒褐色 内:黒褐色	砂, 灰	突起, 押し引き文, 隆線
9-2	578P-2	深鉢	底部	復元底径 7.6	外:黒褐色 内:黒	砂粒	底面に網代痕
9-3	584P-2, 3	深鉢	口縁部	復元口径 21	暗褐色	砂粒	外面に輪轆み痕
9-4	584P-4	深鉢	胴部	-	黒色, 黒色	砂粒	押し引き文, 鬚状の指頭痕
9-5	583P-3	深鉢	口縁部頂部付近	-	赤褐色	砂粒, 雲母	押し引き文, 隆線
9-6	27M-3	深鉢	口縁部	-	黒褐色, 黒色	砂粒	押し引き文
9-7	H10-57G	深鉢	胴部	-	灰褐色	砂粒	縄文
9-8	H10-65G	深鉢か	胴部	-	淡灰褐色	繊維	無筋縄文
9-9	H10-67G-2	深鉢か	胴部	-	淡褐色, 灰色	緻密	押し引き文, 隆線, 鬚状の指頭痕
9-10	H10-67G	深鉢か	底部	復元底径 9.4	外:黒褐色 内:黒褐色	砂粒, 雲母	底面に網代痕
9-11	H10-66G-3	深鉢か	突起	-	淡赤褐色, 灰色	雲母, 長石	押し引き文, 刺突, 刻み
9-12	H10-55G	深鉢	胴部	-	淡赤褐色	砂粒, 長石	押し引き文, 隆線
9-13	H10-56G-1	深鉢	底部	復元底径 13.6	外:黒褐色 内:黒褐色	雲母, 長石	底面:ナデ



第7表 縄文時代土製品観察表 (第9図)

器名・遺物名	現存状況	器種	器形	重量(g)	色	胎土	文様	調整	調整	薄の数	形状	部位	土質	重さ	偏平さ
9-14	29M-12	土器	半欠	17.7	外:淡褐色 内:黒	砂, 灰	輪轆痕	平滑	-	-	円形	胴部	灰土	重い	普通
9-15	H10-57G	土器	半欠	15.1	淡褐色	砂, 灰	網代痕	平滑	明瞭	1	円形	胴部	灰土	普通	非偏平
9-16	H10-66G-1	土器	一欠	33.8	外:淡褐色 内:黒	黒色	押し引き文, 隆線	平滑	明瞭	1	円形	胴部	灰土	重い	非偏平
9-17	H10-67G	土器	完形	7.8	外:黒褐色 内:黒褐色	砂, 灰	網代痕	平滑	不瞭	1	円形	胴部	灰土	軽い	普通
9-18	H10-75G	土器	完形	14	黒色, 黒褐色	砂, 灰	押し引き文, 隆線	平滑	不瞭	1	円形	胴部	灰土	普通	非偏平

第8表 縄文時代石器観察表 (第9図)

器名・遺物名	現存状況	器種	器形	寸法 (mm)	重量 (g)	材質	色
9-19	80D	石鏡	完形	径:23.5, 厚:13, 厚:2.5	0.8	頁岩	灰色

第9図 縄文時代遺物実測図

3 弥生時代

弥生時代の遺物としては、調査区域内から後期の土器片などが約114点出土している。遺構としては、竪穴住居跡1軒(80D)、ピット2基(575P・576P)である。575Pには壺が1個体埋納されていた。

(1) 80D

切り合い 西コーナー付近が79Dによって、床面中央部が582Pによってそれぞれ壊されている。平面形態 隅丸方形。主軸方向 N-44°-W。規模 3.2×3.6m。深さ 45cm。壁溝 なし。炉 なし。おそらく582Pによって破壊されたのであろう。ピット 2基。いずれも主柱穴ほどの規模ではない。P1は一部582Pによって壊されている。上面径40cm、底面18×12cm、深さ13cm。P2は出入口部のピットか。上面44×32cm、底面20×12cm、深さ9cm。床面 平坦。ソフトロームから成る。貼り床は不明瞭である。壁 ほぼ垂直。ソフトロームから成る。覆土 黒褐色系の土が主体。

遺物 総数145点。うち弥生土器は68点と半数に満たない。土師器・須恵器が54点混入していた。弥生土器は甕の小片が中心であり、図化に耐え得るものは少なかった(第12図1～4)。土器以外には鉄製品が1点、床面近くから出土した(同図5)。穂摘み具と考えられる。他に別時代のものとして、石鏃(第9図19)、布目瓦(第49図2)各1点が出土した。

(2) 575P

H10-65Gにおいて、表土除去後に土器が1個体分まとまって埋まっていた。調査の結果、この土器は弥生式の壺(第13図1)であり、楕円形のピットに埋納されていることがわかった。このピットは、壺の形状に合わせて掘られたものらしく、土器の底部から胴下半部はピットの壁に密着していた。

壺形土器は、劣化が激しいため、接合・復元は困難であった。また歪みがあるため、実測図では実測線と復元線の両方を図示した。

(3) 576P

76Dに約半分を切られている。尖底気味の円形ピットであろう。弥生土器と考えられる小片1点が出土した。

(4) その他の遺構及び遺構外出土遺物

第13図2は、29M出土の土器底部である。焼成極めて良好である。遺構外では、同図3の櫛描き波状文の土器片や、4の口唇部に刻みのある甕の破片などが確認された。

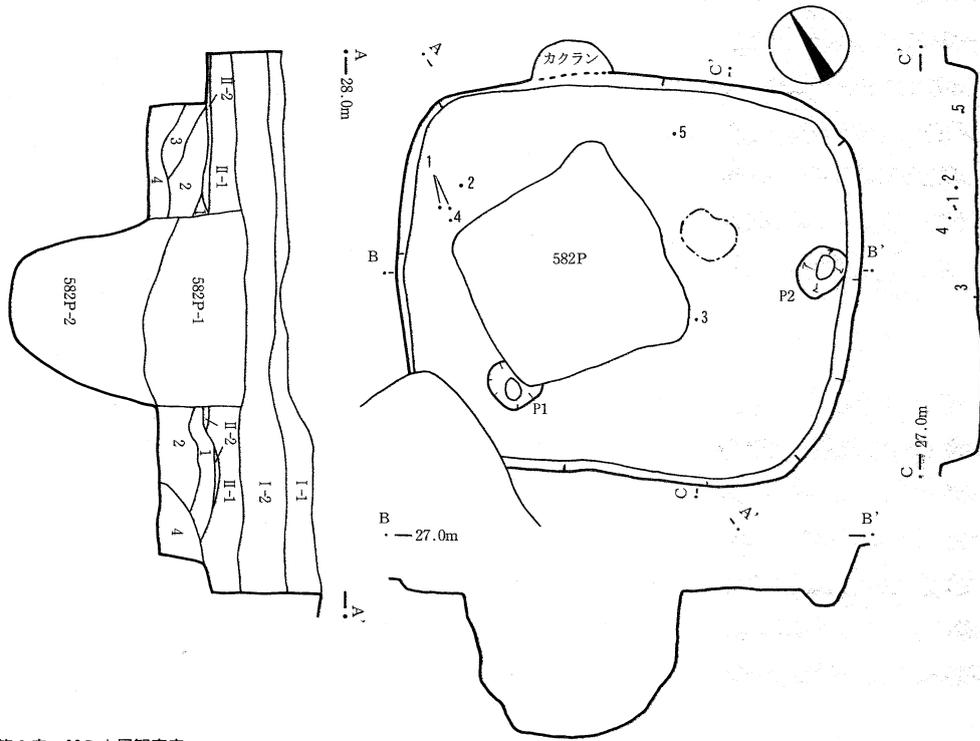
4 奈良時代

竪穴住居跡10D、77D、79Dが、奈良時代に属すると考えられる。

(1) 10D

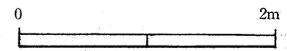
カマドを含む北側の一部は、平成6年度に調査した。但し、その時は「D10」と呼称した。本住居跡調査の主たる部分は今回の調査区域に属するので、学術報告上の必要性から今回の報告にカマド部分も含めて図示した。なお、今回の調査時には平成6年度調査区域が工事されずに残っていたので、10Dの調査写真には平成6年度に調査した部分も含めて撮影することができた。

本住居跡からは、上下2枚の床面が検出された。古い住居の床を埋め、壁を拡張し、柱を移動し、さら



第9表 80D土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
I-1	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色 3/2 黒褐色	富む	L	小亜角塊状	あり	小~中	23	弱	主根含む 細根豊富	埋土。0-17cm) 含む
I-2		7.5YR4/2 灰褐色 3/3 暗褐色	富む	L	小亜角塊状	あり	小	25	弱	主根含む 細根豊富	径1-2mm黄色スリ状 焼土粒子、炭化物
II-1	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	L	小亜角塊状	含む	小	23	弱	細根含む	径1-2mm黄色スリ状 焼土粒子、炭化物
II-2		7.5YR3/3 暗褐色	富む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	焼土含む
1	漸変	7.5YR3/2.5 黒褐色 色~暗褐色	富む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径1mm黄色スリ状
2		7.5YR3/2 黒褐色	富む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径1-2mm黄色スリ状 均質に含む
3		7.5YR4/4 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	径1-2mm黄色スリ状 均質に含む
4		7.5YR3/3 暗褐色 4/4 褐色	富む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	焼土粒子、炭化材料 少量
582P-1		7.5YR3.5/3 暗褐色 色~褐色	富む 含む	CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	主根含む 細根豊富	径10cm以下の0-17cm) 均質に含む
582P-2		7.5YR3.5/3 3/3 暗褐色~褐色	富む	CL	層粒状~ 小亜角塊状	含む あり	0~小	極疎~ 18	中	細根含む	径5cm以下の0-17cm) 径20cm-17cm) 均質

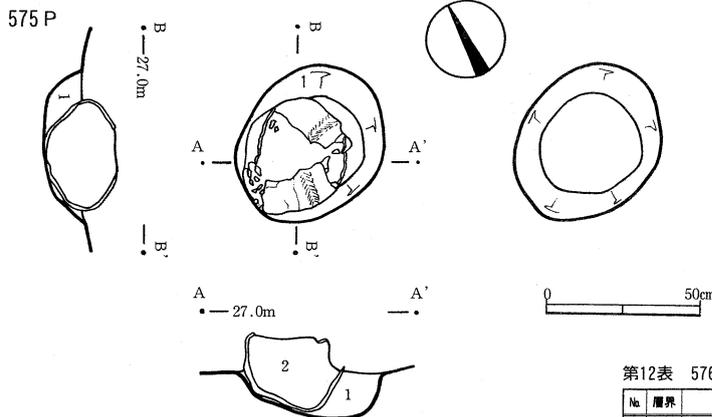


第10図 80D実測図

遺物No.は第12図のNo.と一致

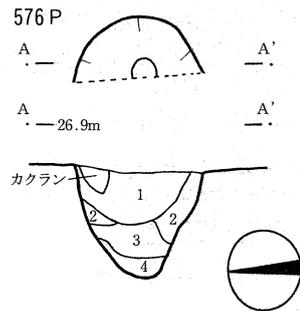
第10表 575P・576P計測表

遺物No.	上面規模 (m)		底面規模 (m)		深さ (m)	その他
	長軸	短軸	長軸	短軸		
575P	0.55	0.45	0.34	0.33	0.28	深さは壺の上端から計測
576P	(0.43)	(0.20)	(0.09)	(0.07)	0.37	約半分が壊されている



第11表 575P土層観察表

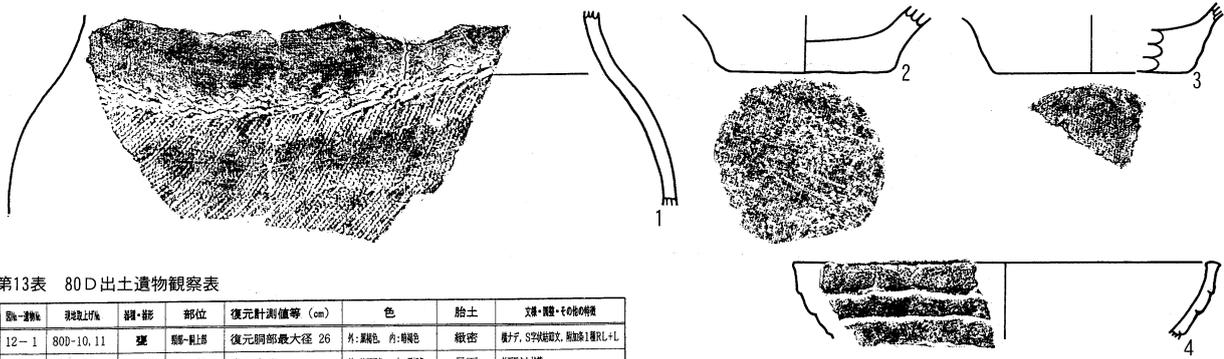
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根
1 (E+上)		7.5YR4/3 褐色	含む	SiC	小亜角塊状	富む	小	16	強	細根含む
2 (土跡)		7.5YR3/4 暗褐色主、 4/3 褐色	富む 含む	SiC	小亜角塊状	含む	小	14	強	細根あり



第12表 576P土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根
1		7.5YR4/3 褐色主 3/3 暗褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む
2	判然	7.5YR4/4 褐色主 4/3 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	16	弱~中	細根あり
3		7.5YR4/3 褐色主 4/4 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根含む
4	明瞭	7.5YR4/4 褐色主 4/3 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む

第11図 弥生時代ピット実測図 遺物No.は第13図のNo.と一致



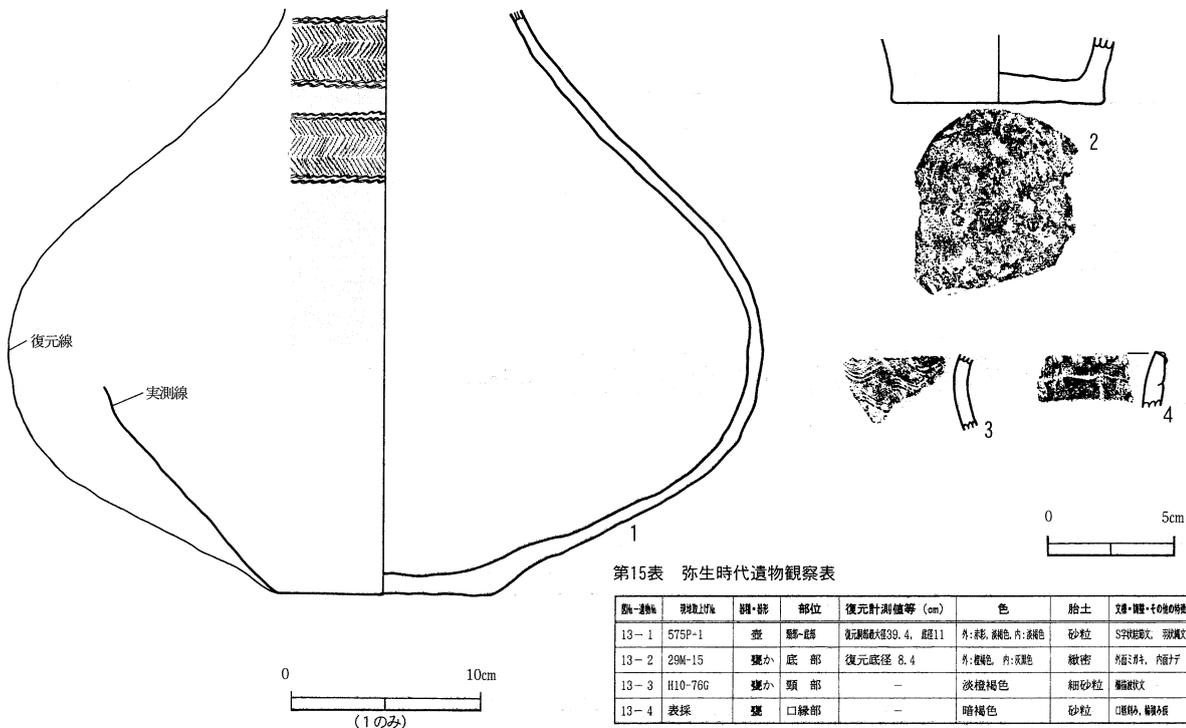
第13表 80D出土遺物観察表

図名・遺物名	発掘土層%	器種・器形	部位	復元計測値等 (cm)	色	胎土	文様・附屬・その他の特徴
12-1	80D-10, 11	甕	胴・胴部	復元胴部最大径 26	外:黒褐色, 内:黒褐色	緻密	肩付, S字状取耳, 胴部1層L+L
12-2	80D-14	甕か	底部	復元底径 7	外:淡褐色, 内:黒褐色	長石	外面赤褐色
12-3	80D-20	甕か	底部	復元底径 7	外:淡褐色, 内:黒褐色	砂粒	肩付, ミ目状
12-4	80D-9	甕か	口縁部	復元口径 16.6	黒褐色	緻密	輪飾あり, 口縁上縁に溝文

第14表 80D出土鉄製品観察表

図名・遺物名	発掘土層%	器種・器形	計測値 (mm)	重量 (g)	特徴等
12-5	80D-16	針三形	全長:46, 針:18, 銚:1	5	穿孔2箇所。穂摘み具

第12図 80D出土遺物実測図



第15表 弥生時代遺物観察表

図名・遺物名	発掘土層%	器種・器形	部位	復元計測値等 (cm)	色	胎土	文様・附屬・その他の特徴
13-1	575P-1	甕	胴・胴部	復元胴部最大径39.4, 底径11	外:赤, 淡褐色, 内:淡褐色	砂粒	S字状取耳, 波線文
13-2	29M-15	甕か	底部	復元底径 8.4	外:黒褐色, 内:淡褐色	緻密	外面ミ目状, 内面肩付
13-3	H10-76G	甕か	頸部	-	淡褐色	細砂粒	波線文
13-4	表採	甕	口縁部	-	暗褐色	砂粒	口縁飾, 輪飾あり

第13図 弥生時代遺物実測図

にカマドの位置を西から北に移したらしい。新しい住居跡を10D-A, 古い方を10D-Bとして報告する。

10D-A

切り合い 西側の一部が27Mによって壊されているが、床面までは達していない。平面形態 方形。主軸方向 N-8.5° -E, 規模 一辺4.9m。深さ 34~60cm。壁溝 幅12~38cm, 深さ7~15cm。カマド部分で途切れる。カマド 北壁中央に存在。火床あり。煙道の張り出しは弱く、壁の線から外へ28cm。支柱穴 P1~P4が支柱穴と考えられる。P1の上面72×64cm, 底面28×20cm, 深さ46cm。深さ28cmにテラス状の段あり。P2の上面54×45cm, 底面径18cm, 深さ54cm。P3の上面66×48cm, 底面28×22cm, 深さ48cm。P4の

上面67×64cm, 底面32×20cm, 深さ60cm。深さ30cmにテラスあり。その他のピット P5は出入口部のピットか。上面44×27cm, 底面27×13cm, 深さ25cm。床面 全体的に硬化し, 土間状の凹凸がある。特に支柱穴に囲まれた部分が硬い。壁 ソフトローム～ハードローム。垂直。覆土 褐色系の土が主体。

10D-B

平面形態 方形と推定。主軸方向 W-7.0° -N。規模 一辺4.0mと推定。深さ 48~68cm。壁溝 東壁～南壁の一部に存在。幅25cm。カマド 西壁中央付近に窪みがあり, 焼けた痕跡が認められ, 砂を含んだ粘土, 焼土, 炭化材片が散布していた。カマドの痕跡と判断。炉 住居中央部に上面40×20cm, 底面30×6cmの窪みを検出。P6としたが, 上端が焼けており, 炉の痕跡か。支柱穴 AのP1～P4と同じか。B検出に伴い, P1～P4を再検討したところ, P1・P3が大きく掘り広がった。P1・P3・P4の底面には段差があり, 柱を移動した痕跡と考えられる。その他のピット P7は出入口部のピットか。上面20×18cm, 底面10×5cm。P8は, 上面径28cm, 底面20×14cm, 深さ4cmの明瞭な窪み。床面 土間状。

遺物 A・Bの総数166点。土師器・須恵器が152点, 99%を占める。ほとんどがAに属する。図版に耐え得るものがほとんど無く, 土師器甕3点, 須恵器甕1点, 坏1点を図示した。坏には線刻が認められる。また, 鉄製品が2点出土しているが, いずれも27Mと交わる所からの出土であるため, 10Dに伴うものとは限らない。

(2) 77D

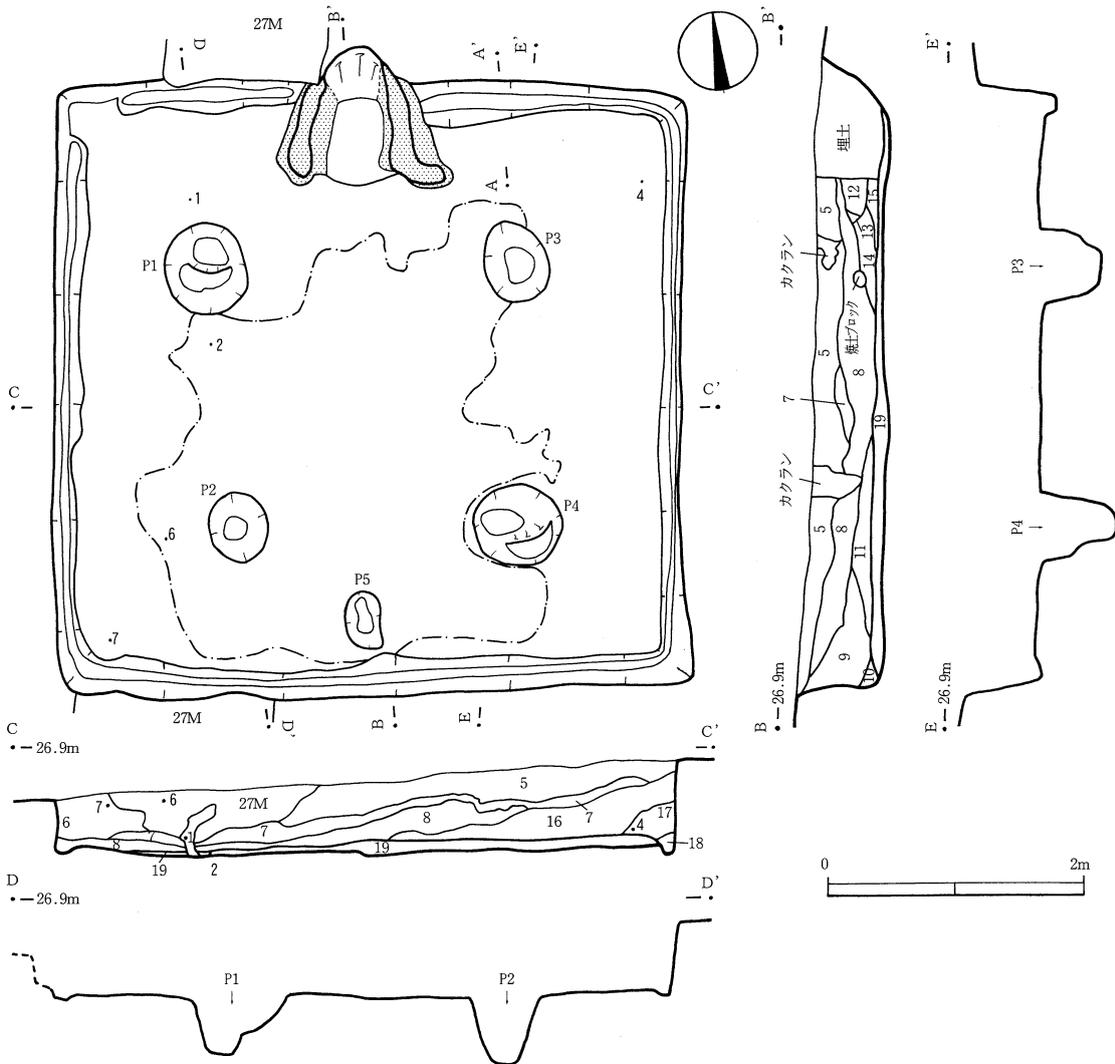
切り合い 北側が76Dによって, 西側が30M・31Mによってそれぞれ壊されており, 全体の2分の1程度の床面と壁, 柱穴, カマドの痕跡等が残っている。平面形態 方形。主軸方向 W-19° -N。規模 残存部2.8×3.5m。推定規模は4.4×4.3m。深さ 60cm。壁溝 幅16~30cm, 深さ6cm。カマド 西壁中央に存在したらしいが, 30Mによって破壊され, 火床の痕跡のみが残る。支柱穴 P1～P4が支柱穴と考えられる。P1の上面58×50cm, 底面26×23cm, 深さ73cm。深さ66cmのところにはテラス状の段がある。P2の上面66×60cm, 底面26×20cm, 深さ78cm。P1と同様深さ66cmのところにはテラスがある。P3の上面61×58cm, 底面22×20cm, 深さ69cm。P4の上面径38cm, 底面25×20cm, 深さ65cm。P4は76D内で検出。76Dの貼床に覆われ, 76DのP3・P11に切られる。その他のピット P5は出入口部のピットか。上面52×40cm, 底径14cm, 深さ42cm。覆土上に硬化面が残っていた。P6の上面50×40cm, 底面15×7cm, 深さ10cmで凹み状。覆土に焼土ブロック・焼土粒子・炭化材片を含む。床面 ローム主体。中央部に硬化面が広がる。壁 残存部は垂直。覆土 褐色土・暗褐色土が主体。77Dの存在に気付くのが遅れたため, セクションベルトの設定がうまくいかなかった。このため, 覆土について図示できなかった。

遺物 総数255点。うち241点が土師器・須恵器であった。本遺構においても図版に耐え得る遺物は少なかった。土師器甕6点, 坏1点, 須恵器坏3点を図示した。

(3) 79D

切り合い 中央部などを30M・31Mによって壊される。80Dを切る。平面形態 方形。主軸方向 W-14° -N。規模 3.60×3.76m。深さ 40~46cm。壁溝 東半のみに存在。幅14~30cm, 深さ4cm。カマド 西壁中央に存在。袖の内面は焼けて赤色化している。煙道の張り出しは, 壁の線よりも外へ66cm出ている。ピット 3基確認したが, いずれも支柱穴ほどの規模ではない。P1は出入口部のピットか。上面径26cm, 底径12cm, 深さ30cmの円筒状。P2は上面径24cm, 底面20×12cm, 深さ30cm。P3は上面径24cm, 底面15×8cm, 深さ10cm。床面 30Mに大きく壊されている。平坦。ロームと褐色土が主体。硬化面はカマド前面と, P1周辺～住居中央付近に認められる。壁 残存部は垂直。覆土 褐色土が主体。

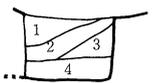
遺物 総数99点と少なく, 図版に耐え得るものも少なかった。須恵器のみを図示した。



第17表 10D土層観察表 (B-B', C-C')

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	締密度	可塑性	植物根	その他
5		7.5YR4/3, 4/4 褐色 3/3 暗褐色混り合	含む 富む	SiL	小亜角塊状	含む	小	19	弱	主根あり 細根富む	径 1cm ⁰ -1.7 ⁰ 多量 含む
6	判然	7.5YR4/4, 4/6 褐色	含む	SiL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	
7		7.5YR3/3 暗褐色 3/2 黒褐色 斑状	富む	SiL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	
8	明瞭	7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	径 3cm ⁰ -1.7 ⁰
9	判然	7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	SiL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根富む	径 1cm ⁰ -1.7 ⁰
10		7.5YR4/3, 4/4, 4/6 褐色	含む	SiC	屑粒状~ 小亜角塊状	含む	0~小	15	中	細根含む	0-A 混じり。壁溝覆 土
11		7.5YR4/3, 4/4, 4/6 褐色 3/3 暗褐色	含む~ 富む	SiL	亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	径 3cm ⁰ -1.7 ⁰
12	明瞭	7.5YR6/6 橙色 5/4 土間褐色	あり	L	小亜角塊状	あり	中	21	弱	細根含む	7Fの一部
13	明瞭	7.5YR6/6 褐色	なし	L	亜角塊状	あり	小	23	弱	細根あり	粘土・砂・焼土
14	明瞭	7.5YR4/4 褐色	含む	SiL	小亜角塊状	含む	小	19	0	細根含む	
15	漸変	7.5YR4/4 褐色	含む	SiL	小亜角塊状	含む	小	22	0	細根あり	
16	漸変	7.5YR4/3 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	17	中	主根あり 細根富む	径 1cm ⁰ -1.7 ⁰ 混
17		7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
18		7.5YR4/3, 4/4, 4/6 褐色	含む	SiC	屑粒状~ 小亜角塊状	含む	0~小	13	強	細根富む	
19		7.5YR4/4, 4/3 褐色	含む	SiCL	亜角塊状	含む	小	25	中	細根含む	

A A'
●-26.9m

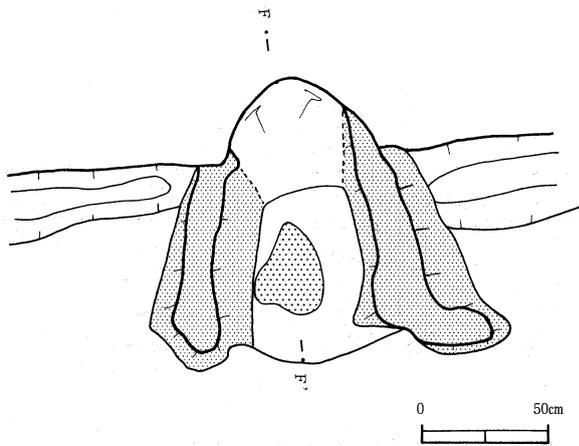


0 50cm

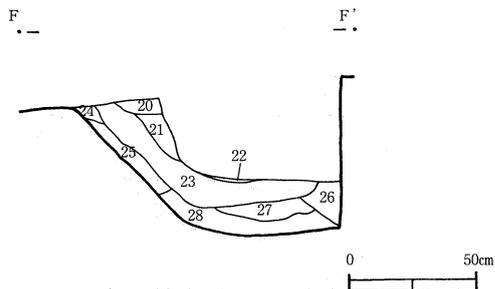
第16表 10D土層観察表 (A-A')

No	色	特徴
1	暗褐色土	黄色スコリア多量含む
2	褐色土	黄色スコリア、径 2-3cm 0-1.7 ⁰ 多量含む
3	暗褐色土、 少し黒色味	黄色スコリア多量含む。径 5cm 0-1.7 ⁰ 少量含む
4	褐色土	1~3に比べしまり強。0-A, 0-1.7 ⁰ 黄、黄色スコ リア多量含む。

第14図 10D-A実測図 遺物No.は第17図のNo.と一致

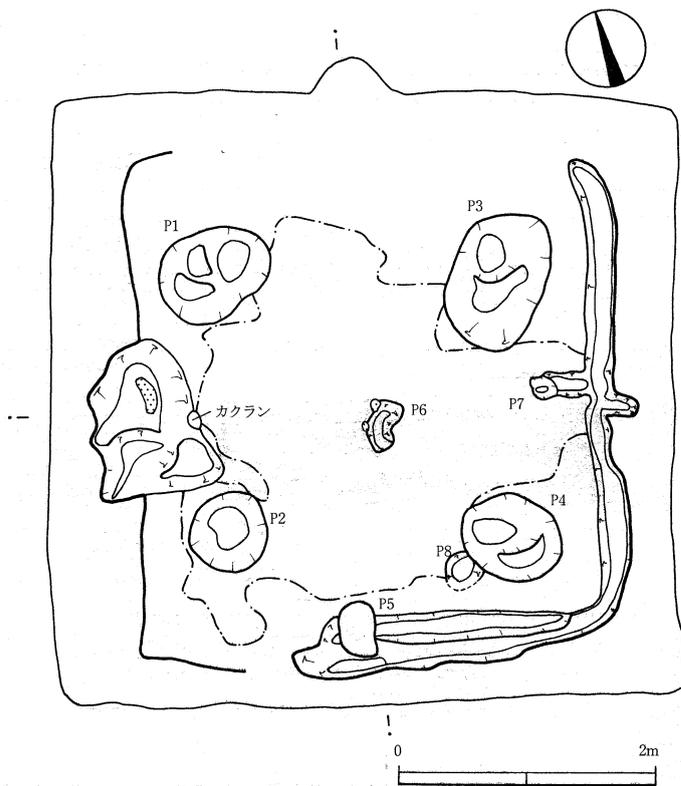


第15図 10D-Aカマド実測図

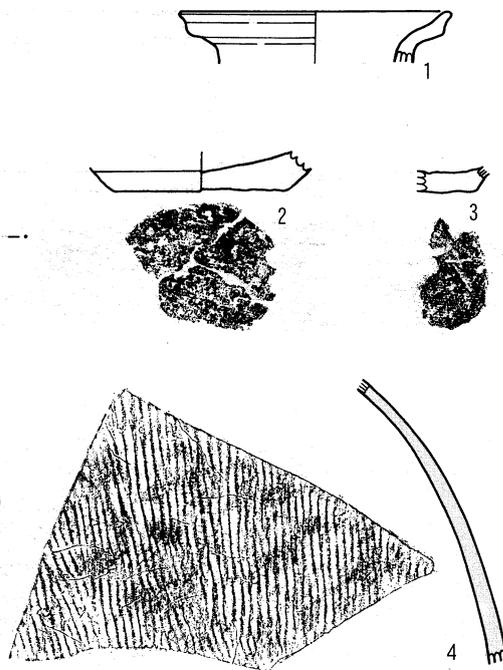


第18表 10D-Aカマド土層観察表

No	色	特徴
20	灰褐色土	褐色土を主とし、粘土が混じる
21	灰白色粘土	暗褐色土、焼けた粘土ブロックが混じる
22	灰褐色土暗	褐色土を主とし、粘土が少量混じる
23	灰白色粘土	21よりもさらに粘土量が多くなる。褐色土、焼けた粘土が混じる
24	暗黄褐色土	粘土が微量混じる
25	褐色土、粘土、灰土、灰が混じり合う	
26	褐色土	粘土、焼土が少量混じる
27	赤褐色土	焼土、焼土ブロックを主とする。粘土が混じる
28	淡赤褐色土	褐色土と粘土が混じり合い全体に焼けて赤色味を帯びる。下面に火床がある。

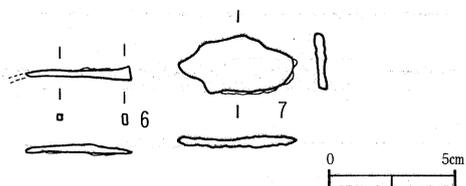


第16図 10D-B 実測図



第19表 10D出土遺物観察表

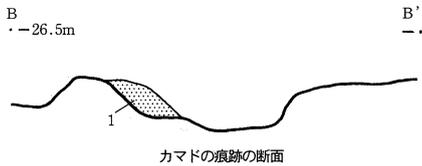
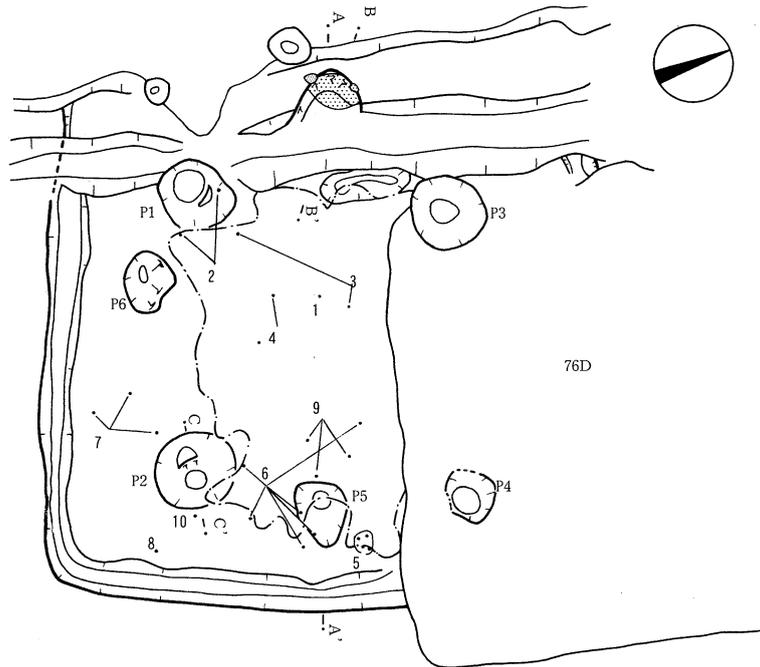
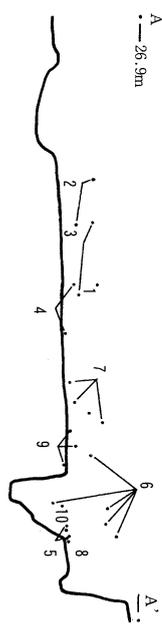
図号-遺物	現物寸法	形状・形	部位	復元寸法(m)	色	胎土	調整・その他の特徴
17-1	45	土器 環	口縁部	-	橙褐色	長石、砂粒	口縁部へのつまみ上げ顯著
17-2	120	土器 鉢	底部	復元底径 6.8	外: 黒色、内: 褐色	砂粒	底面へツブ。底面に黒色・褐色物質付着
17-3	一括	土器 環	底部	復元底径 8	外: 灰、内: 黒色	細かい砂粒	内面に黒褐色物質付着
17-4	29	鉄器 環	胴部	-	灰色	緻密	外: 暗黒、内: 暗黒、やや特出し、薄皮
17-5	一括	鉄器 環	口縁部附近	高さ 3、復元径 12、復元底径 8	灰色	砂粒、雲母	口内、底部へツブ、外面に黒



第20表 10D出土鉄製品観察表

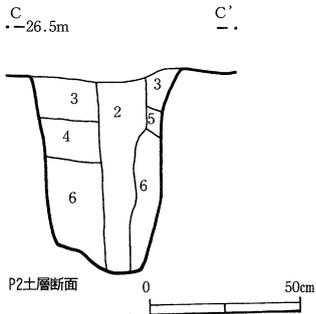
図号-遺物	現物寸法	形状・形	寸法(m)	重量(g)
17-6	65	釘状	身長: 45、幅: 6.5、厚: 2.5	1.3
17-7	94	板状	身長: 50.5、幅: 25.5、厚: 4	11.4

第17図 10D出土遺物実測図



第21表 77Dカマド土層観察表

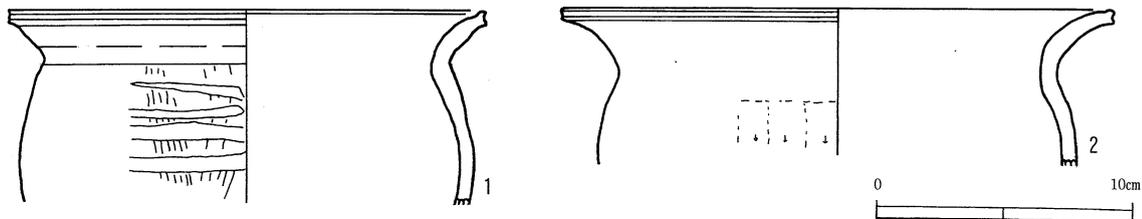
No	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	5YR4/4 赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	含む	L	小亜角塊状	富む	小	17	弱~中	細根含む	粘土球、粘土片、粘土



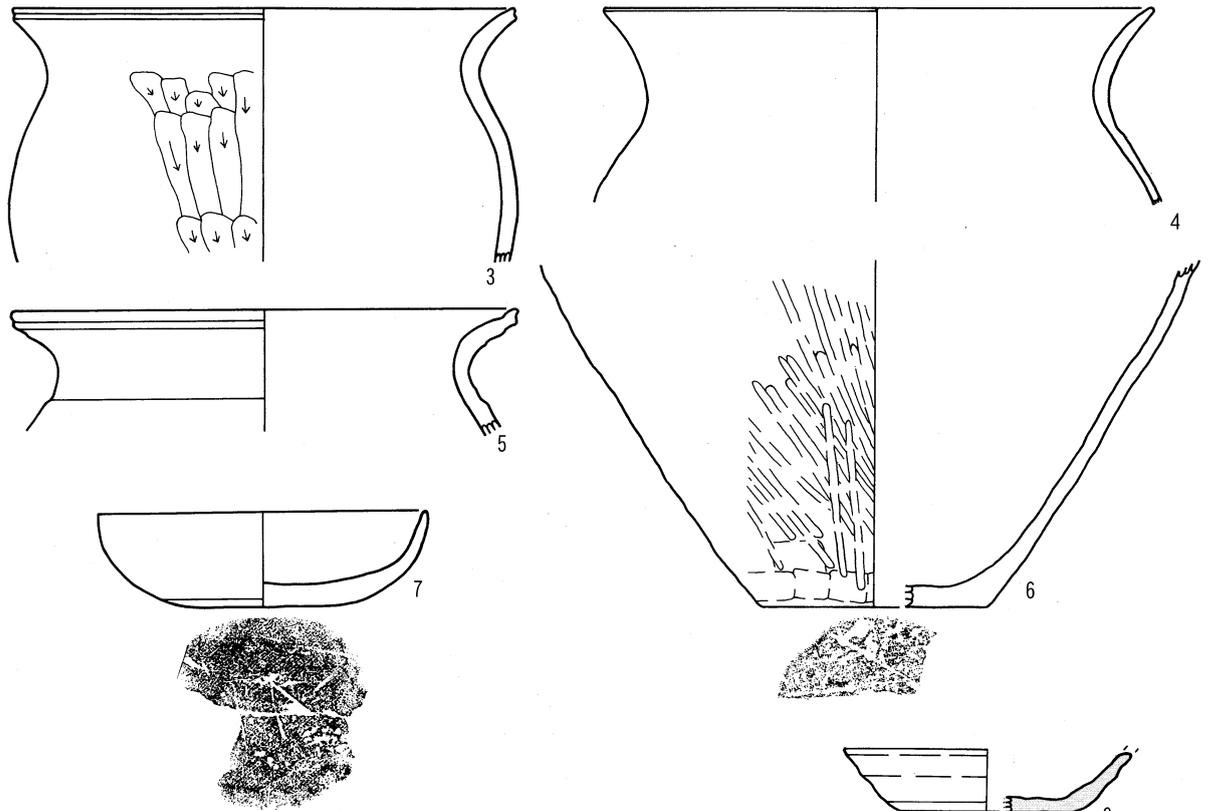
第22表 77DP2土層観察表

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
2		7.5YR3/3 暗褐色 4/3, 4/4 褐色	富む~含む	Sic	屑粒状~小亜角塊状	含む	0~小	8	強	細根含む	下層は特に脆い柱状
3	明瞭	7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	Sic	小亜角塊状	富む	小	20	強	細根あり	貼床。0-4 主体
4	判然	7.5YR4/4 褐色	含む	Sic	屑粒状~小亜角塊状	含む	0~小	15	強	細根含む	
5		7.5YR3/3 暗褐色 4/4 褐色	富む	Sic	屑粒状~小亜角塊状	含む	0~小	17	強	細根あり	
6	漸変	7.5YR4/4 褐色	含む	Sic	屑粒状	なし	0	4	強	細根あり	径3cmの0-4707

第18図 77D実測図 遺物No.は第19図・第20図のNo.と一致

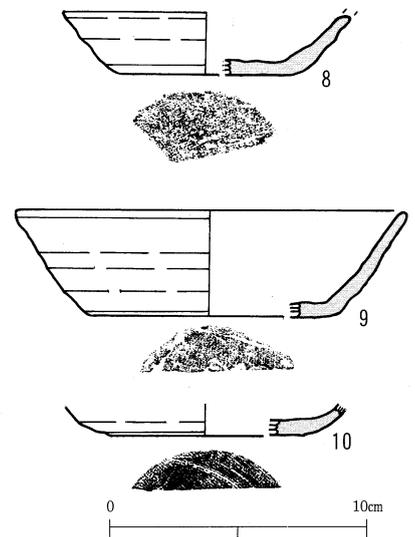


第19図 77D出土遺物実測図(1)



第23表 77D出土遺物観察表

図・遺物	所在地	種類・形	部位	直径(単位)(cm)	色	胎土	調整・その他の特徴
19-1	2	土器 壺	口縁-肩上部	復元径18.6, 復元口径17.7	外:淡褐色, 褐色, 紫褐色, 内:紫褐色, 褐色	砂粒, 赤褐色スリツ	外:ナシ, ハナ形跡ナシ, 内:ナシ, 輪郭二次成形
19-2	16.35	土器 壺	口縁-肩上部	復元口径 21.7	外:紫褐色, 淡褐色, 内:紫褐色, 淡褐色, 灰褐色	砂粒, 雲母	外:ナシ, ハナ形跡 ナシ
20-3	1.32	土器 壺	口縁-肩上部	復元口径 20	外:紫褐色, 褐色, 灰褐色など, 内:淡褐色	砂粒, 雲母	外:ナシ, ハナ形跡 ナシ
20-4	4.6	土器 壺	口縁-腹部	復元口径 21.4	橙褐色	砂粒, 小石	外:ナシ, ハナ形跡 ナシ, 輪郭二次成形
20-5	88, 89, 90, 91	土器 壺	口縁-腹部	復元口径 20	外:淡褐色, 褐色, 紫褐色, 内:淡褐色, 淡褐色	砂粒	外:ナシ, ハナ形跡 ナシ
20-6	62, 53, 55, 63, 54, 107	土器 壺	肩下部-底部	復元口径 18.6	灰褐色, 淡褐色	砂粒, 雲母	外:ナシ, 内:ナシ, 黒点, 輪郭二次成形
20-7	45.44, 49	土器 環	2/3 強	復元径13, 直径 6, 高さ3.8	外:淡褐色, 紫褐色, 紫褐色, 内:淡褐色, 淡褐色, 紫褐色	黒い砂	外:ハナ形跡, ミナナ 底面: 木炭, 内:ミナナ
20-8	66	須磨 環	口縁(厚)-底部	復元径11, 復元径 6.6, 高さ 2.4	灰白色	砂粒, 雲母	口縁, 底部下縁ハナ形跡, 底面:ハナ形跡, 口縁は割れ口を埋めて整形している
20-9	78, 83, 85	須磨 環	口縁-腹部	復元径15.2, 復元径 9.2, 高さ 4.2	灰色, 灰黒色	砂粒, 雲母	口縁, 外:底部下縁ハナ形跡, 底面:ハナ形跡, 内:ナシ
20-10	103	須磨 環	底部	復元径 7.4	青灰色	白色砂質物(砂)	口縁, 底面:ハナ形跡 治金



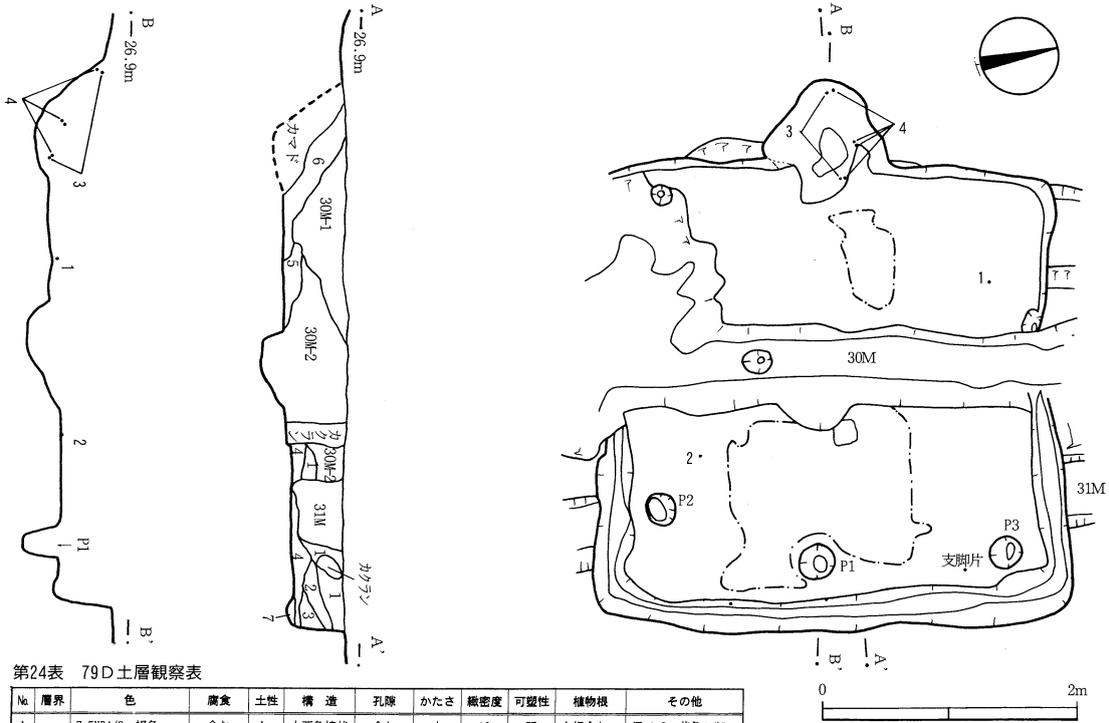
第20図 77D出土遺物実測図(2)

5 平安時代

竪穴住居跡76Dと78D, 土坑572P, 577P, 579Pが, 平安時代に属すると考えられる。

(1) 76D

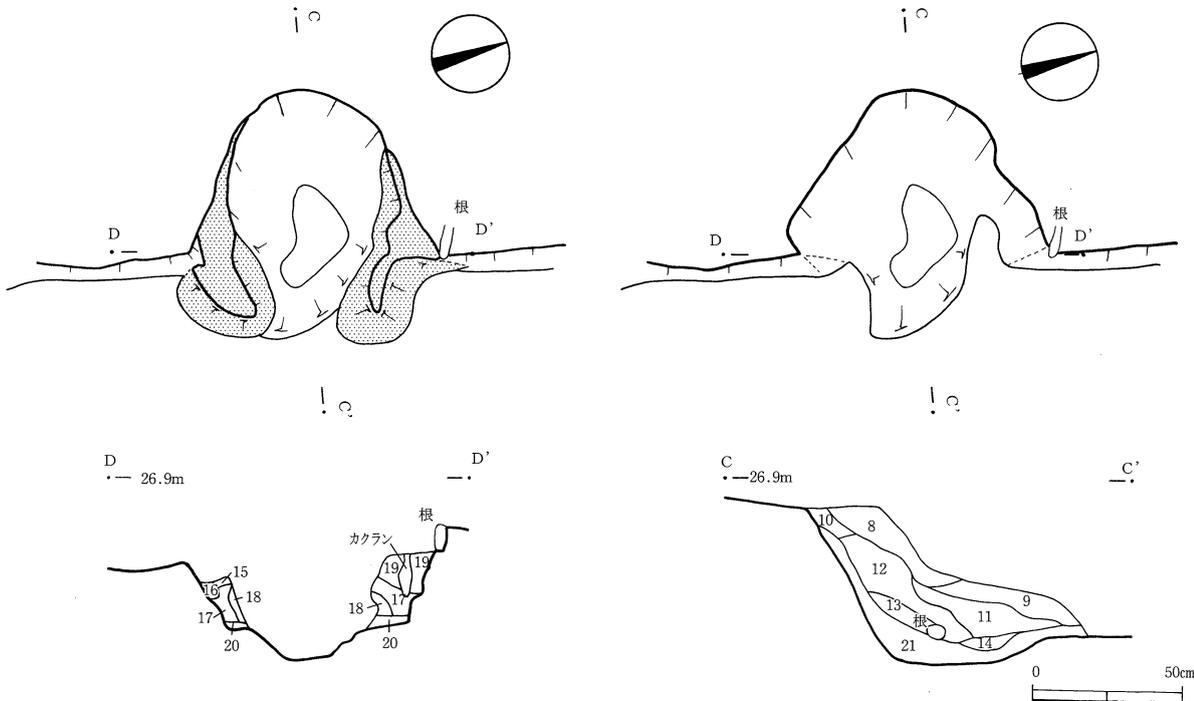
本住居跡からは, 10Dと同様, 上下2枚の床面が検出された。古い住居の床を埋め, 壁を拡張し, さらにカマドの位置を西から北に移したらしい。また, 古い住居には柱穴の位置にピットが存在したが, 新しい住居に柱穴は無かった。新しい住居跡を76D-A, 古い方を76D-Bとして報告する。



第24表 79D土層観察表

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	締密度	可塑性	植物根	その他
1		7.5YR4/3 褐色	含む	L	小歪角塊状	含む	小	19	弱	主根含む 細根含む	径 1-2mm黄色スリ7
2	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	含む	L	小歪角塊状	含む	小	19	中	細根含む	
3	明瞭	7.5YR3/3 4/4 褐色	含む 含む	SiCL	小歪角塊状	含む	小	16	中	細根含む	ロム混じり。崩落土
4	判然	7.5YR4/3.4/4 褐色	含む	SiCL	小歪角塊状	含む	小	21	中	細根含む	
5	漸変	7.5YR4/3.4/4 褐色	含む	CL	小歪角塊状	含む	小	20	中	細根含む	径 5mm黄色スリ7
6		7.5YR4/3 褐色	含む	SL	小歪角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	砂多量。虫好
7		壁溝覆土									

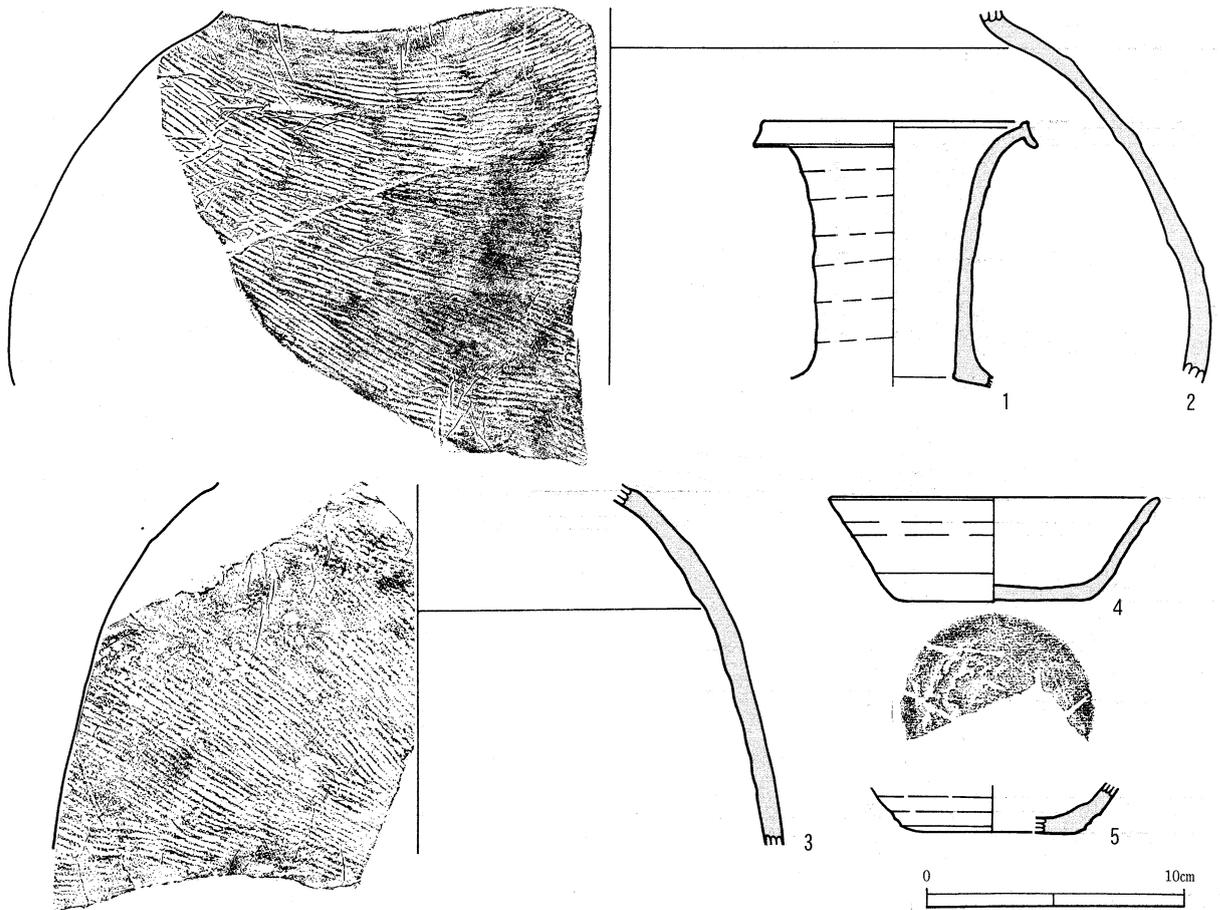
第21図 79D実測図 遺物No.は第23図のNo.と一致



第22図 79Dカマド実測図

第25表 79Dカマド土層観察表

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
8	漸変	7.5YR4/3 褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	17	弱~中	細根含む	焼土少量
9		5YR4/4 紅赤褐色	含む	SL	層状~小粒状	含む	0~小	20	弱	細根含む	直径2cmの柱状灰土
10		5YR3/4 暗赤褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	17	弱~中	細根あり	焼土多量
11	他と判然	5YR5/6 明赤褐色	なし	CL	層状~小垂角塊状	含む	0~小	15	中	主根含む 細根含む	
12	他と明瞭	5YR4/6 赤褐色 2.5YR5/8 明赤褐色	なし	L	層状~小垂角塊状	含む	0~小	15	弱	細根含む	焼土と径2-3cmの焼土70%
13		5YR3/4 暗赤褐色	含む	L	層状~小粒状	含む	0~小	12	弱~中	細根含む	
14	明瞭	7.5YR4/3 褐色	含む	L	層状	なし	0	12	弱	なし	0-70%
15	明瞭	5YR4/3 紅赤褐色 2.5YR3/6 暗赤褐色	あり	SL	垂角塊状	含む	小	22	弱	細根あり	
16	明瞭	7.5YR4/4 褐色	含む	SL	層状	なし	0	16	0	なし	
17	明瞭	2.5YR5/8 明赤褐色	なし	SL	小垂角塊状	含む	小	21	弱	細根あり	
18	判然	5YR4/6 赤褐色 2.5YR5/8 明赤褐色	なし	LS	層状~小垂角塊状	なし	0~小	16	0	細根あり	内壁の焼けた部分
19	他と判然	7.5YR5/6 明褐色	なし	SL	垂角塊状	含む	小	23	弱	細根あり	
20	他と明瞭	5YR3/4 暗赤褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	16	弱	細根あり	基礎の土。焼土粒子
21	全層時に掘り広がった部分										



第26表 79D出土遺物観察表

図-遺物No	発見層位No	器・形	部位	発見深さ(m)	色	胎土	調整・その他の特徴
23-1	2	須磨器片	口縁一部	口径 11.1	灰色、灰褐色、緑灰色(陶質)	黒色粒子	口内、器子、筋線、調整部
23-2	1	須磨器 甕	胴下-胴上部	復元胴径 30.6、復元胴高径 47	淡灰褐色	黒色、灰石、小石	外：筋線、器子、叩き目 内：器子、筋線
23-3	23.19	須磨器 甕	胴上部	復元胴高径約定 28.4	外：淡褐色、緑色、暗褐色 内：淡褐色	緑褐色カコリ、灰石、器石	外：叩き目
23-4	21.24 20.25	須磨器 環	口縁一部	復元径12.8、口径 7.5、高さ 4.1	灰色、灰褐色	小石粒	口内、外：胴下縁の筋線、筋線、叩き目、器子
23-5	一括	須磨器 環	底部	復元底径 6.4	淡褐色	緻密	口内、外：胴下縁の筋線

第23図 79D出土遺物実測図

76D-A

切り合い 西側の一部が30M・31Mによって壊されている。逆に77D, 576Pを切っている。平面形態 方形。主軸方向 N-10°-E。規模 東西3.6×南北4.0m。深さ 35~40cm。壁溝 幅20~35cm, 深さ10cm。カマド部分で途切れる。カマド 北壁中央に存在。粘土量が多く、特に東側に大きく広がっている。煙道の張り出しは壁の線よりも54cm 外に出る。ピット 4基がAに属するものと判断した。いずれも主柱穴ほどの規模ではないが、P1・P3の掘り込みは比較的深い。そのP1・P3はカマドの反対側に並ぶ。P1は上面径30cm, 底径10cm, 深さ57cm。P3は上面径33cm, 底面14×8cm, 深さ46cm。77DのP4と交わる。西壁の壁溝内にP9とP10が並ぶ。P9は上面25×22cm, 底面4×2cm, 深さ19cm。P10は上面径21cm, 底面10×7cm, 深さ19cm。床面 暗褐色土主体で、カマド構築材と同じ粘土と砂が含まれていた。硬化面は住居東半に認められる。壁 残存部は垂直。覆土 上部は暗褐色系の土が主体を占め、床面直上には第24図土層断面の4・5のように焼土と炭化材が主体となる土が堆積していた。炭化材の出土状況は第29図に示した。

76D-B

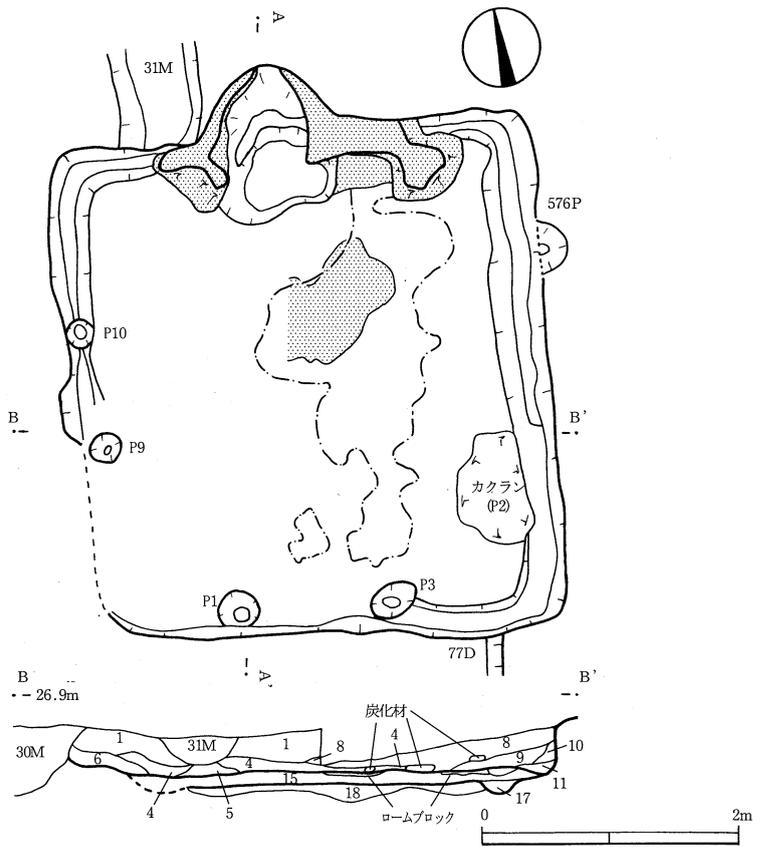
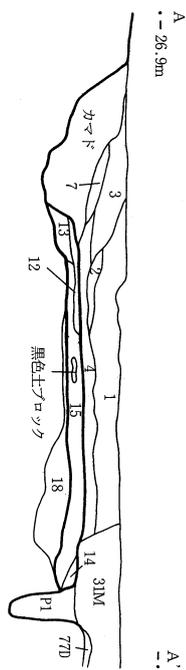
平面形態 方形と推定。主軸方向 W-11°-N。規模 東西3.0×南北3.4m。深さ 47~50cm。壁溝 幅12~30cm, 深さ10cm。新旧両カマド部分と北西部分で途切れる。カマド 西壁中央に存在。径1mの円形の窪みがあり、砂まじりの粘土や焼土、炭化材片、ロームブロックなどが認められたので、カマドの痕跡と判断した。主柱穴 P4~P7が主柱穴の位置にある。但し、いずれも浅いものや底径の小さいものばかりである。P4の上面44×36cm, 底面20×16cm, 深さ17cm。P5の上面径35cm, 底面20×13cm, 深さ17cm。P6の上面径30cm, 底面10×7cm, 深さ34cm。P7の上面径44cm, 底径7cm, 深さ65cm。その他のピット P8の上面30×28cm, 底面8×6cm, 深さ13cm。出入口に伴うピットか。P11の上面径35cm, 底径10cm, 深さ22cm。77DのP4と交わる。床面 貼床が認められる。掘り方は深いところで25cmである。頗る硬い硬化面が住居中央に広がる。

遺物 A・B合わせて総数1,806点と、今回の調査遺構の中で最も遺物量が多い。出土状況は第28図に示したように、破片化した遺物が住居内に散らばっていたらしい。土師器の坏と甕が主体を成す。土師器の坏に墨書が3点認められた(第32図46,47,48)。土師器の皿が出現している(第33図52~55)。甌は須恵器が主体である。他に手捏ね土器(第36図83)、鎌・刀子・釘等の鉄製品(同図74~82)、砥石(同図84・85)、軽石(同図86)、礫(同図87)が出土した。砥石は、きめの細かい石材(84)とやや粗い石材(85)であり、前者が仕上げ用、後者が荒砥かもしれない。軽石も砥石として使用された可能性が高いが、小片のため擦痕は明瞭でない。礫は、重みのある石で一部欠けている。この他、図示しなかったが、雲母片岩と見られる板状の脆い石が東壁近くで出土した。

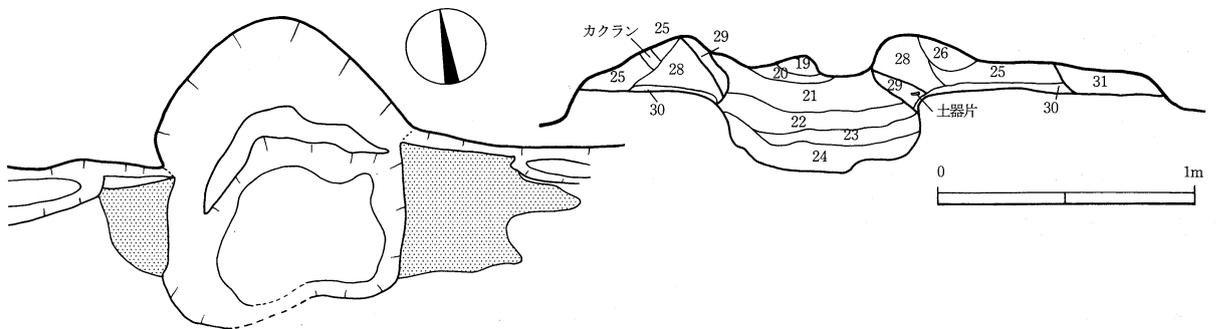
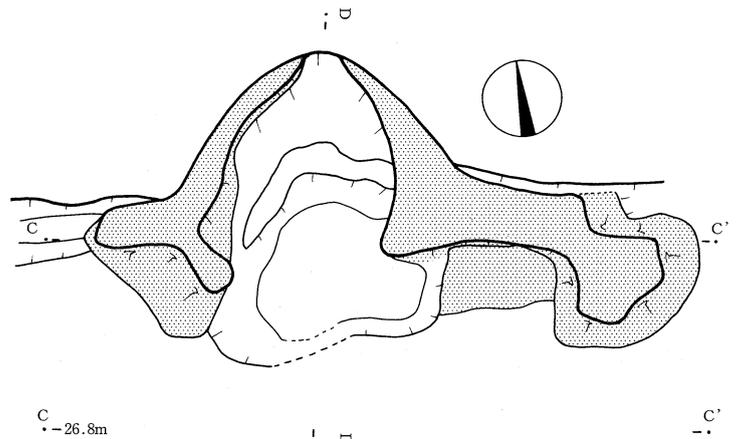
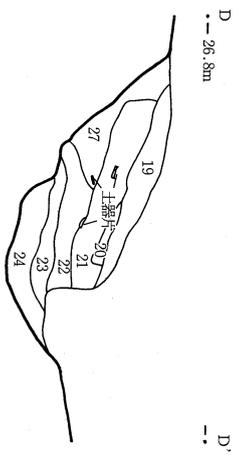
(2) 78D

切り合い 東側が部分的に29M・32Mによって壊されている。平面形態 方形。主軸方向 W-34°-N。規模 3.10×3.20m。深さ 21~32cm。カマド 北西壁中央に存在。焼けて赤色化し硬化した部分が多く認められ、特に天井部が橋状に残っており良好なものであった。またカマド内に東海系須恵器の甕の大破片(第41図15)が出土した。煙道の張り出しは弱く、壁の線より外へ17cm。ピット いずれも貼床調査時に検出した。P1の上面42×39cm, 底径10cm, 深さ30cm。P2は上面37×28cm, 底面20×14cm, 深さ10cm。床面 ソフトローム面。住居中央部に硬化面が広がる。貼床は認められるが、深さ3cm程度。壁 ソフトローム。垂直。覆土 暗褐色・褐色系の土が主体。床面直上に焼土・炭化材を多量に含む層があった。

遺物 総数243点。土師器の甕・坏・高台付皿の他、前述した東海系の須恵器などが出土した。また、柄の木質が残った刀子、荒砥と仕上げ用のセットで出土した砥石、モモの種と見られる炭化種子などがある。炭化



第24図 76D-A 実測図



第25図 76D-Aカマド実測図

第27表 76D土層観察表

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他	
1	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	L	小亜角塊状	富む	小	19	弱	主根あり 細根富む	目土、粘り、炭灰 鉄屑、ローム	
2	漸変	7.5YR3/3 暗褐色 4/2 灰褐色 5/4 灰褐色	富む～ 含む	L	小亜角塊状	富む	小	20	弱	細根あり	カマドからの粘土 炭土粒子	
3	明瞭	7.5YR5/4 灰褐色 4/2 灰褐色	含む	L	小亜角塊状	富む	小	22	弱	細根含む	カマドからの粘土 砂主体。炭土粒子	
4	明瞭	2.5YR4/6 赤褐色 5YR3/3 暗赤褐色	含む～ 富む	CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	炭土主体。炭化材	
5	4の中の特に炭化材がある部分											
6		7.5YR4/3 褐色 3/3 暗褐色	含む～ 富む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	19	弱	細根含む	炭土粒子	
7		7.5YR4/3 褐色 5/4 灰褐色	含む	CL	小亜角塊状	富む	小	21	弱	細根含む	粘土。炭土粒子	
8	判然	7.5YR4/3 褐色	含む	CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	炭土まばら	
9	判然	7.5YR4/3 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	炭土粒子	
10	判然	7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	SiL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	ローム 混じり	
11	判然	7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	SiL	小亜角塊状	富む	小	17	弱～中	細根含む	Aの難上。ローム、炭灰	
12	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色主体 4/4 褐色	富む	SiL	亜角塊状	富む	小	25	弱～中	細根あり	炭土粒子、炭化材片 粘土、砂	
13	明瞭	5YR3/3 暗赤褐色 7.5YR4/4 褐色	富む～ 含む	LiC	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	炭土粒子、炭土70% 炭化材片、粘土、ローム	
14	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	SiC	小亜角塊状	含む	小	22	強	細根含む	目土のローム70%以上	
15	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色 4/3, 4/4 暗褐色	富む～ 含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小～中	23	中	細根含む	Aの粘り床の土	
16	他と明瞭	7.5YR3/4 暗褐色	富む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根含む	炭土粒子	
17	明瞭	7.5YR4/3 褐色	含む	SiC	層粒状～ 小亜角塊状	含む	0～小	16	中	細根含む	Bの壁薄覆土。ローム 混じり	
18		7.5YR3/2 黒褐色 3/3 暗褐色	富む	SiC	小亜角塊状	富む	小	15～18	強	細根含む	目土70～80%、炭灰、 鉄屑、Bの難上	

第28表 76D-Aカマド土層観察表

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
19	明瞭	7.5YR5/4 灰褐色	あり	L	亜角塊状	富む	小	22	弱	細根含む	砂混じり粘土主体
20	明瞭	2.5YR4/6 赤褐色	含む	L	顆粒～小動線	含む	0～小	13	0～弱	細根含む	炭土70%
21	明瞭	5YR4/4 灰赤褐色	含む	CL	顆粒～小動線	含む	0～小	9	弱～中	細根含む	炭土70%、灰、鉄屑
22	明瞭	5YR3/3 暗赤褐色 7.5YR5/3 灰褐色	富む	CL	層粒状	なし	0	12	中	細根含む	炭土粒子、灰、炭化材 片
23	漸変	5YR3/4 暗赤褐色	富む	CL	層粒状	なし	0	9	中	細根含む	炭土粒子
24	漸変	5YR4/4 灰赤褐色	含む	CL	層粒状	なし	0	12	中	細根含む	炭土70%、ローム70%
25	明瞭	7.5YR5/4 灰褐色	あり	L	亜角塊状	富む	小	22	弱	細根含む	砂混じり粘土
26	明瞭	7.5YR4/3 褐色 5/4 灰褐色	含む	L	亜角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	粘土混じり
27	判然	5YR3/4 暗赤褐色	富む	L	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	炭土、粘土、ローム
28	明瞭	7.5YR5/4 灰褐色 4/3 褐色	あり	L	小亜角塊状	含む	小	24	弱	細根あり	砂混じり粘土主体。炭 土粒子
29	明瞭	7.5YR5/4 灰褐色 2.5YR4/6 赤褐色	あり	L	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根あり	28の焼けた部分
30	判然	7.5YR6/4 灰褐色	なし	LiC	小亜角塊状	含む	小	25	中	細根あり	28の焼けた粘土、炭灰
31		7.5YR4/3 褐色 5/4 灰褐色 (少)	含む	LiC	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	炭土、炭土70%、炭灰、 鉄屑、Bの難上

種子の類似資料は、市内の井戸向遺跡D067号遺構に「バラ科の種子」の出土例がある（千葉県文化財センター1987）。また、千葉市山田水呑遺跡では炭化種子9点がモモの果核とされている。本遺跡の資料に見られる破損部と同様のものが山田水呑例にも見られ、それはアカネズミがかじった痕跡と分析されている（山内1977）。

(3) 572 P

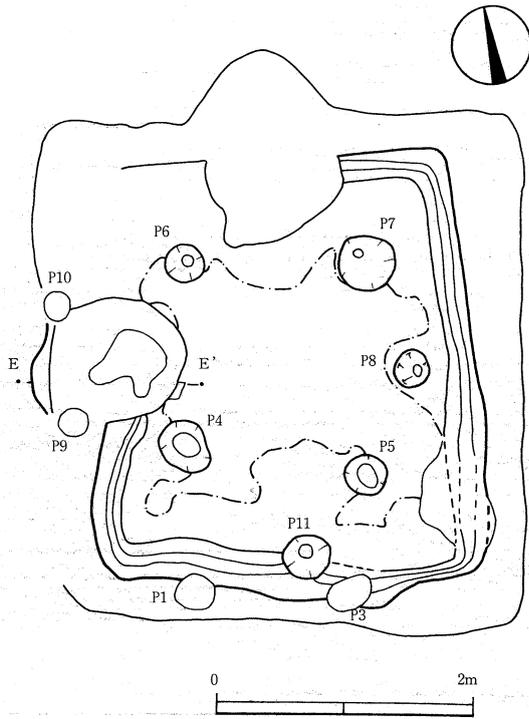
平面形態は不整形。土師器の小片が1点出土した。

(4) 577 P

平面形態は長楕円形。凹み状の土坑である。遺物は、銅鏃1点（第43図）、土師器片6点、陶器片1点、チャートや安山岩等の剥片8点等が出土した。土師器の中には体部下端へラ削りが施された坏の底部破片がある。

(5) 579 P

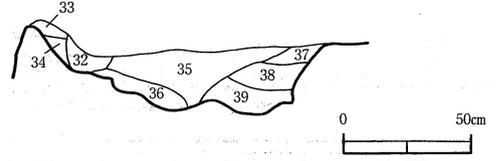
平面形態は楕円形で、底面に小ピットがある。遺物は、縄文土器片5点、土師器片8点、陶器片1点が出土した。



第26図 76D-B実測図

E
--- 26.9m

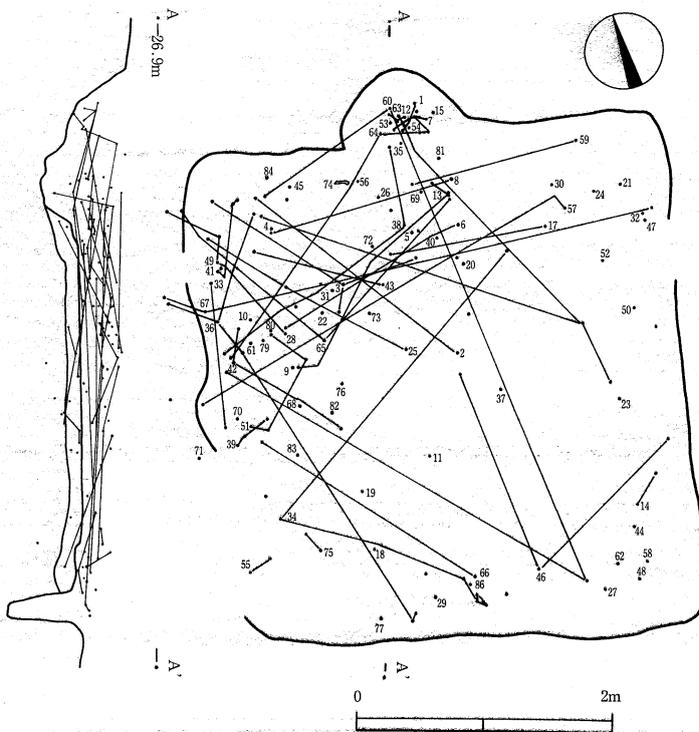
E'



第27図 76D-Bカマドの痕跡の実測図

第29表 76D-Bカマド痕跡土層観察表

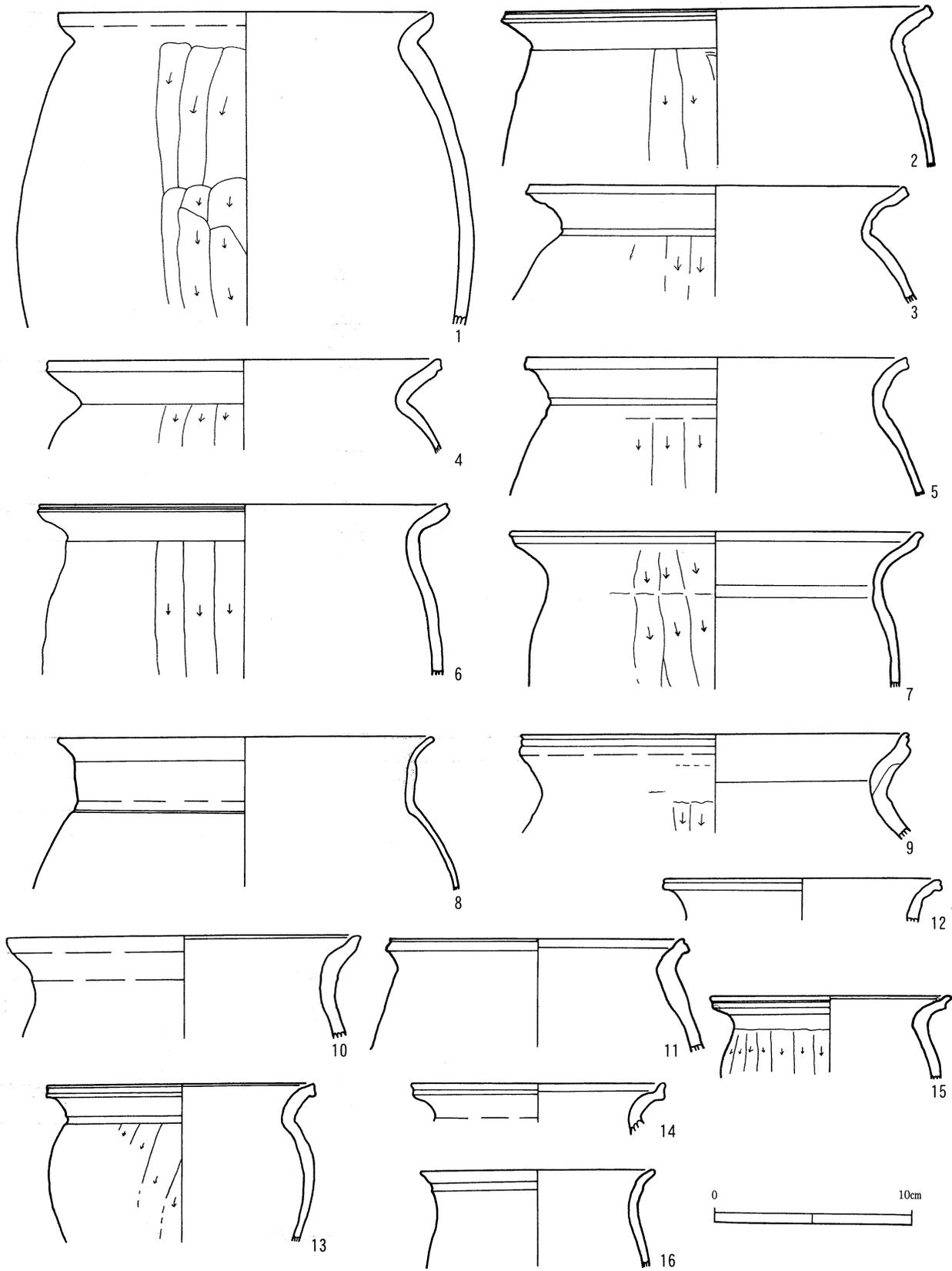
No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
32	漸家	7.5YR4/3 褐色	含む	L	小歪角塊状	含む	小	23	弱	細根含む	難燃土、難燃土(少)
33	明家	7.5YR5/4 赤褐色 4/3 褐色 7.5YR5/6 明赤褐色	あり	L	歪角塊状	含む	小	23	弱	細根含む	カマド残骸。砂混じり粘土、焼土
34	明家	7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	L	小歪角塊状	含む	小	21	弱	細根含む	焼土粒子多量
35	明家	7.5YR4/3 褐色	含む	L	歪角塊状	含む	小	21	弱	細根含む	難燃土、難燃土、ロ-170y、カ、硬い塊状
36	明家	5YR4/4 赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	含む	CL	層粒状~小歪角塊状	なし	0~小	14	弱~中	細根含む	焼土主体
37	明家	7.5YR4/3 褐色	含む	SIL	歪角塊状	含む	小	21	弱	細根含む	粘土、焼土粒子
38	明家	7.5YR4/4 褐色	含む	CL	小歪角塊状	含む	小	24	弱~中	細根含む	焼土、砂混じり粘土
39	明家	7.5YR4/3 褐色	含む	CL	難燃土残骸	なし	0~小	17	中	細根含む	焼土粒子、炭化材片



第28図 76D出土遺物分布図



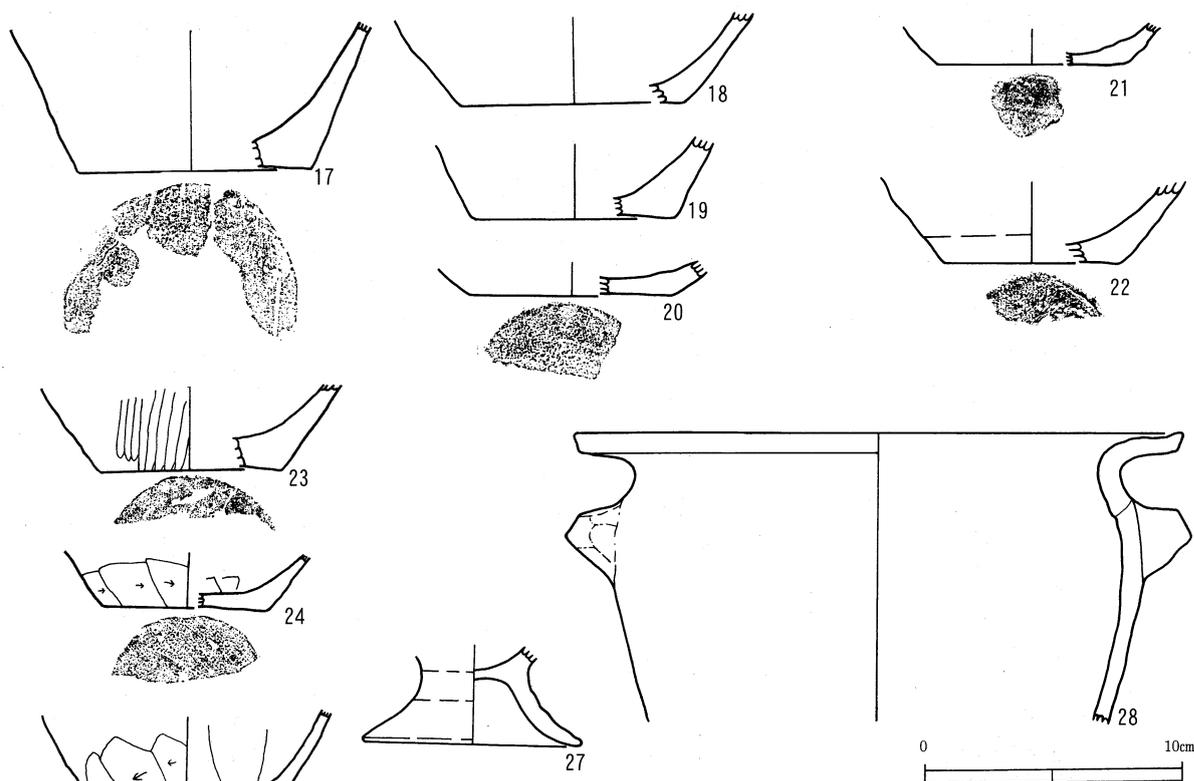
第29図 76D-A炭化材出土状況図



第30图 76D出土遺物実測图(1)

第30表 76D出土遺物観察表(1)

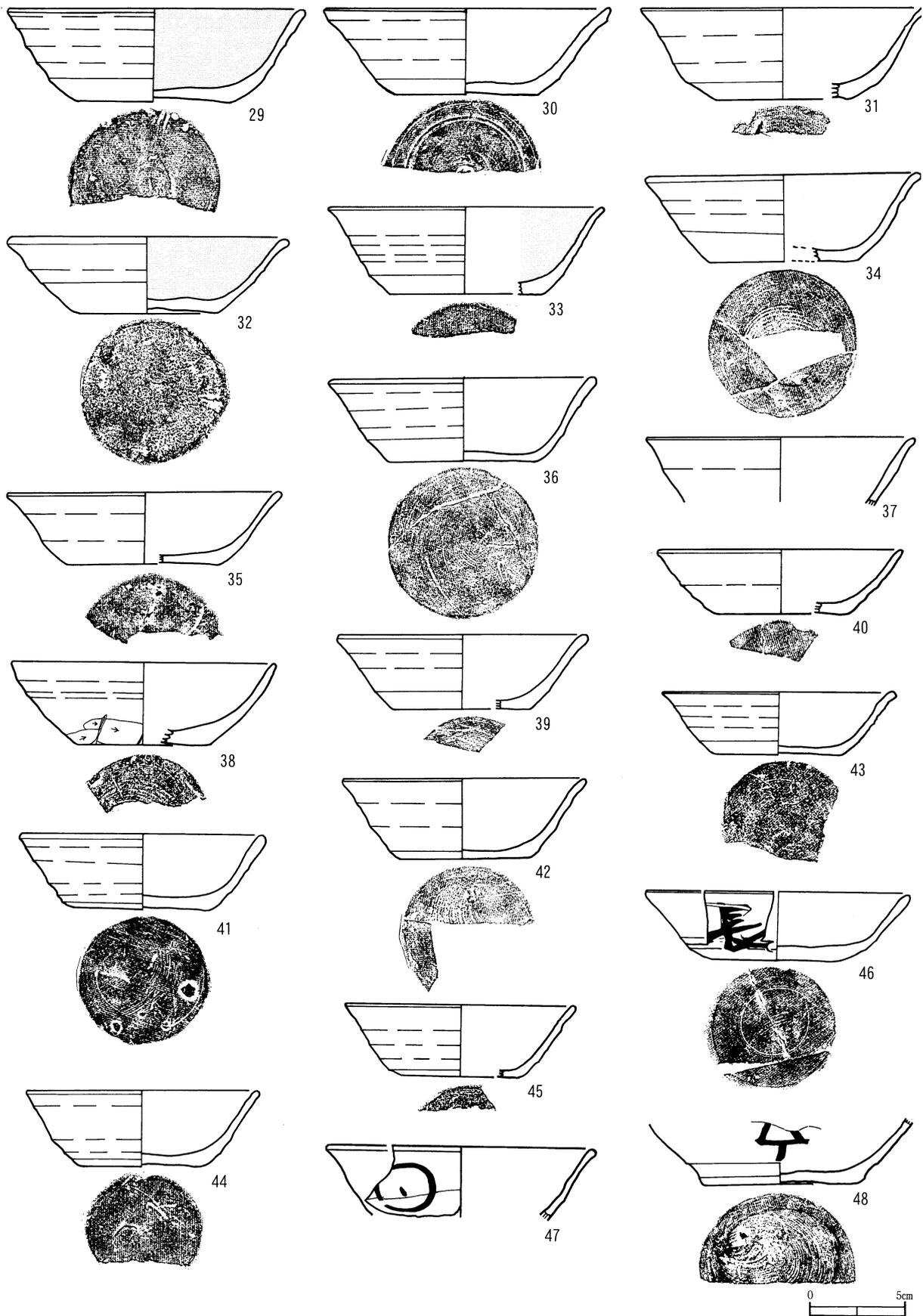
図-遺物	現存品%	器-形	部位	直径(寸)	色	胎土	調整・その他の特徴
30-1	705.680	土師器 甕	口部-胴部	復元口径19.2, 復元胴最大径23.3	外:淡褐色, 褐色, 内:褐色, 暗褐色, 黒色, 褐色	暗赤, 赤褐色, コロリ	外:敷子, ハワリ物, 内:子。カマ下内土
30-2	38.438	土師器 甕	口部-胴部	復元口径 22	橙褐色, 褐色	砂粒	外:敷子, ハワリ物, 内:子
30-3	23.106, 202.424	土師器 甕	口部-胴部	復元口径 19.6	外:淡褐色, 内:淡褐色, 暗褐色	細砂, 雲母	外:子, ハワリ物, 内:子
30-4	110	土師器 甕	口部-胴部	復元口径 20	外:暗褐色, 淡褐色, 褐色, 灰褐色, 内:淡褐色, 淡褐色, 黒色, 褐色	暗赤, 赤褐色, コロリ	外:子, ハワリ物, 内:子
30-5	676	土師器 甕	口部-胴部	復元口径 19.6	外:淡褐色, 内:灰褐色	細砂多, 雲母	外:敷子, ハワリ物, 内:子。2に取込
30-6	244.862	土師器 甕	口部-胴部	復元口径21, 復元胴最大径20.2	外:淡褐色, 灰色, 内:淡褐色, 灰色, 灰褐色	砂粒, 雲母	外:敷子, ハワリ物, 内:子
30-7	589.703, 711	土師器 甕	口部-胴部	復元口径 21	外:淡褐色, 褐色, 灰褐色, 内:淡褐色, 暗褐色, 白色	砂粒	外:敷子, ハワリ物, 内:子。カマ下内土
30-8	556.363	土師器 甕	口部-胴部	復元口径 19.2	橙褐色	赤褐色, コロリ	敷子, 灰赤。北武蔵系。556以下下内土
30-9	850	土師器 甕	口部-胴部	復元口径 20	外:淡褐色, 褐色, 暗褐色, 内:淡褐色, 灰褐色	暗赤, 赤褐色, コロリ	外:子, ハワリ物, 内:子。敷子あり, 二次焼成
30-10	238	土師器 甕	口部-胴部	復元口径 18	外:淡褐色, 灰褐色, 内:淡褐色, 灰色	砂粒, 雲母, 小石	子
30-11	822	土師器 甕	口部	復元口径 15.7	外:淡褐色, 褐色, 暗褐色, 内:暗褐色	細砂	外:敷子, ハワリ物, 内:子, ミナ
30-12	710.694, 699	土師器 甕	口部	復元口径 14.2	暗褐色	細砂	子。カマ下内土
30-13	618.620, 701.744	土師器 小甕	口部~胴部	口径 13.7, 胴部最大径 13.5	外:淡褐色, 赤褐色, 褐色, 内:淡褐色, 赤褐色, 褐色	細砂	外:子, ハワリ物, 内:子。カマ下内土, 744以下カマ下
30-14	604.633	土師器 小甕	口部	復元口径 13	外:淡褐色, 内:淡褐色, 赤褐色	細砂	外:敷子, 内:ミナ
30-15	725	土師器 小甕	口部-胴部	復元口径 12.2	外:淡褐色, 褐色, 内:淡褐色, 暗褐色	暗赤, 赤褐色, コロリ	外:敷子, ハワリ物, 内:敷子, ハワリ物敷子。カマ下内土
30-16	-	土師器 小甕	口部-胴部	復元口径 12	外:淡褐色, 淡褐色, 内:灰色, 褐色	細砂	外:敷子, 内:子



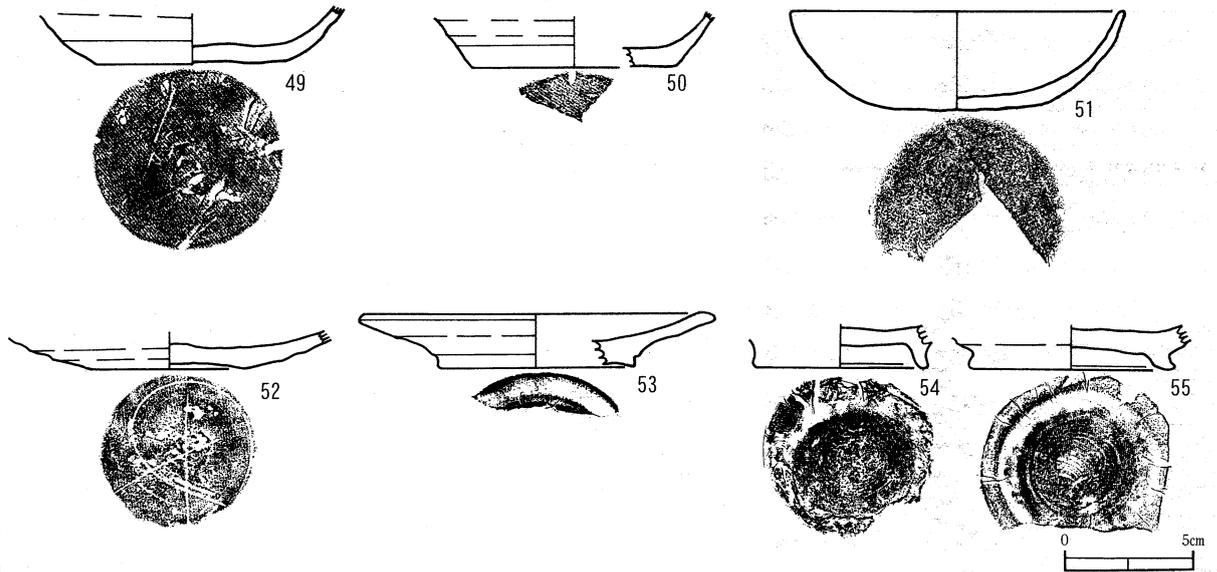
第31表 76D出土遺物観察表(2)

図-遺物	現存品%	器-形	部位	直径(寸)	色	胎土	調整・その他の特徴
31-17	595.490	土師器 甕	底部	底径 9.2	外:暗褐色, 褐色, 灰褐色, 内:暗褐色, 暗褐色	細砂	外:ハワリ物, 縁(二次焼成あり), 内:子
31-18	863	土師器 甕	底部	復元底径 9	外:橙褐色, 内:淡褐色	細砂	外:ハワリ物, ミナ, 内:子
31-19	308	土師器 甕	底部	復元底径 8	外:褐色, 橙褐色, 内:灰褐色	暗赤, 小石	外:ハワリ物, 内:子
31-20	480	土師器 甕	底部	復元底径 8	外:暗褐色, 内:淡褐色, 褐色	砂粒, 雲母	外:敷子, 内:子, 底面:ハワリ物
31-21	592	土師器 甕	底部	復元底径 8	外:暗褐色, 内:赤褐色	砂粒	外:敷子, 内:子, 底面:ハワリ物
31-22	24	土師器 甕	底部	復元底径 7	外:灰褐色, 内:赤褐色	暗赤, 赤褐色, コロリ	外:ハワリ物, 内:子, 底面:ハワリ物
31-23	724	土師器 甕	底部	復元底径 7	暗褐色, 黒褐色	暗赤, 赤褐色, コロリ	外:ハワリ物, 内:子, 底面:ハワリ物
31-24	624	土師器 甕(中)	底部	復元底径 6.6	外:暗褐色, 内:褐色, 暗褐色	細砂	外:ハワリ物, 内:ハワリ物敷子, 底面:ハワリ物
31-25	61.76, 445	土師器 甕	底部	底径 6.2	外:淡褐色, 赤褐色, 内:淡褐色	細砂	外:ハワリ物, 内:ハワリ物敷子, 底面:ハワリ物
31-26	333	土師器 甕	底部	底径 6	外:褐色, 橙褐色, 内:淡赤褐色	細砂	外:ハワリ物, 内:子, 底面:ハワリ物
31-27	869	土師器 甕	底部	底径 8.7	外:暗褐色, 内(裏):淡褐色, 赤褐色, 褐色, 暗褐色	細砂	口内, 縁, 底面
31-28	48.78, 101, 260	土師器 甕	口部-胴部	復元口径24, 復元胴最大径20.6	外:褐色, 淡褐色, 灰褐色, 内:暗褐色, 赤褐色, 淡褐色	細砂	外:敷子, ハワリ物, 内:敷子, 灰赤あり

第31図 76D出土遺物実測図(2)



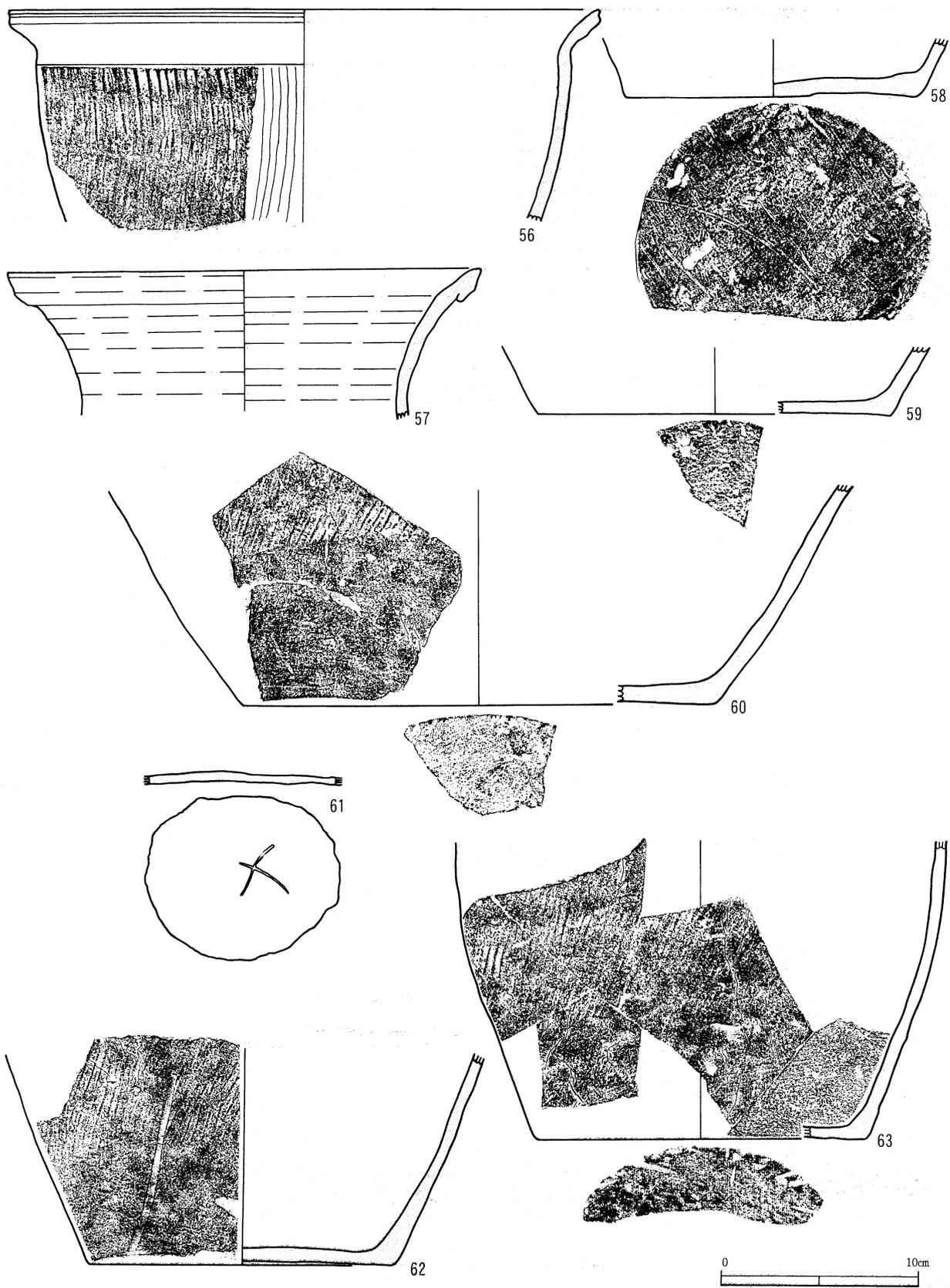
第32図 76D出土遺物実測図(3)



第33図 76D出土遺物実測図(4)

第32表 76D出土遺物観察表(3)

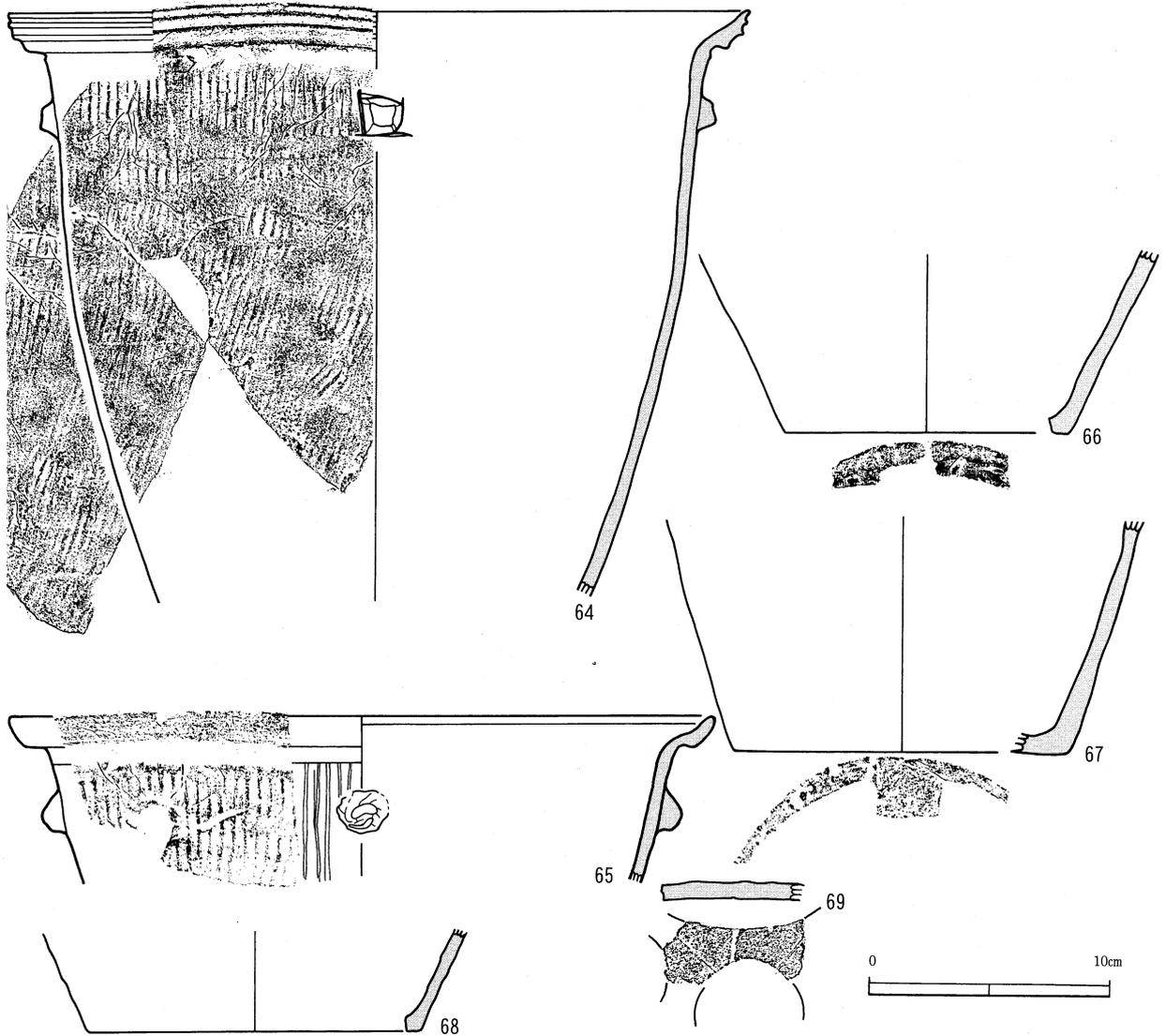
器名・遺物	発見層位	器種・器形	部位	復元寸法(㎝)	色	胎土	調整・その他の特徴
32-29	464	土師器 環	1/2	復元径15.6, 復元底径 8, 高さ4.9	外:褐色, 黄色, 褐色, 内:褐色(内面顔地処理)	黄緑色スロリ	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ, 底面:ナリ
32-30	745	土師器 環	1/2	復元径 15, 復元底径7.4, 高さ4.7	淡橙褐色	黄緑色スロリ	ロウロ(凹凸物あり), 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ, 底面:へら彫
32-31	25	土師器 環	1/5	復元径14.8, 復元底径 7, 高さ4.8	外:淡褐色, 内:灰褐色	雲母細片	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:へらミナリ, 底面:へら彫
32-32	612	土師器 環	略完形	復元径14.6, 底径7.6, 高さ 4	外:淡褐色, 黄色, 内:褐色(内面顔地処理)	黄緑色スロリ	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ, 底面:ナリ
32-33	390, 293	土師器 環	1/3 著	復元径14.4, 復元底径 8, 高さ4.6	外:淡褐色, 黄色, 内:褐色(内面顔地処理)	細砂	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ
32-34	643, 341, 641, 644, 648, 682	土師器 環	略完形	径14.3, 底径7.9, 高さ4.6	淡褐色	砂粒, 雲母細片	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ, 底面:凹凸物あり
32-35	693	土師器 環	1/3	復元径14.2, 復元底径 8, 高さ3.8	淡褐色	細砂	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ, 底面:ナリ, 外周の口縁に凸凹の彫物あり
32-36	59, 94, 218, 231, 469, 498, 469, 470, 507	土師器 環	略完形	復元径14, 底径 8, 高さ4.4	外:淡褐色, 褐色, 内:淡褐色	砂粒, 雲母小片	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ, 底面:凹凸物あり
32-37	547	土師器 環	口縁1/3強	復元口径 14	淡褐色	細砂, 雲母	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ
32-38	417, 229, 403	土師器 環	1/2 著	復元径13.8, 復元底径 7, 高さ4.3	灰褐色, 淡褐色	細砂	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ, ナリ, 底面:凹凸物あり
32-39	404, 337, 409	土師器 環	1/3	復元径 13, 復元底径 7, 高さ3.9	淡褐色	黄緑色スロリ	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:体下部, 底面:へら彫
32-40	423	土師器 環	1/4 著	復元径12.8, 復元底径 7, 高さ3.4	灰褐色, 淡褐色	黄緑色スロリ	ロウロ, ナリ
32-41	292, 289, 290	土師器 環	2/3 著	口径12.8, 底径6.9, 高さ 4	淡褐色, 淡橙褐色	黄緑色スロリ	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ナリ, 底面:凹凸物あり, 粘土層付
32-42	207, 236, 379	土師器 環	1/2 著	復元径12.7, 復元底径6.6, 高さ4.2	淡褐色	黄緑色スロリ	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:体下部, 底面:凹凸物あり
32-43	358, 361	土師器 環	1/3 著	復元径12.2, 復元底径6.7, 高さ3.3	外:暗褐色, 内:褐色	砂粒	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ナリ, 底面:凹凸物あり
32-44	764	土師器 環	1/2 著	復元径 12, 底径 6, 高さ 4	淡褐色, 褐色	雲母細片	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ナリ, 底面:へら彫
32-45	797	土師器 環	1/6 著	復元径 12, 復元底径 6, 高さ3.8	外:褐色, 黒褐色, 灰色, 内:淡褐色, 褐色	黄緑色スロリ	ロウロ, 外:体部下端への彫り
32-46	611, 439, 605	土師器 環	口縁~底部	復元径13.7, 底径6.4, 高さ3.6	淡橙褐色	黄緑色スロリ	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ナリ, 底面:凹凸物あり, 雲母付
32-47	662	土師器 環	口縁	復元口径 14	淡橙褐色	細砂	ロウロ, 外:体下部, 内:ミナリ, 雲母付(凹凸物)
32-48	666	土師器 環	1/2	底径 8, 残存高 3.2	淡褐色	黄緑色スロリ	ロウロ, 外:体下部, 内:ナリ, 底面:凹凸物あり, 雲母付(凹凸物)
33-49	284	土師器 環	底部	底径 7.4	淡褐色	細砂	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ, 底面:凹凸物あり
33-50	601	土師器 環	底部	復元底径 8, 残存高 2.3	外:褐色, 内:淡褐色, 灰色, 褐色	黄緑色スロリ	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:ミナリ
33-51	782, 388, 533, 545	土師器 環	2/3	復元径 13, 底径 6, 高さ3.9	外:淡褐色, 灰色, 内:淡褐色	黄緑色スロリ	外:へら彫り, 内:体下部, 凹凸物に凸凹あり, 雲母付
33-52	736	土師器 皿	底部	底径 6	褐色	細砂, 黒色粒子	ロウロ, 外:体部下端への彫り, 内:へらミナリ, 底面:凹凸物あり, 雲母付
33-53	587	土師器 系鉢皿	1/3	復元径 14, 復元底径7.8, 高さ2.1	外:淡褐色, 黄褐色, 内:淡褐色, 褐色, 黄褐色	雲母	ロウロ, 外:体下部, 内:ミナリ, 凹凸物に凸凹あり
33-54	675	土師器 系鉢皿	底部	底径 6.8	淡褐色	細砂	ロウロ, 内:ミナリ, 底面:ナリ
33-55	141, 142	土師器 系鉢皿	底部	底径 8	淡褐色, 黒色	黄緑色スロリ	ロウロ, 内:ミナリ, 底面:ナリ



第34图 76D出土遺物実測図(5)

第33表 76D出土遺物観察表(4)

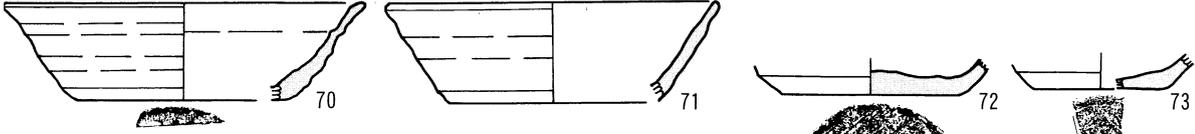
図-遺物	現地出土%	種類・形	部位	計測値(㎝)	色	胎土	調整・その他の特徴
34-56	553	須磨 壺	口縁上縁	復元口径 30	褐色	細砂, 雲母	外: 磨子, 凹目, 内: ミナ, 磨子
34-57	758, 594	須磨 壺	口縁上縁	復元口径 24	暗褐色, 黒褐色	雲母, 砂粒	口ノ, 磨子, 磨子
34-58	665	須磨 壺	底部	底径 15.1	外: 褐色, 内: 褐色	砂粒	外: ハリ筋, 内: ナデ, 底面: ハリ筋
34-59	524, 623	須磨 壺	底部	復元底径 18	黒褐色	砂粒, 赤褐色スリ	外: ハリ筋, 内: ナデ
34-60	653, 228, 635, 792	須磨 壺	胴部	復元底径 24	外: 黒褐色, 赤褐色, 褐色, 内: 褐色, 赤褐色, 褐色, 灰白色, 底面: 褐色	細砂	外: 凹目, 磨子, 内: ナデ, 底面: ハリ筋
34-61	208	須磨 壺	底面	復元底径 9.5以上	外: 赤褐色, 褐色, 内: 赤褐色, 褐色	砂粒, 雲母	内: ミナ, 底面: 磨子, 磨子
34-62	668	須磨 壺	胴部	復元底径 15.6	外: 褐色, 赤褐色, 褐色, 内: 褐色, 赤褐色	砂粒	外: 凹目, ハリ筋, 内: ナデ, 磨子, 底面: 磨子
34-63	658, 616, 695, 704, 769, 791	須磨 壺	胴部	復元胴部最大径 24, 復元底径 17	赤褐色, 褐色, 暗褐色	砂粒, 赤褐色スリ	外: 凹目, ハリ筋, 内: ナデ, 底面: ナデ



第34表 76D出土遺物観察表(5)

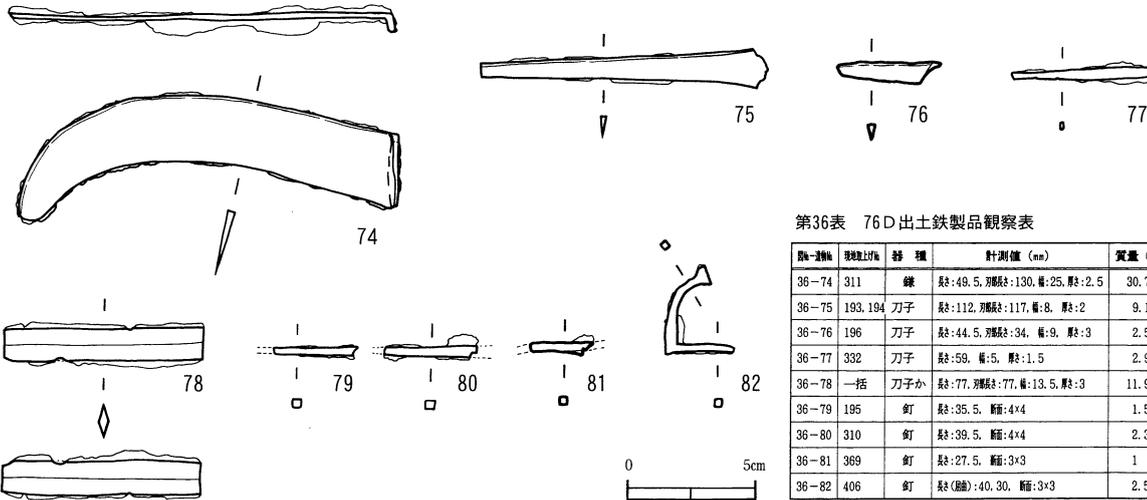
図-遺物	現地出土%	種類・形	部位	計測値(㎝)	色	胎土	調整・その他の特徴
35-64	712, 715, 51, 581, 696	須磨 壺	口縁~胴下部	復元口径 31	外: 褐色, 赤褐色, 褐色, 赤褐色, 内: 褐色, 赤褐色, 褐色, 赤褐色, 白色磨子	緻密	外: ナデ, 凹目, ハリ筋, ミナ, 内: ナデ, ミナ
35-65	732, 21, 104	須磨 壺	口縁上縁	復元口径 29.6	赤褐色, 赤褐色, 赤褐色	砂粒, 赤褐色スリ	口ノ, 外: 磨子, 凹目, 磨子, 内: 磨子
35-66	824, 145	須磨 壺	胴部	復元底径 12	外: 褐色, 赤褐色, 褐色, 内: 褐色, 赤褐色	砂粒, 赤褐色スリ	外: 磨子, ハリ筋, 内: 磨子
35-67	661, 87, 95	須磨 壺	胴部	復元底径 14	外: 赤褐色, 褐色, 褐色, 内: 赤褐色, 赤褐色	砂粒, 赤褐色スリ	外: 凹目, ハリ筋, ミナ, 内: 磨子, ミナ
35-68	843	須磨 壺	底部	復元底径 15	外: 赤褐色, 内: 赤褐色	砂粒, 白色磨子	外: 凹目, 磨子, 内: ナデ
35-69	418	須磨 壺	底面	-	淡褐色	細砂	外: ヘラ削り, 線刻, 内: ナデ

第35図 76D出土遺物実測図(6)



第35表 76D出土遺物観察表(6)

図-遺物No	現地出土No	器種・形	部位	計測値(mm)	色	胎土	調整・その他の特徴
36-70	532	須磨器 杯	口縁-底縁付近	復元口径14, 復元底径8, 残存高3.9	外:灰褐色, 褐色, 内:灰褐色, 灰褐色	砂粒, 雲母	口内, 外:縁部下縁へう跡, 内:縁付き
36-71	371	須磨器 杯	口縁-底縁付近	復元口径13, 復元底径8, 残存高4	灰白色	砂粒	口内, 外:縁部下縁へう跡, 内:縁付き
36-72	392	須磨器 杯	底部	底径 7	外:灰白色, 灰色, 内:灰褐色, 灰色	砂粒	口内, 外:縁部下縁へう跡, 内:子, 底:へう跡
36-73	199	須磨器 杯	底部小片	復元底径 5.6	灰色	細砂, 白磁子	口内, 外:へう跡, 底:縁へう跡

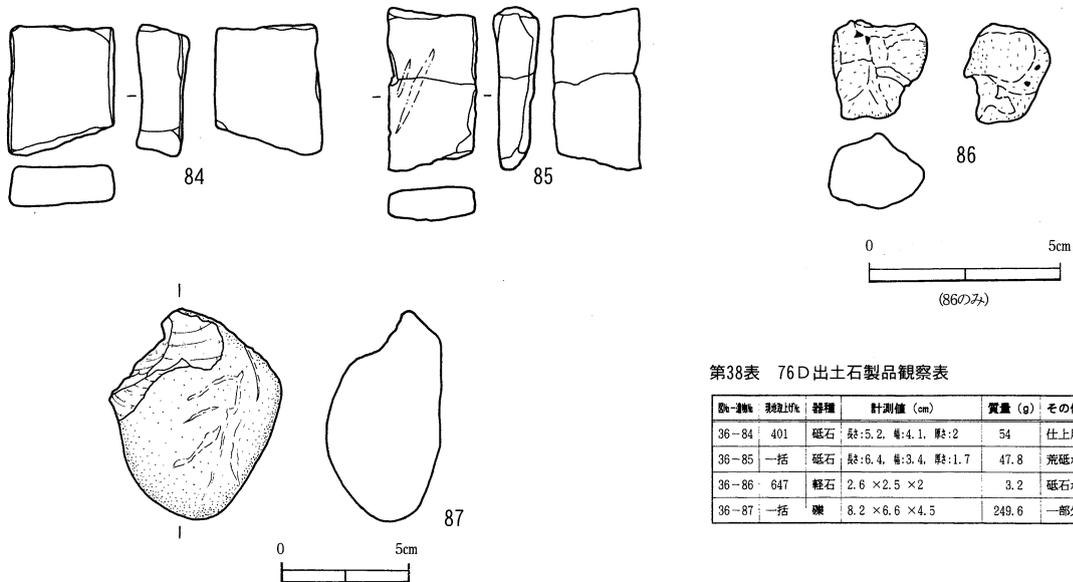


第36表 76D出土鉄製品観察表

図-遺物No	現地出土No	器種	計測値(mm)	質量(g)	その他
36-74	311	鎌	長:49.5, 刃幅:130, 幅:25, 厚:2.5	30.7	
36-75	193, 194	刀子	長:112, 刃幅:117, 幅:8, 厚:2	9.1	
36-76	196	刀子	長:44.5, 刃幅:34, 幅:9, 厚:3	2.5	
36-77	332	刀子	長:59, 幅:5, 厚:1.5	2.9	基部
36-78	一括	刀子か	長:77, 刃幅:77, 幅:13.5, 厚:3	11.9	両刃状
36-79	195	釘	長:35.5, 幅:4x4	1.5	
36-80	310	釘	長:39.5, 幅:4x4	2.3	
36-81	369	釘	長:27.5, 幅:3x3	1	
36-82	406	釘	長(軸):40, 30, 幅:3x3	2.5	屈曲

第37表 76D出土土製品観察表

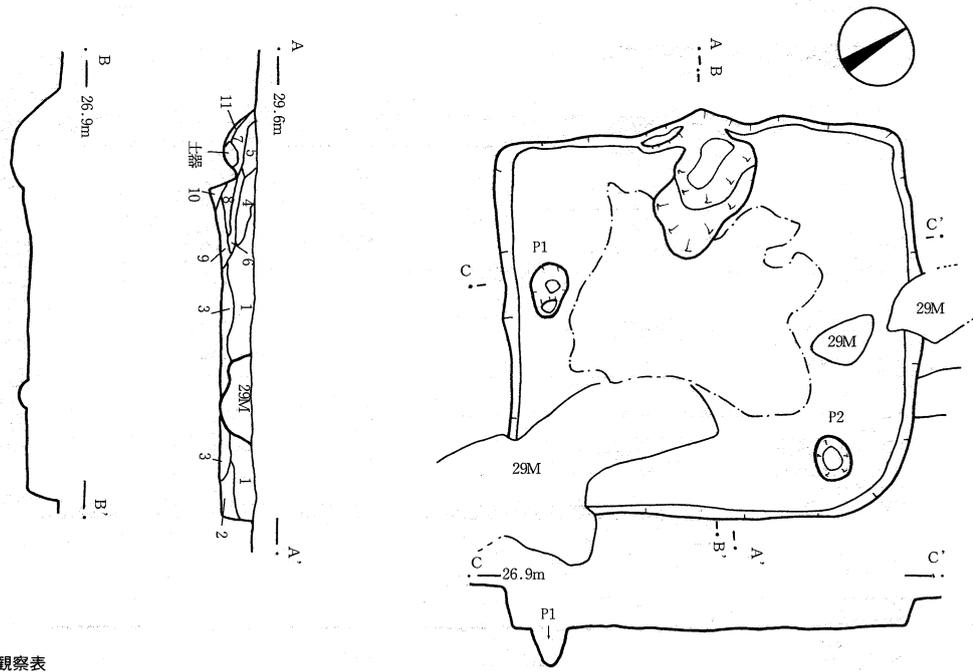
図-遺物No	現地出土No	器種	部位	計測値(cm)	色	胎土	その他
36-83	128	手捏ね土器	2/3	口径:6.7, 底径:5.4, 高:3.1	淡褐色, 淡赤褐色, 灰色	砂粒	亀裂あり



第38表 76D出土石製品観察表

図-遺物No	現地出土No	器種	計測値(cm)	質量(g)	その他
36-84	401	磁石	長:5.2, 幅:4.1, 厚:2	54	仕上用か
36-85	一括	磁石	長:6.4, 幅:3.4, 厚:1.7	47.8	荒磁か
36-86	647	軽石	2.6 × 2.5 × 2	3.2	磁石か
36-87	一括	礫	8.2 × 6.6 × 4.5	249.6	一部欠

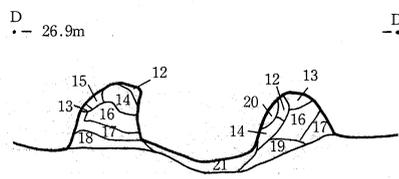
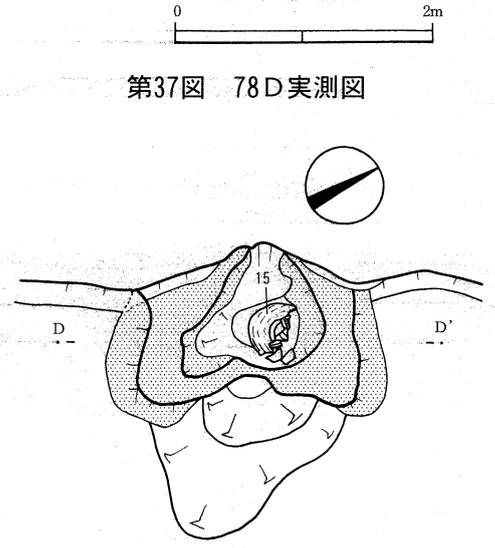
第36図 76D出土遺物実測図(7)



第39表 78D土層観察表

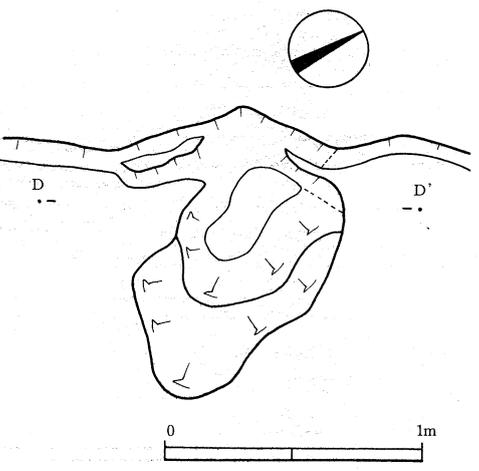
No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	20	0	細根含む	焼土、炭化物(少量)
2	明瞭	7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	CL	小垂角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	ローム混じり
3	明瞭	5YR3/2 暗赤褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	19	0	細根含む	焼土・炭化材多量
4	明瞭	7.5YR6/6 暗赤褐色 5YR3/2 暗赤褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	20	弱	細根あり	焼土にじむ
5	判然	7.5YR6/6 暗赤褐色 4/3 暗褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	17	弱	細根あり	焼土にじむ
6	4層	7.5YR4/3 褐色 5YR3/2 暗赤褐色	含む	CL	小垂角塊状	含む	小	17	弱	細根あり	焼土粒子まばら
7	5と判然	7.5YR4/3 褐色 5/6 暗褐色 5/4 暗褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	16	弱	細根あり	焼土粒子・70%まばら
8	明瞭	5YR4/3 暗赤褐色	含む	L	顆粒-凝結	含む	0~小	16	弱	細根含む	焼土、灰まじり
9	明瞭	7.5YR3/2 黒褐色 3/3 暗褐色	含む	CL	小垂角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	焼土まじり
10	明瞭	7.5YR4/5 褐色	含む	CL	顆粒-凝結	含む	0~小	16	弱~中	細根含む	焼土粒子
11		7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	CL	小垂角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	焼土粒子
29M		7.5YR4/3 褐色	含む	SiL	顆粒-凝結	あり	0~小	15	0	細根含む	

第37図 78D実測図

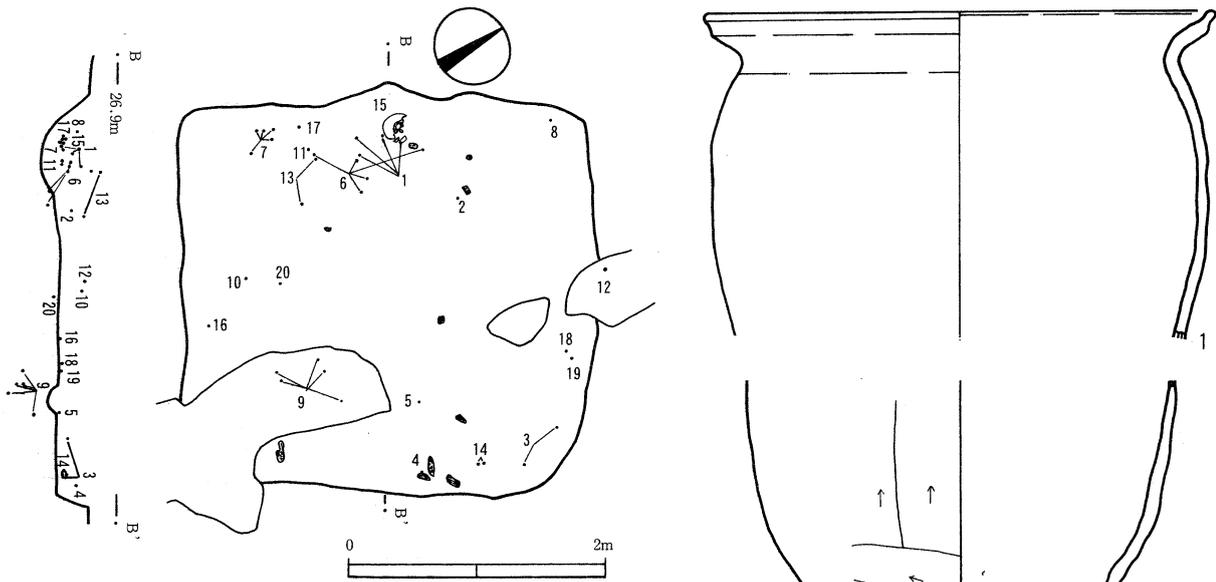


第40表 78Dカマドそで土層観察表

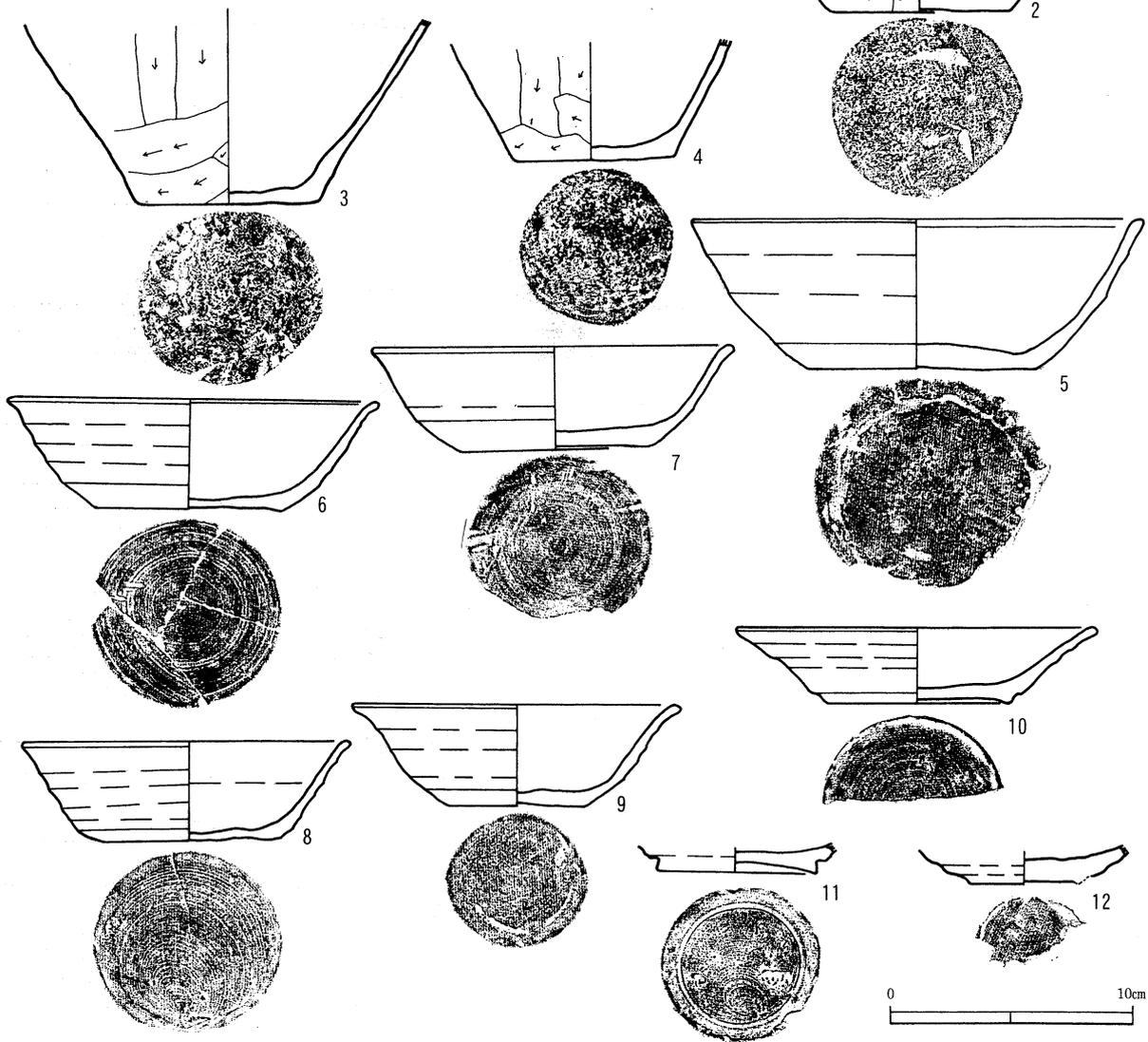
No	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
12	2.5YR4/6 赤褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	14	弱	細根含む	焼けて硬化
13	2.5YR3/6 暗赤褐色 7.5YR6/6 褐色 5YR3/6 暗赤褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	21	弱	細根含む	
14	7.5YR3/3 暗褐色 2.5YR3/6 暗赤褐色	含む	CL	小垂角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	
15	7.5YR6/6 褐色 5YR3/6 暗赤褐色	あり	CL	小垂角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	
16	7.5YR6/6 褐色 3/3 暗褐色	あり	CL	小垂角塊状	含む	小(凝結状)	21	弱~中	細根含む	砂混じり粘土
17	7.5YR6/6 褐色 4/2 灰褐色	含む	L	小垂角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	
18	7.5YR4/4 褐色 6/6 褐色	含む	SiL	小垂角塊状	含む	小	15	弱	細根含む	焼土粒子、部分的に粘土
19	7.5YR3/4 暗褐色	含む	SiL	小垂角塊状	含む	小	21	弱~中	細根含む	粒状、動物糞
20	7.5YR3/2 黒褐色 2.5YR3/6 暗赤褐色	含む	SL	顆粒-凝結	なし	0~小	6	弱	細根含む	焼土、炭化物
21	7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	SiL	小垂角塊状	含む	小	16	弱~中	細根含む	焼土粒子



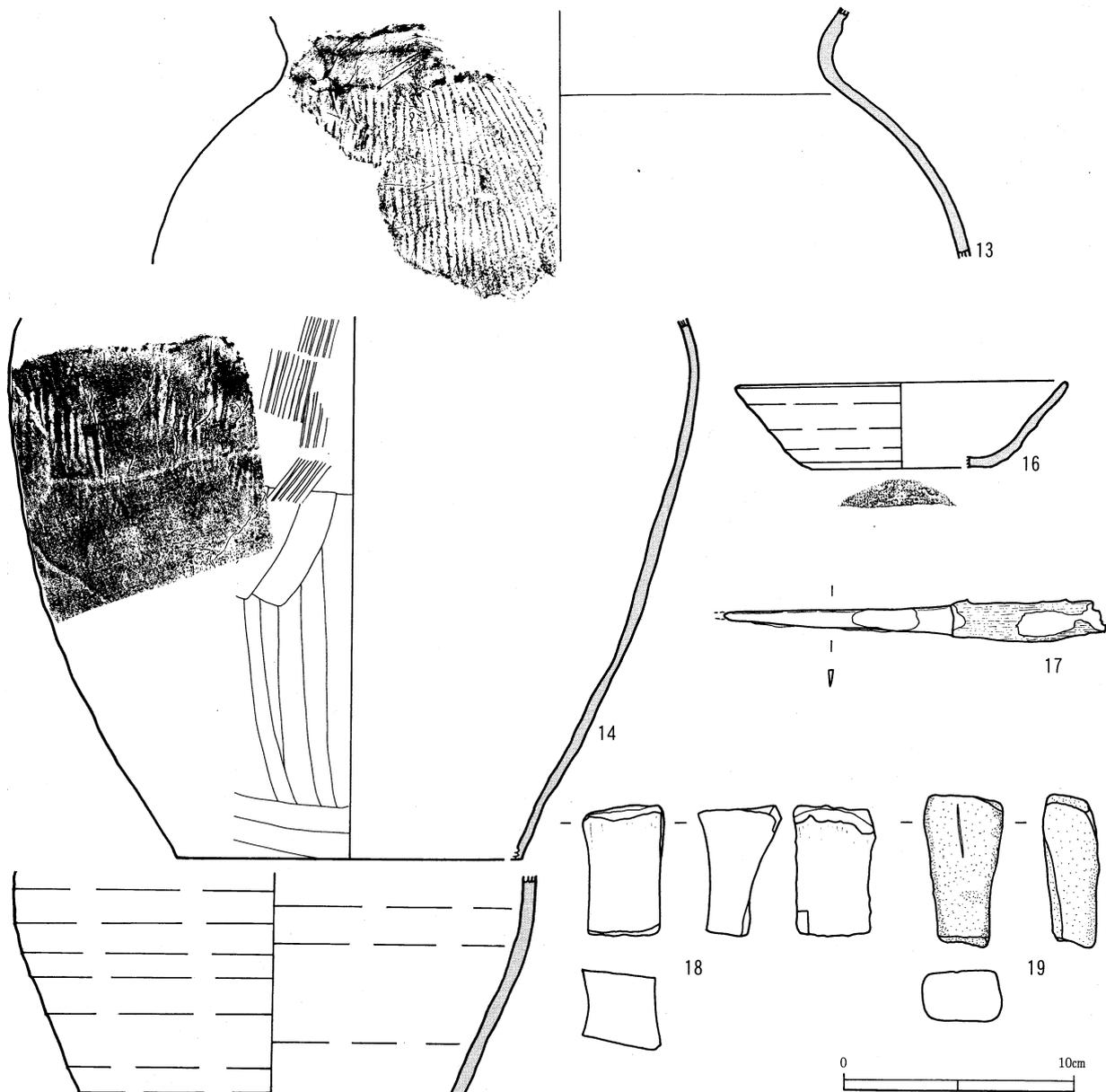
第38図 78Dカマド実測図



第39图 78D出土遺物分布图

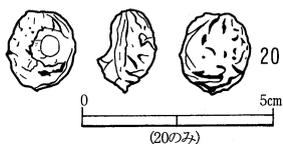


第40图 78D出土遺物実測图(1)



第41表 78D出土遺物観察表(1)

図号-遺物	現存数/計%	種類・形	部位	直径計測値(φ)	色	胎土	観察・その他の特徴
40-1	96, 81, 104, 109	土器 甕	口縁~胴部	復元径 20, 復元胴部径 19.4	褐色, 暗褐色, 淡褐色, 褐色	細砂, 雲母	外:口縁-胴部 横子, 縦筋 縦へり筋 内:口縁-胴部 横子, 以下 横子 内:縦筋
40-2	93	土器 甕	胴下縁-底部	復元胴部径 16.9, 底径 7.6	褐色, 褐色, 淡褐色	細砂	外:縦筋へり筋, 内:横子, 底面:へり筋, 縦筋
40-3	2, 3	土器 甕	胴下縁-底部	底径 7.6	外:暗褐色, 横筋, 内:暗褐色, 淡褐色	細砂	外:縦筋へり筋, 内:横子, 底面:へり筋, 縦筋
40-4	83	土器 甕	底部	底径 6.6	外:淡褐色, 灰褐色, 内:灰褐色	細砂	外:縦筋へり筋, 内:横子, 底面:へり筋
40-5	92	土器 杯	1/2 身	復元口径 18.6, 復元底径 9.6, 高さ 6.3	外:淡褐色, 褐色, 内:暗褐色, 褐色	細砂, 雲母小片	口内, 外:縁部へり筋, 底面:横子, 内:横子
40-6	71, 79, 80, 116, 120	土器 杯	略完形	口径 15.3, 底径 8, 高さ 4.6	外:淡褐色, 褐色, 淡褐色, 内:暗褐色	細砂	口内, 外:縁部へり筋, 底面:へり筋
40-7	53, 49, 52, 54, 55	土器 杯	3/4	口径 14.9, 底径 7.7, 高さ 4.3	外:褐色, 暗褐色, 内:暗褐色, 淡褐色	細砂	口内, 外:縁部へり筋, 底面:縦筋, 内:横子
40-8	21	土器 杯	略完形	口径 13.5, 底径 7.2, 高さ 4.2	外:褐色, 暗褐色, 淡褐色, 内:暗褐色, 暗褐色	雲母小片	口内, 外:縁部へり筋, 底面:縦筋
40-9	126, 125, 127, 128, 129	土器 杯	2/3 身	復元口径 13.5, 底径 5.6, 高さ 4.3	黒色, 褐色	緻密	口内, 外:縁部へり筋, 底面:へり筋, 内:横子, 29M胎土
40-10	56	土器 高脚杯	1/2 身	復元口径 15, 復元底径 7.4, 高さ 3.2	淡橙褐色, 褐色	雲母小片	口内, 底面:縦筋, 内:横子
40-11	103	土器 高脚杯	底部	底径 6.8	淡褐色	雲母小片	口内, 底面:縦筋, 内:横子
40-12	22	土器 高脚杯	底部	復元底径 4.6	外:淡褐色, 内:褐色	褐色スリ7	口内, 底面:縦筋, 内:横子



第41図 78D出土遺物実測図(2)

第42表 78D出土遺物観察表(2)

図-遺物	表層上層%	器種・形状	部位	計測値(m)	色	胎土	調整・その他の特徴
41-13	32.27	須磨器 甕	胴-胴上	復元胴部径 23.8	暗褐色、黒褐色	緑色スリ7、焼	外: 磨擦力ナ、明目、内: 稀。7底
41-14	4.67	須磨器 甕	胴上層-底層近	復元胴部径 30、復元底径 15	黒褐色、黒色、黒褐色、黒	砂粒	外: 明目、磨擦力弱、内: 射子、ハラフ
41-15	112.107、110.111	須磨器 鉢形埴輪	胴下部-底部	復元胴部径 22.8、復元底径 13	灰色、灰褐色	緻密だが、小石粒含む	叩、内・底面に釉薬
41-16	132	須磨器 坏	口縁-底層	復元口径 14.4、復元底径 7.8、高さ 3.8	灰褐色	細砂	叩、外: 磨擦力弱、内: ナマ、7底

第43表 78D出土鉄製品観察表

図-遺物	表層上層%	器種	計測値 (mm)	質量(g)	その他
41-17	51	刀子	身長:165、刃長:100、幅:8、厚:2	18.4	柄の木質が残存

第44表 78D出土石製品観察表

図-遺物	表層上層%	器種	計測値 (mm)	質量 (g)	その他
41-18	14	砥石	軟 身長:57.5、幅:35、厚:36	80	仕上げ用
41-19	15	砥石	軟 身長:67.5、幅:34、厚:22.5	79.8	荒砥

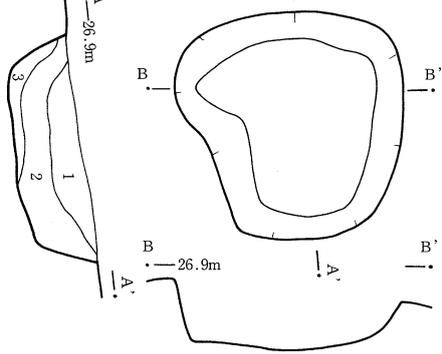
第45表 78D出土炭化物観察表

図-遺物	表層上層%	種類	計測値 (mm)	質量 (g)
41-20	T 7	炭化種子	身長:21、幅:18、厚:13	1.6

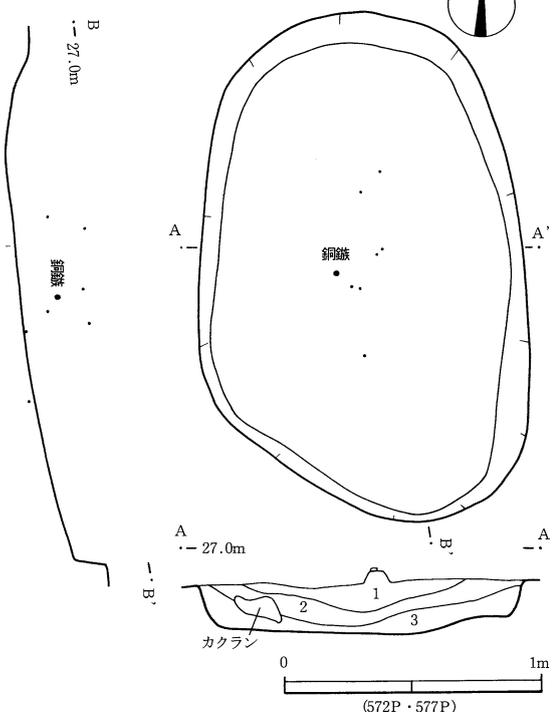
第46表 572P・577P・579P計測表

遺物No	上面規模 (m)		底面規模 (m)		深さ (m)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
572P	0.90	0.65~0.87	0.71	0.43~0.70	0.24
577P	2.03	1.25	1.90	1.14	0.20
579P	2.86	2.33	0.30	0.28	0.78 外:1.04

572 P



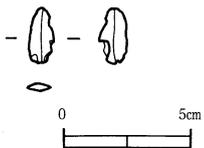
577 P



第42図 572P・577P・579P実測図

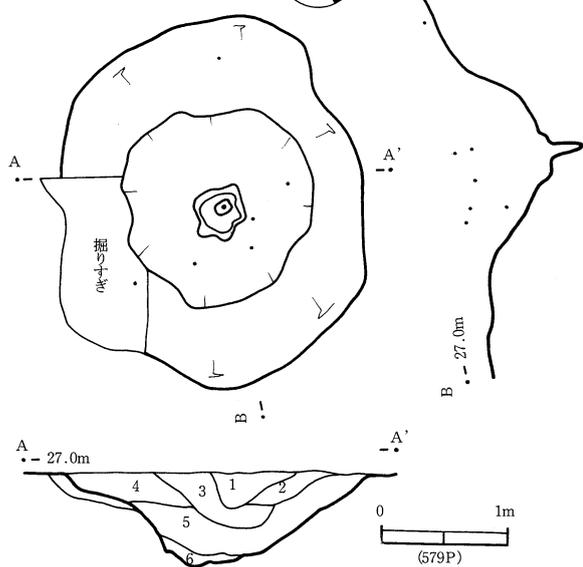
第48表 577P出土銅鏃観察表

図No	表層上層%	器種	計測値 (mm)	質量 (g)
43	2	銅鏃	身長:24、幅:11、厚:4	2



第43図 577P出土銅鏃実測図

579 P



第47表 572P・577P・579P土層観察表

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
572P											
1	漸次	7.5YR4/3 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	14	中	細根含む	目5cm以下能スリ7、能検存は5
2	漸次	7.5YR4/3 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根含む	目2-3cm能スリ7
3	漸次	7.5YR4/3、4/4 褐色	含む	SiC	小亜角塊状	含む	小	16	強	細根あり	ローム混じり
577P											
1	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根含む	
2	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色主体、4/3 褐色斑状	富む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	土器片あり
3	漸次	7.5YR4/3 褐色主体、4/4 褐色斑状	含む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	
579P											
1	明瞭	7.5YR3/2 黒褐色、暗褐色	富む	SiC	亜角塊状	富む	小	15	強	細根含む	目1cm能スリ7で、目5cm能スリ7で検存
2	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色、4/4 褐色	富む~含む	SiC	亜角塊状	含む	小	17	強	細根含む	目1-2cm能スリ7、目1cm能スリ7で検存
3	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	SiC	小亜角塊状	含む	小	15	強	細根含む	目1cm能スリ7
4	明瞭	7.5YR4/3、4/4 褐色	含む	SiC	小亜角塊状	含む	小	18	強	細根富む	
5	明瞭	7.5YR4/3 褐色	含む	SiC	小亜角塊状	含む	小	16	強	細根富む	目1-2cm能スリ7
6	明瞭	7.5YR4/4、4/6 褐色	含む	SiC	顆粒-小塊状	含む	0~小	12	強	細根富む	目1cm能スリ7混じり

6 近世

(1) 582 P

平面形態は上部が方形、底部がいびつな楕円形である。80Dを切る。底面近くから、人骨（おそらく1体分）と寛永通宝6枚（第45図1～6）が出土した。江戸時代の墓坑である。六道銭の組合せから、17世紀後半と考えられる（鈴木1999）。他に釘らしい鉄製品（第45図7）が出土した。棺の部品であろうか。

7 その他の遺構・遺物

以上の他、遺構としては、近現代のものと思われる炭焼き窯（4 I）や土坑、溝がある。いずれも遺構プランが明瞭であり、他の遺構を破壊して作られている場合が多い。

(1) 4 I

既に表土除去の前から、地表面に焼土が見えていた。表土除去後の精査で、3.5×1.7mの焼土範囲を検出。調査の結果、円形タライ状の燃焼施設、煙出し、土坑から成る炭焼き窯の跡と判明した。

切り合い 27Mの覆土中に構築されている。規模 燃焼施設は外径1.7×2.06m、内径1.3×1.6m。内壁の高さ33cm。土坑部は長軸1.9m。煙出し 燃焼部北側にある。底面が掘り窪められ、そこから直径12cmの横穴、さらに直径8cmの竪坑となり地表に達する。竪坑部の壁には粘土が貼られている。内壁は黒色で、コークス状の物質が付着していた。燃焼施設 南に出入口、北に煙出しをもつ、円形のタライ状の竪穴である。竪穴の壁・底面に砂を含む粘土を貼り付けて構築。その壁材の土に接する部分は黄色味を帯びた粘土であるが、大部分は赤色化して煉瓦状に硬くなっており、内壁側は壁・底面とも黒色である。燃焼施設内には、焼土・炭化物の他、瓦の破片や大型の素焼き土器片、壁材の破片があった。土坑部 燃焼施設の南、出入口の前面にある。炭化材の破片が多数出土。底面に直径32cmの円形の凹みが伴う。この付近で火打ち石が出土した。

同様の形態の炭焼き窯は、成田市の木の根No.5遺跡で調査されている。浅間内例よりも規模が大きく、燃焼施設の直径は2.47×2.33mである。第2次世界大戦直後の昭和21～23年頃のみ使用されたものとのことである（千葉県文化財センター1981）。

遺物 93点出土した。瓦片（第47図1,2）や泥面子（同図3）、火打ち石（同図6）、鉄製品（同図4,5）がこの遺構の所属時期に近いものであろう。瓦は廃物利用であろう。泥面子は球形で、ビー玉を模したものだろうか。鉄製品の用途は不明。図示しなかったが、他に厚さ1.2cm、胎土に小石や雲母を含む赤褐色の素焼土器片がある。いずれも近現代のものと判断される。他に縄文土器や土師器、須恵器片が含まれていた。4 I周辺から出土した縄文土器を図示した（第47図7,8）。

(2) 573 P

平面形態は方形。581 Pを切る。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器等の破片が6点出土した。

(3) 580 P

平面形態は長楕円形、凹み状の土坑。覆土が573 Pのものと似ている。遺物は、土師器片、須恵器片各1点。

(4) 583 P

平面形態は方形。573 Pに似る。遺物は、縄文土器片が3点出土した。1点は第9図5に示した。

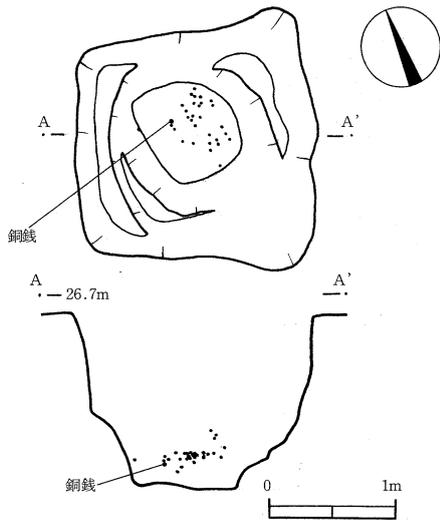
(5) 27M・28M

両溝は、平行するように台地上縁辺部に存在。27Mは10Dを切り、4 Iに切られる。28Mは584 Pを切る。

(6) 29M

583 P付近から南へ向かい、78Dを切り90°西へ屈曲して、西端は27Mに直角に接するような状態である。

(7) 30M・31M・32M

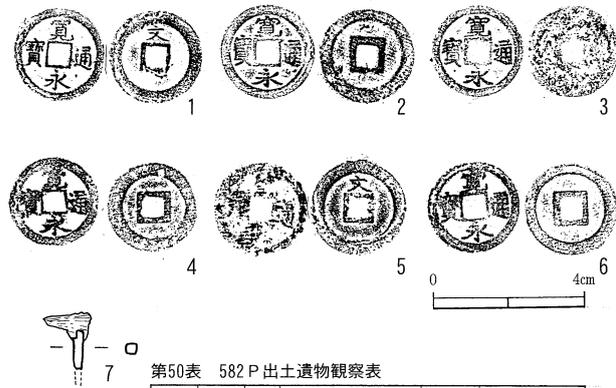


第49表 582P計測表

遺構No.	上面規模 (m)		底面規模 (m)		深さ (m)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
582P	1.50	1.40	0.68	0.60	1.70

第44図 582P実測図

銅銭以外のドットは人骨を示す



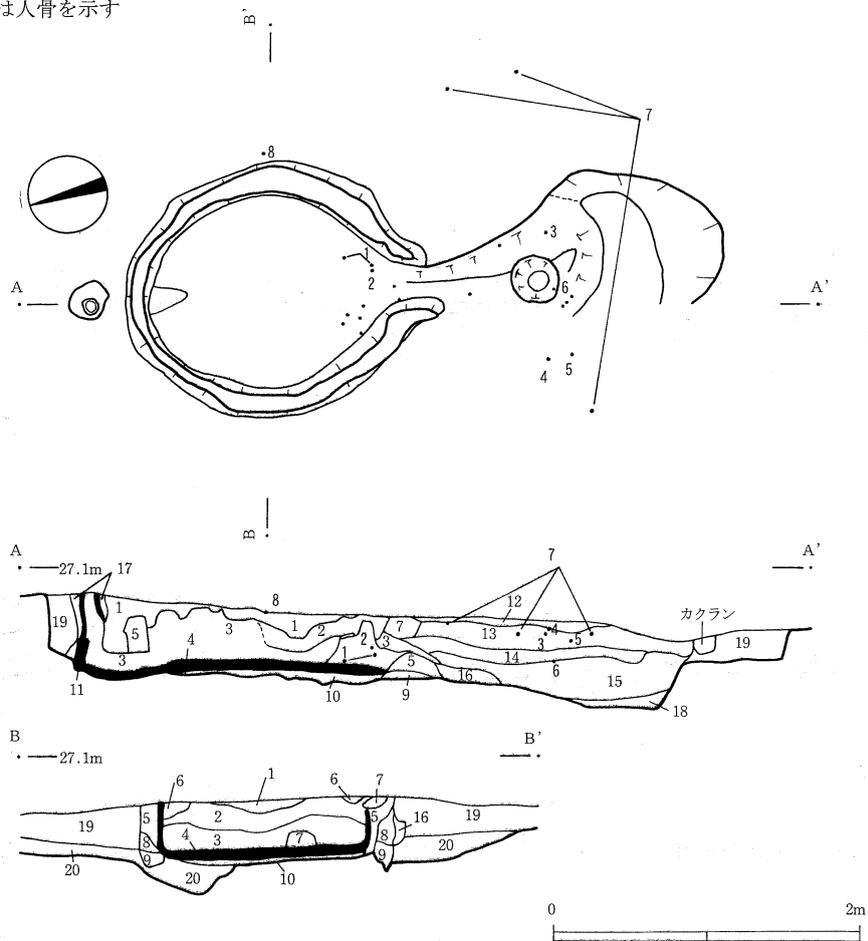
第50表 582P出土遺物観察表

発掘層別	発掘位置	種類	計測値 (mm)	質量 (g)	その他
45-1	1	銅銭	径:25, 縁:6, 厚:1.4	3.6	寛永通宝, 文銭
45-2		銅銭	径:24, 縁:5, 厚:1.2	3.5	寛永通宝, 古寛永
45-3		銅銭	径:24, 縁:6, 厚:2	4.1	寛永通宝, 古寛永
45-4		銅銭	径:24, 縁:5.5, 厚:1.5	3.4	寛永通宝
45-5		銅銭	径:25, 縁:4.6, 厚:1.7	4.6	寛永通宝, 文銭
45-6		銅銭	径:25, 縁:6, 厚:1.4	3.7	寛永通宝, 古寛永
45-7	一括	釘	長:25, 幅:4x4	1.2	木質付着

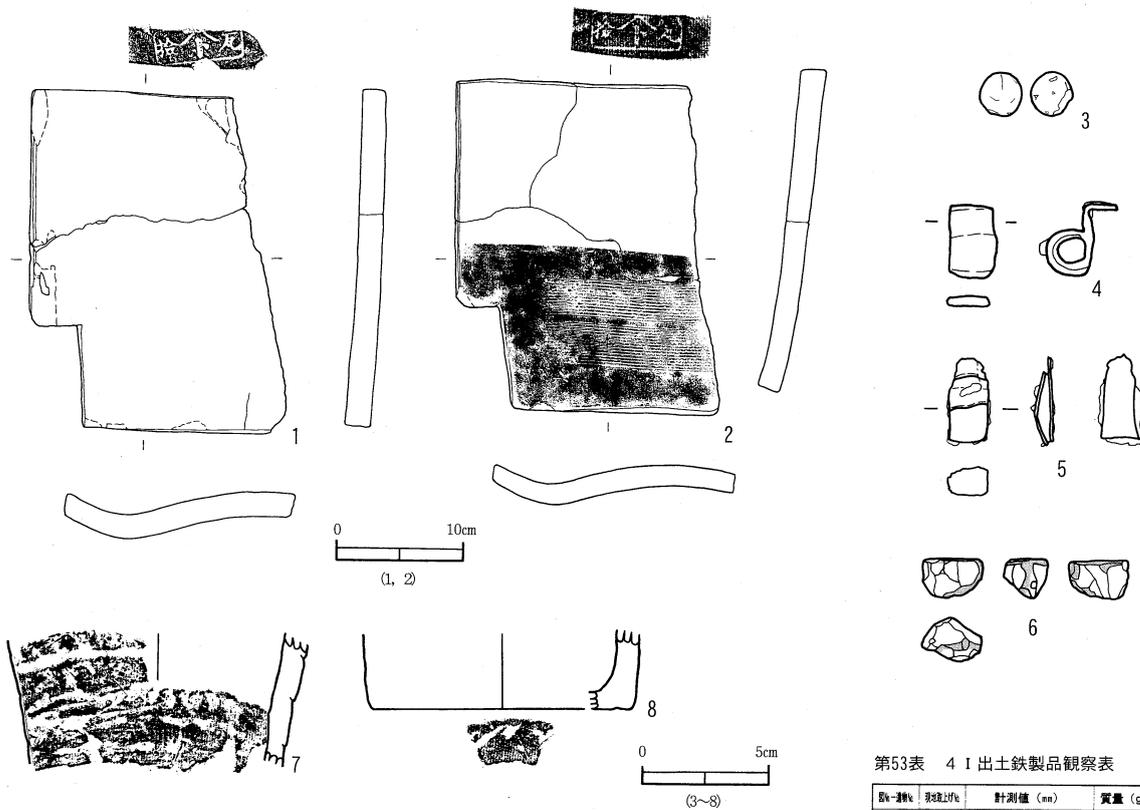
第45図 582P出土遺物実測図

第51表 4I層観察表

No.	色	特徴
1	褐色土	焼土, 炭粒混じり。しまりよい
2	褐色土	焼土, 壁材をまばらに含む。
3	赤褐色土	焼土, 壁材を主体とする
4	黒色土	焼けて黒色になった面
5	橙色土	壁材
6	紫色土	崩落した壁材
7	橙色土	レンガ状の塊
8	褐色土	粘土混じり
9	褐色土	粘土混じり。ブロック状
10	暗赤褐色土	
11	黒色土	コークス状物質
12	赤褐色土	焼土主体
13	褐色土	炭粒混じり
14	黒褐色土	炭粒, 炭化材混じり
15	暗褐色土	焼土, 炭粒混じり
16	褐色土	
17	灰褐色土	粘土
18	褐色土	ロームにじむ
19	褐色土	27M覆土
20	褐色土	ロームにじむ



第46図 4I実測図 遺物No.は第47図のNo.と一致



第52表 4 I 出土遺物観察表

図-遺物	形状寸法	種類	計測値 (cm)	色	胎土	文様・その他の特徴
47-1	74.76	瓦	長径 26, 厚さ 1.8	外: 黒灰色, 内: 灰色, 光沢	緻密	刻印あり。外面に条線
47-2	75.H10-56G	瓦	長径 27, 厚さ 2	外: 黄褐色, 内: 灰色, 光沢	緻密, 小石粒	刻印あり
47-3	38	泥面子	球径 1.6~1.7	淡褐色	緻密	一部欠損, ビー玉形
47-7	33.12.13	縄文土器深鉢	胴部 最大径 11.8	外: 赤褐色, 内: 黒灰色	砂粒	輪痕, 鬚状指頭痕
47-8	4	縄文土器深鉢	底部 復元底径 10.2	外: 赤褐色, 内: 褐色	細砂	ナデ, ミガキ

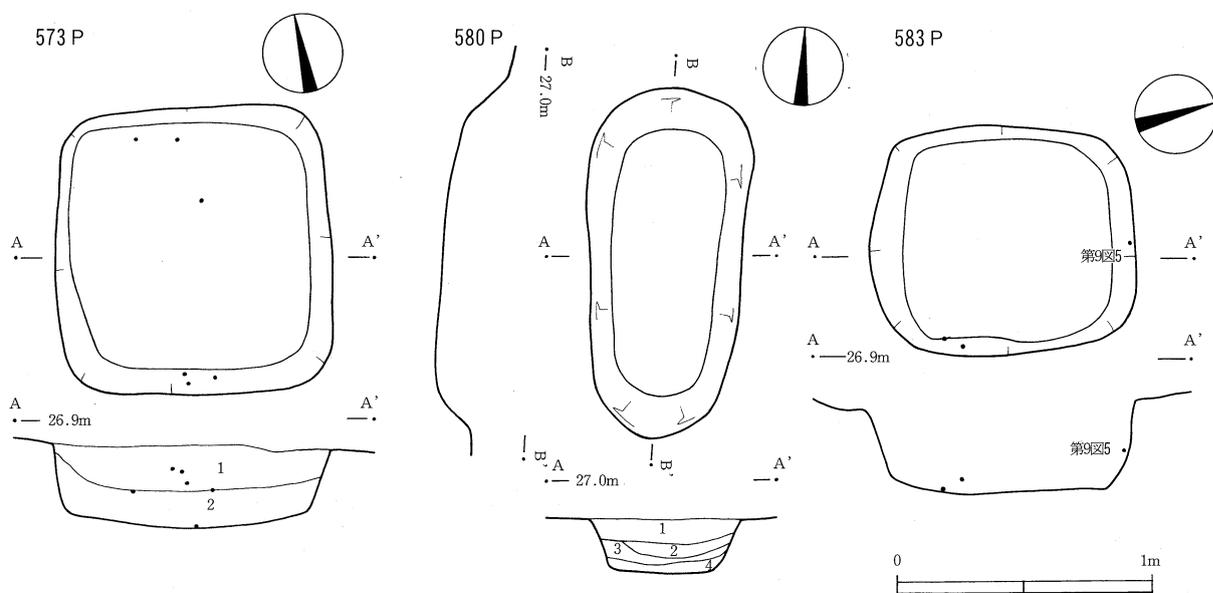
第53表 4 I 出土鉄製品観察表

図-遺物	形状寸法	計測値 (mm)	質量 (g)
47-4	30	長:31, 幅:20.5, 厚:4	18.1
47-5	32	長:37, 幅:18, 厚:12	3.9

第54表 4 I 出土石製品観察表

図-遺物	形状寸法	器種	計測値 (mm)	質量 (g)	材質
47-6	55	火打石	長:15, 幅:23, 厚:17	6.4	石英

第47図 4 I 出土遺物実測図



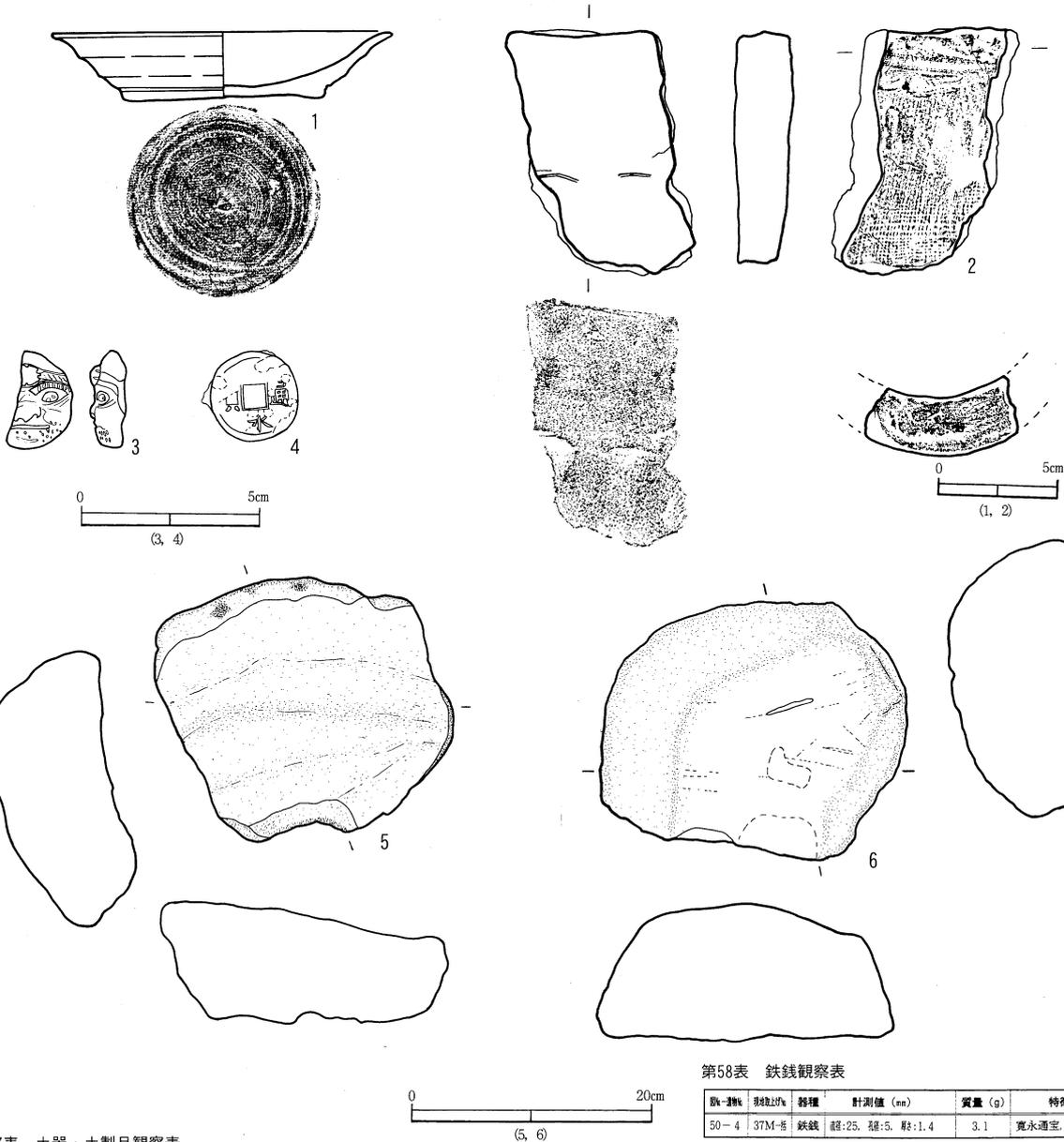
第48図 573 P・580 P・583 P 実測図

第55表 573P・580P・583P計測表

遺構No	上面規模 (m)		底面規模 (m)		深さ (m)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
573P	1.15	1.09	0.99	0.94	0.33
580P	1.39	0.60	1.06	0.41	0.18
583P	1.04	0.91	0.82	0.81	0.35

第56表 573P・580P土層観察表

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
573P											
1	漸変	7.5YR3/4 4/3 褐色	含む	S1C	小垂角塊状	含む	小	15	中	細根含む	目1-2#胞スロ7
2		7.5YR4/3 4/4 褐色	含む	S1C	小垂角塊状	含む	小	15	中	細根含む	目2-3#胞スロ7
580P											
1	判然	7.5YR4/3 褐色	含む	S1L	小垂角塊状	含む	小	22	弱	細根含む	目1-2#胞スロ7 目1-2#胞スロ7
2	判然	7.5YR4/3 3/3 暗褐色	含む～ 含む	S1L	小垂角塊状	含む	小	20	弱	細根あり	目1-2#胞スロ7
3	判然	7.5YR4/3, 4/4 褐色	含む	S1CL	小垂角塊状	含む	小	20	中	細根含む	
4	全掘時に掘り広がった部分										



第57表 土器・土製品観察表

図-遺物	現地取上げNo	器・部	部位	復元計測値等 (cm)	色	胎土	調整・その他の特徴
50-1	一括	埴器 皿	口縁1/2X	径14.2, 縁8.5, 高さ2.8	淡橙褐色	雲母, 赤褐色スロ7	口, 縁, 底, 縁: 回転へう整形
50-2	80D-#	布目瓦	平瓦一部	厚さ 2.4	暗・褐色, 暗・赤褐色, 暗赤	小石粒 (長石等)	凹面: 布織り合わせ目あり
50-3	76D-#	泥面子	半欠	径 2.7, 厚さ 0.7	淡橙褐色	緻密	塊か

第58表 鉄銭観察表

図-遺物	現地取上げNo	器種	計測値 (cm)	質量 (g)	特徴等
50-4	37M-#	鉄銭	縦:25, 横:5, 厚:1.4	3.1	寛永通宝, 錆化激しい

第59表 石製品観察表

図-遺物	現地取上げNo	器種	計測値 (cm)	質量 (kg)
50-5	H10-56G 一括	磁石	縦:22.6, 横:22.5, 厚:12.2	7
50-6	H10-56G 一括	磁石	縦:25.8, 横:22.1, 厚:22.2	10.7

第49図 その他の遺物実測図

平行するように存在する。30Mは2条の溝が交わっているものなので、合計4条の溝が平行していることになる。30M・31Mとも79D・76D・77Dを切る。32Mは78Dを切る。

(8) その他の遺物

土師器高台付皿(第49図1)表土除去後に出土したものであるが、出土位置から離れてしまったため所属遺構不明となってしまった。形態は78D出土品(第40図10)に類似する。

布目瓦(第49図2)80D出土。79Dからも小片が出土した。いずれも平瓦である。布目瓦は市内では井戸向遺跡D127号遺構に出土例がある(千葉県文化財センター1987)が、稀である。

泥面子(第49図3)今回の調査区域から出土した泥面子に類するものは、4Iから1点(第47図3)、76Dから2点出土した。後者のうち良好な1点を図示した。

鉄銭(第50図4)37M出土。錆化が激しく保存処理の結果、鉄銭とわかった。「永通宝」の一部が辛うじて判読できる。

砥石(第50図5・6)H10-56Gにあった立木の根元に、やや埋まり気味に存在した。地面に置いて使用する砥石であろう。5は砂岩質で、6は硬質の石である。

8 調査のまとめ

旧石器時代 6点と数は少ないが、AT層直下の層からの出土資料を中心に、旧石器の存在とその内容について明らかにすることができた。

縄文時代 中期阿玉台式の古手を中心とした遺物と遺構を確認した。他に井草式土器、黒浜式土器を確認した。いずれも八千代市内で検出されることの多い時期の遺物であり、特に阿玉台式は浅間内遺跡の縄文期の主体を占めている。新川流域における縄文時代の一端を垣間見ることができた。

弥生時代 当地域における弥生時代後期の典型的な住居跡と遺物、及び壺1個体を埋納した小土坑を確認した。住居跡からの出土遺物は少なくしかも破片が中心である。しかし、穂積み具と考えられる鉄製品は好資料と言えよう。また、575Pの埋納された壺には人骨が納められていたのであろうか。本遺跡内では唯一の事例であるが、市内ではいくつか類例がある。該期の埋葬形態として認識しておきたい。

奈良時代 3軒の住居跡を該期のものと判断したが、図版に耐え得る遺物は少なかった。しかし、律令制度が整備された時代の地方村落の姿を示唆する資料として捉えておきたい。

平安時代 9世紀中頃の住居跡2軒を調査した。まさに「村神郷」の時代の遺構・遺物である。墨書土器を含む好資料を追加することができた。

江戸時代 墓坑1基を確認し、六道銭を伴う埋葬について明らかにできた。人骨については今後、人類学の専門家による分析を加えたいと考えている。

その他に炭焼き窯などの資料を得ることができた。

参考文献

小笠原永隆(1997)「八千代市神野貝塚採集の土器片錘について」(『貝塚研究』2)

財団法人千葉県文化財センター(1981)『木の根—成田市木の根No.5、No.6遺跡発掘調査報告書—』

財団法人千葉県文化財センター(1987)『八千代市井戸向遺跡』

財団法人千葉県文化財センター(1996)『市原市武士遺跡1』

鈴木公雄(1999)『出土銭貨の研究』東京大学出版会

千葉県立房総風土記の丘(2001)『平成13年度企画展図録 槍の身振り』

山内文(1977)「山田水呑遺跡の植物性遺存体」(山田遺跡調査団『山田水呑遺跡—上総国山邊郡山口郷推定遺跡の発掘調査報告書—』)

Ⅲ 第7次確認調査の遺構と遺物

調査区域は道路によって、大きく3箇所に分けられたが、23T～73Tを設置した2,800㎡の梨畑が調査の中心となった。74T及び77T・78Tを設置した梨畑と、75T・76Tを設置した宅地及び畑地は、埋め立てや削平などの地形改変が著しく、遺物は縄文土器片1点、土師器片8点などであり、遺構は検出されなかった(第50図)。2,800㎡の梨畑では、竪穴住居跡20軒、土坑10基、溝2条を確認した。得られた遺物は総数2,611点である。

1 縄文時代

調査区域の北部を中心として、約700点の遺物を得た。特に多かったのは、59Tの311点、63Tの105点である。主体は中期前半の阿玉台Ⅰa式～Ⅱ式である。単列の押し引き文、複列の押し引き文や独特の突起が付けられた土器が多く見られる(第52図2～21)。この他には、早期の井草式と思われる口縁部破片(同図1)、土製円盤(同図22)、土器片錘(同図23～26)、石鏃、黒曜石の剥片などを確認した。

遺構は、59T・60T・64Tなどで検出された土坑・ピットが、この時代に属するのではないかと推定した。

2 弥生時代

弥生時代後期の土器片が約70点出土した。内外からの押圧によって細かい波状になる口唇部をもつ甕の破片などがあるが、小片がほとんどであるため、図は省略した。

竪穴住居跡は6軒と判断した。39T・30T・33T・49Tなど調査区の西～南に分布しているようである。いずれも遺物量は少なく、39Tで4点、30Tで10点、33Tで5点、49Tで7点である。

3 古墳時代

土師器片は約1,300点、須恵器片は約330点出土した。これらには古墳時代前期・後期、奈良平安時代のものが含まれる。土師器はほとんどのトレンチから出土し、特に64Tの184点、61Tの129点、57Tの102点などが多かった。これらのトレンチからは須恵器も多く出土し、64Tが49点、57Tが46点、61Tが41点であった。

古墳時代前期の遺物は、高坏やハケ目のある甕などが認められるが図は省略した。後期頃と思われる土師器の甕(第53図1)、須恵器の蓋(同図2)を図示した。

遺構は、前期の竪穴住居跡6軒、後期が5軒と判断した。前期の住居跡は35T・55T・68T・71Tなど調査区全体に、後期の住居跡は、23T・42T・57T・61Tなど調査区の北～西に主に分布しているようである。

4 奈良・平安時代

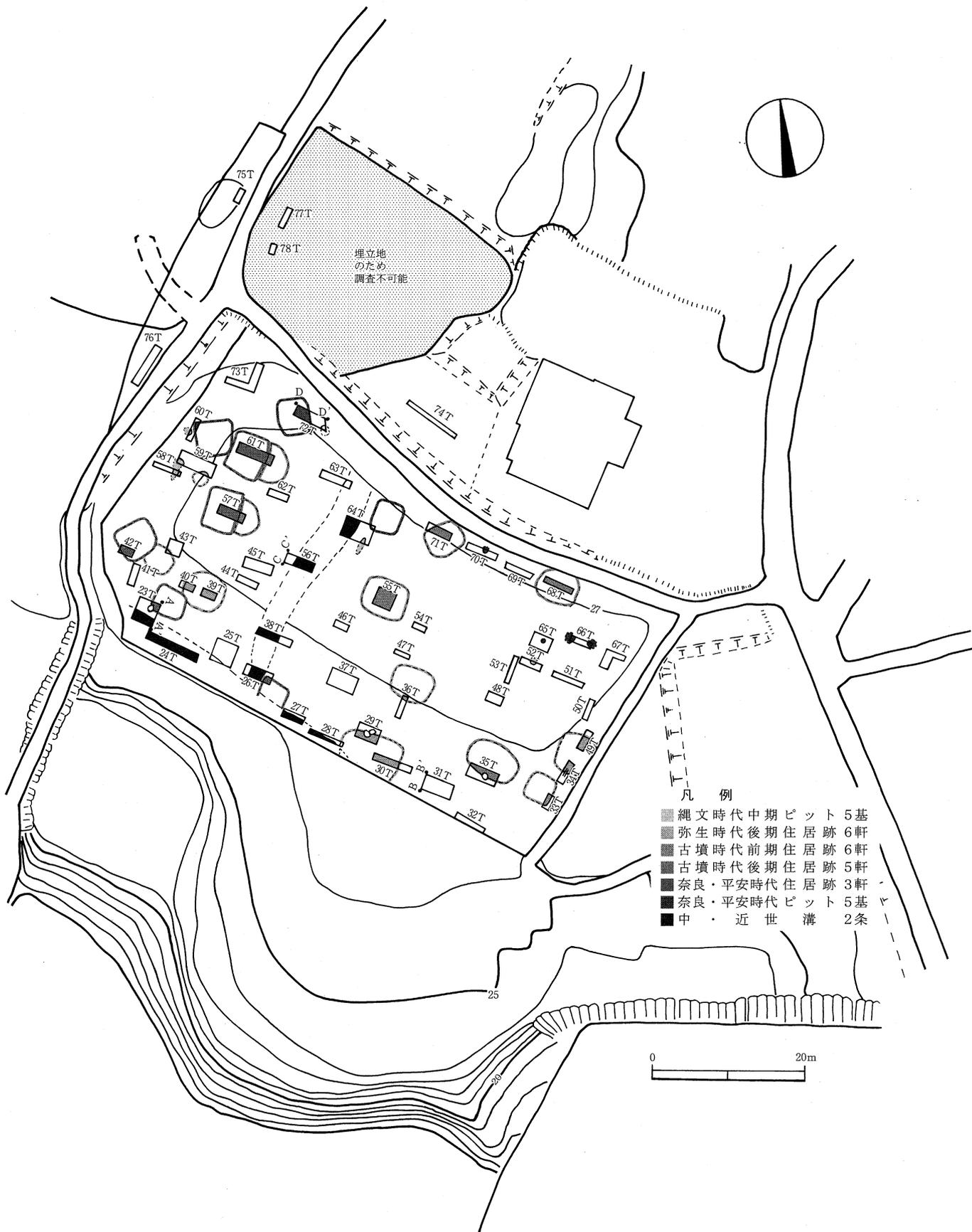
竪穴住居跡3軒、土坑5基と判断した。住居跡は調査区北部の60T・64T・72Tに分布している。

遺物としては、8世紀頃と考えられる須恵器2点(第53図4・5)、東海系の土師器(同図3)、9世紀と考えられる土師器の坏(同図6)、須恵器の坏(同図7)を図示した。6の坏の口唇部には、煤状の黒色物質が付着しており、灯明皿と考えられる。しかしこの遺物は遺構に伴うものではなかった。

5 中・近世

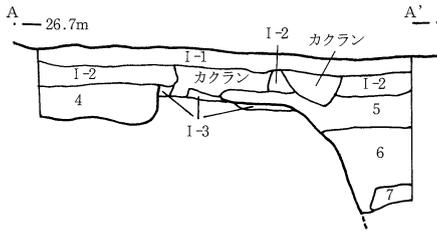
溝2条を検出した。うち1条は、調査区域の南西辺を北西～南東方向に走っており、平成6・7年度の調査の際に検出した溝の続きと考えられる。この溝に直交するように、南西～北東方向の溝が1条検出された。

南西～北東方向の溝の26T部分から出土した鉄斧を図示した(第53図8)。



第50図 第7次確認調査遺構配置図

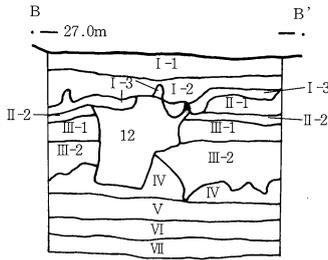
23 T



第60表 第7次確認調査23 T土層観察表

No	層位	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	I-1	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	SL	顆粒-小砂礫	頗る富む	0~小	13	弱	細根富む	耕作土
2	I-2	明瞭	7.5YR4/2 灰褐色	含む	L	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	跡土: 82-3m 龍土, 龍土 7/8: 81-2m 龍土
3	I-3	明瞭	7.5YR4/4 暗褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	14	中	細根含む	ローム混じり
4	住居覆土		7.5YR3/3 暗褐色	富む	SiL	小亜角塊状	富む	小	15	強	細根含む	
5	溝覆土1	判然	7.5YR3/3 暗褐色	富む	L	小亜角塊状	含む	小	22	中	細根含む	龍土, 龍土, 龍土
6	溝覆土2	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	CL	小亜角塊状	富む	小	17	強	接粘。龍土	龍土。7/8: 81-2m 龍土
7	溝覆土3		7.5YR4/4 暗褐色	含む	SiL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根あり	ロームの再堆積

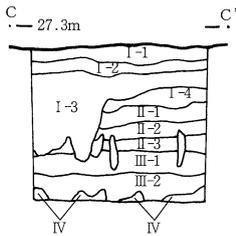
31 T



第61表 31 T土層観察表

No	層位	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	I-1	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	SL	顆粒-小砂礫	含む	0~小	12	0	細根富む	耕作土。砂質
2	I-2	明瞭	7.5YR3.5/3 暗褐色~褐色	富む~含む	L	屑粒状~小亜角塊状	富む	0~小	20	弱	主根・細根含む	81-3m 龍土, 81-2m 龍土, 81-2m 龍土
3	I-3	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	L	亜角塊状	あり	中	26	弱	細根含む	81-3m 龍土, 81-2m 龍土
4	II-1	明瞭	7.5YR3/4 暗褐色	富む	SiCL	亜角塊状	富む	小	17	中	主根あり。細根含む	
5	II-2	判然	7.5YR3/4 暗褐色	富む~含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	
6	III-1	明瞭	7.5YR4/5 暗褐色	含む	SiC	小亜角塊状	富む	小	22	強	主根・細根	
7	III-2	判然	7.5YR4/4 暗褐色	含む	SiC	小亜角塊状	含む	小	21	強	細根含む	
8	IV	判然	7.5YR4/6 褐色	含む	SiC	亜角塊状	富む	小	25	強	細根あり	81-3m 龍土, 81-2m 龍土
9	V	判然	7.5YR4/4 褐色	含む	SiC	小亜角塊状	含む	小	25	強	細根あり	81-2m 龍土, 81-2m 龍土
10	VI	判然	7.5YR5/6 明褐色	あり	SiC	小亜角塊状	富む	中	27	強	0	山形砂礫(4%), 81-2m 龍土, 0.5m 龍土
11	VII	判然	7.5YR4/6 褐色	含む	SiC	亜角塊状	含む	小~中	25	強	0	81-3m 龍土, 81-2m 龍土
12	溝覆土		7.5YR3/4 暗褐色	富む	LiC	屑粒状~小亜角塊状	頗る富む	0~小	11	中	細根含む	85-40-47cm, 82-3m 龍土

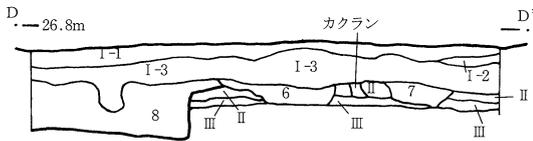
56 T



第62表 56 T土層観察表

No	層位	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	I-1		7.5YR3/3 暗褐色	富む	SL	小亜角塊状	含む	小	20	0	細根富む	耕作土。
2	I-2		7.5YR3.5/3 暗褐色	龍-龍	SL	小亜角塊状	富む	小	25	0	細根含む	耕作土。
3	I-3		7.5YR3/3 暗褐色	富む	L	小亜角塊状	含む	小	20, 15	弱	細根含む	跡土, 龍土, 龍土, 龍土, 龍土
4	I-4		7.5YR4/2 灰褐色	含む	L	亜角塊状	富む	小	23	弱	接粘。龍土	跡土, 龍土, 龍土
5	II-1		7.5YR3/2 3/3 暗褐色	富む	SiCL	亜角塊状	富む	小	17	中	細根含む	径1-2mm黄色スクリ
6	II-2		7.5YR3/3 4/3 暗褐色	富む~含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根あり	
7	II-3		7.5YR4/3.4/4 褐色	含む	SiC	小亜角塊状	富む	小	22	強	接粘。龍土	龍土, 龍土, 龍土
8	III-1		7.5YR4/5 褐色	含む	SiC	亜角塊状	富む	小	22	強	細根あり	
9	III-2		7.5YR4/4 褐色	含む	SiC	亜角塊状	富む	小	23	強	細根あり	径2mm黄色スクリ
10	IV		7.5YR4/6 褐色	含む	SiC	小亜角塊状	富む	中	25	強	なし	80.5m 龍土, 龍土

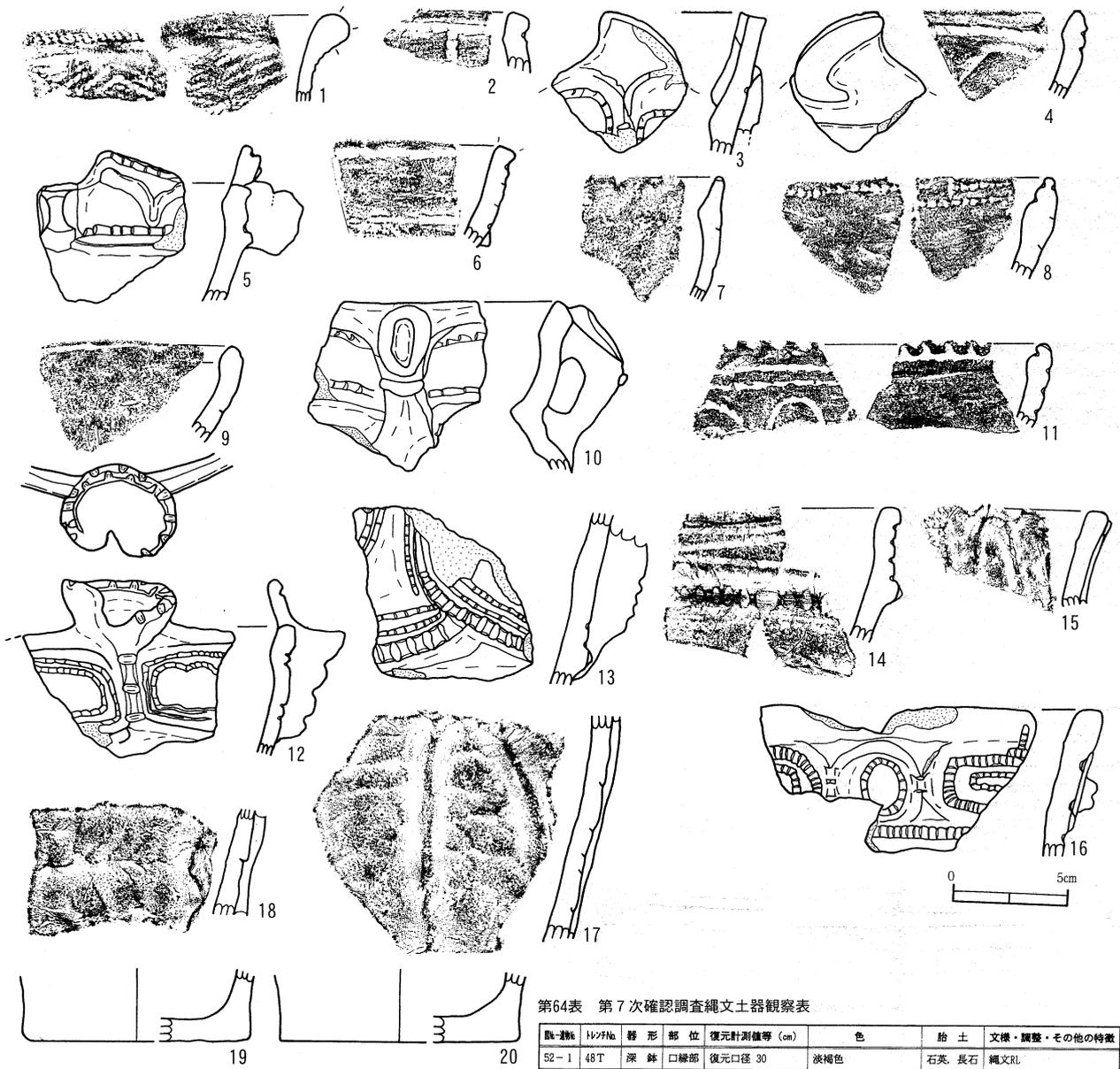
72 T



第63表 72 T土層観察表

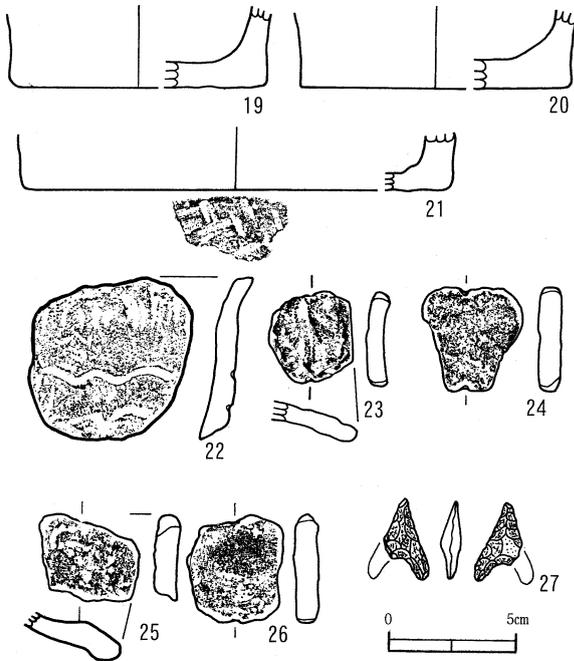
No	層位	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	I-1	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	SL	顆粒-小砂礫	富む	0~小	15	0	細根富む	
2	I-2	明瞭	7.5YR3/4 暗褐色	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	
3	I-3	明瞭	7.5YR3/3 暗褐色	富む	L	小亜角塊状	富む	小	17	弱	細根含む	
4	II	明瞭	7.5YR4/3.4/4 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根富む	
5	III	判然	7.5YR4/4 褐色	含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	
6	溝覆土		7.5YR3/3 暗褐色	富む~含む	SiCL	屑粒状~小亜角塊状	富む	0~小	15	中	細根富む	
7	溝覆土		7.5YR3/3 暗褐色	富む~含む	SiCL	小亜角塊状	富む	小	14	中	細根富む	
8	住居覆土		7.5YR3/2 暗褐色	富む	SiC	亜角塊状	含む	小	17	強	細根含む	

第51図 第7次確認調査トレンチ土層断面図



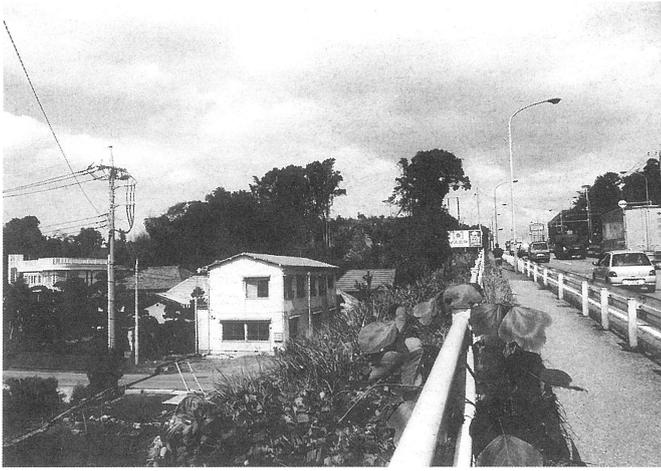
第64表 第7次確認調査縄文土器観察表

観測品	口径	器形	部位	復元計測値等 (cm)	色	胎土	文様・調整・その他の特徴
52-1	48T	深鉢	口縁部	復元口径 30	淡褐色	石英、長石	縄文丸
52-2	59T	深鉢	口縁部	復元口径 20	暗褐色	長石、細砂	単列押し引き文
52-3	64T	深鉢	口縁突起部	-	灰褐色	細砂	隆線、単列押し引き文
52-4	59T	鉢	口縁部	復元口径 25.2	暗褐色	長石、雲母	単列押し引き文
52-5	62T	深鉢	口縁部	復元口径 19	赭色、褐色、灰	陶、珪、黏土	突起、単列押し引き文、隆線
52-6	59T	深鉢	口縁部	復元口径 27	淡褐色、灰色	長石、雲母	単列押し引き文、隆線
52-7	59T	鉢	口縁部	復元口径 15.6	外: 淡褐色、内: 淡褐色	長石、雲母	口唇部に刻み
52-8	59T	鉢	口縁部	復元口径 30	外: 赤褐色、内: 淡赤褐色	細砂、長石	口唇外側に単列押し引き文、内側に複列押し引き文
52-9	53T	浅鉢	口縁部	復元口径 20	暗褐色、黒褐色	長石、雲母	外: ナデ、内: ミガキ
52-10	63T	深鉢	口縁部	復元口径 31.4	赤褐色	陶、珪、黏土	把手、単列押し引き文、隆線
52-11	59T	深鉢	口縁部	復元口径 20.8	暗赤褐色	長石、雲母	口唇部、突起、複列押し引き文
52-12	59T	深鉢	口縁部	復元口径 22	赤褐色、暗赤褐色	長石、雲母	唇状突起 (沈線と刻み)、複列押し引き文、隆線
52-13	59T	深鉢	口縁付近	復元口径 31	赤褐色	陶、珪、黏土	複列押し引き文、刻みのある隆線
52-14	59T	深鉢	口縁部	復元口径 31	外: 褐色、内: 褐色	細砂	口唇に刻み、隆線
52-15	69T	深鉢	口縁波頂部	-	外: 褐色、内: 褐色	細砂	口唇に刻み、隆線
52-16	59T	深鉢	口縁部	復元口径 21.4	淡赤褐色	長石、雲母	突起、複列押し引き文、隆線
52-17	59T	深鉢	胴部	復元胴部最大径 35	外: 褐色、内: 褐色、褐色	陶、珪、黏土	腰状指頭痕、隆線
52-18	59T	深鉢	胴部	復元胴部径 26	外: 褐色、内: 褐色、褐色	陶、珪、黏土	腰状指頭痕、隆線
52-19	59T	深鉢	底部	復元底径 10	赤褐色、淡褐色	長石、砂粒	ナデ
52-20	59T	深鉢	底部	復元底径 10.6	外: 褐色、内: 淡褐色	陶、珪、黏土	ナデ
52-21	59T	深鉢	底部	復元底径 17.6	外: 褐色、内: 褐色	陶、珪、黏土	底面に網代痕



第52図 第7次確認調査出土遺物実測図(1)

写 真 图 版



(1) 第5次本調査区遠景



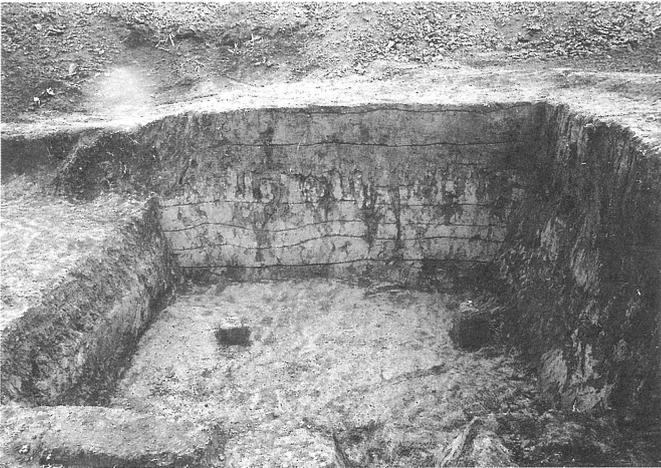
(2) 調査区近景



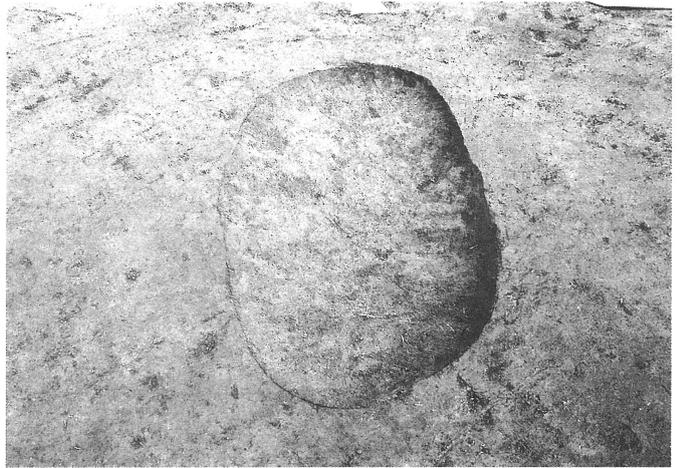
(3) 調査前風景



(4) 旧石器No.1 出土状況



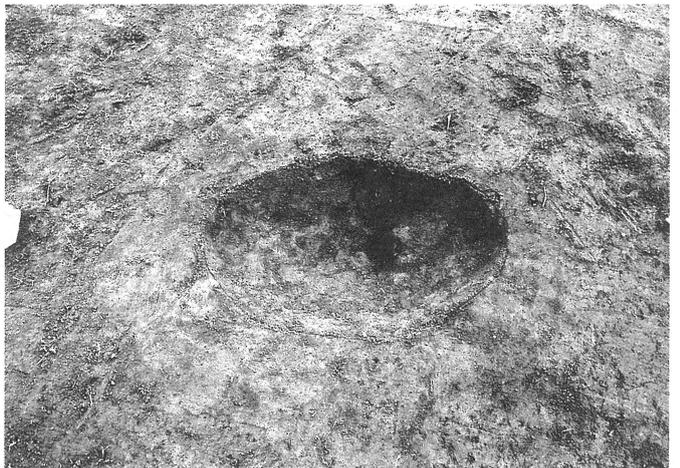
(5) 旧石器トレンチ調査状況



(6) 574P 完掘状況



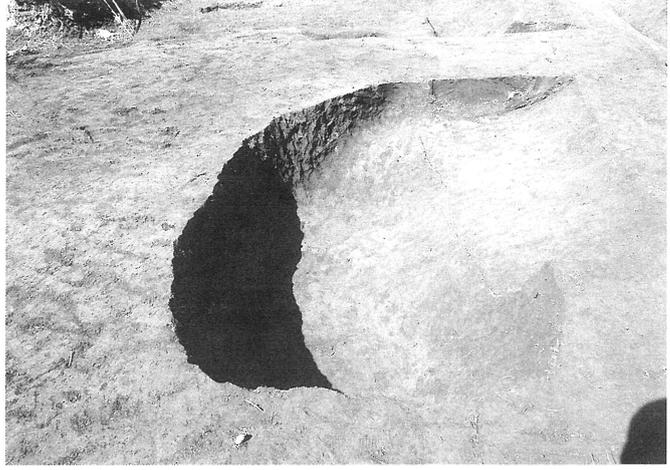
(7) 578P 遺物出土状況



(8) 578P 完掘状況



(1) 573 P・581 P 完掘状況



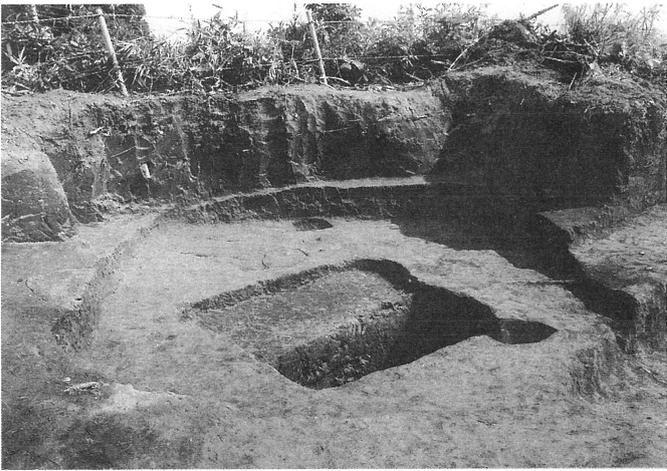
(2) 584 P 完掘状況



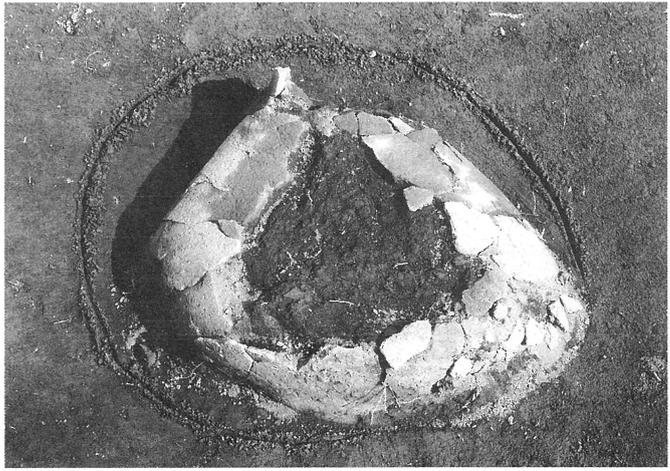
(3) 80D 土層断面



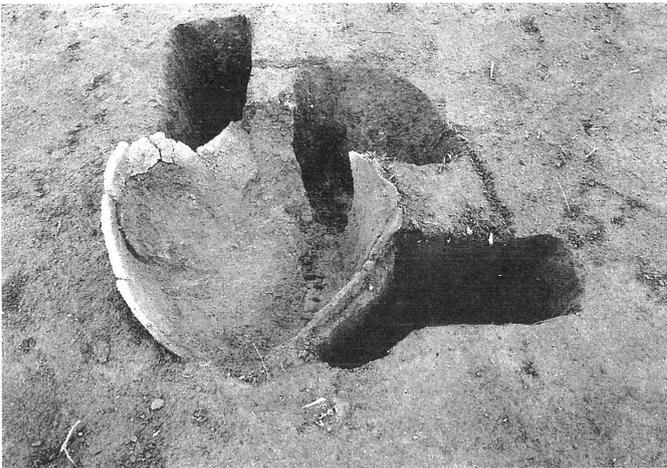
(4) 80D 鉄製品出土状況



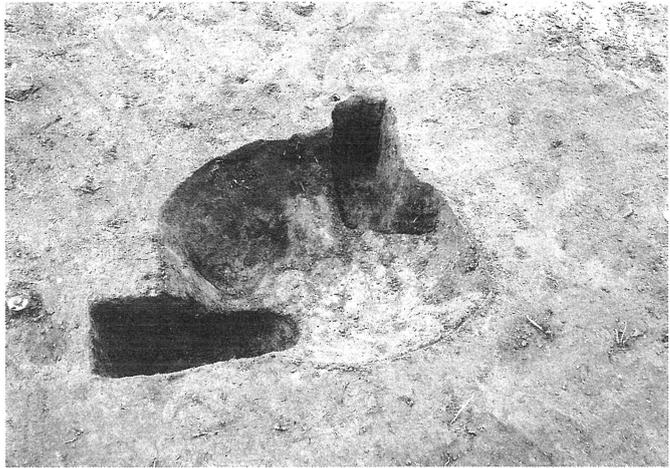
(5) 80D 完掘状況



(6) 575 P 検出状況



(7) 575 P 調査状況



(8) 575 P 完掘状況



(1) 576P完掘状況



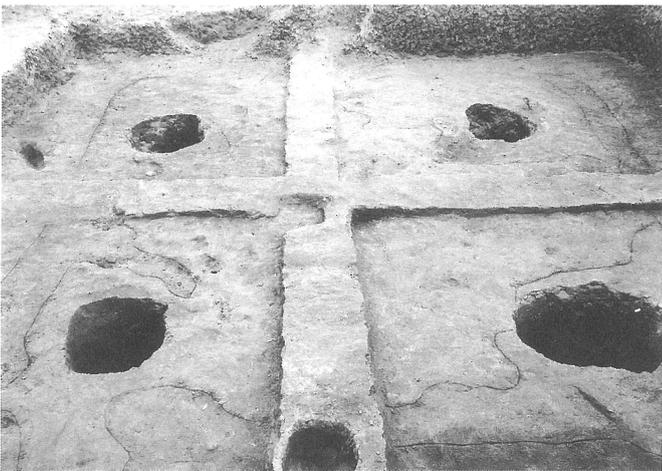
(2) 10D遺物出土状況



(3) 10D土層断面



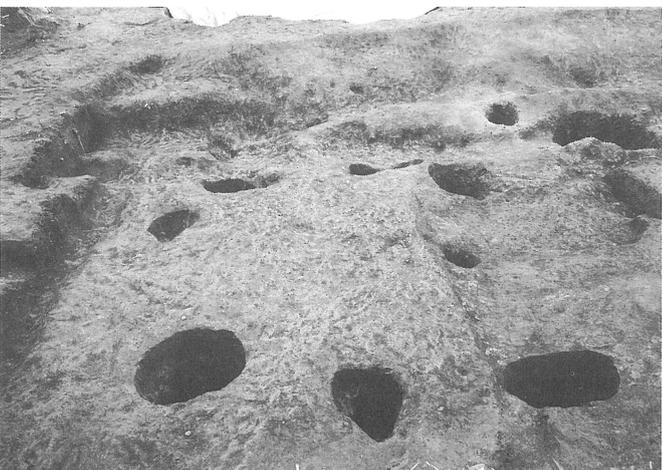
(4) 10D-A完掘状況



(5) 10D-B床面検出状況



(6) 77D-P2土層断面



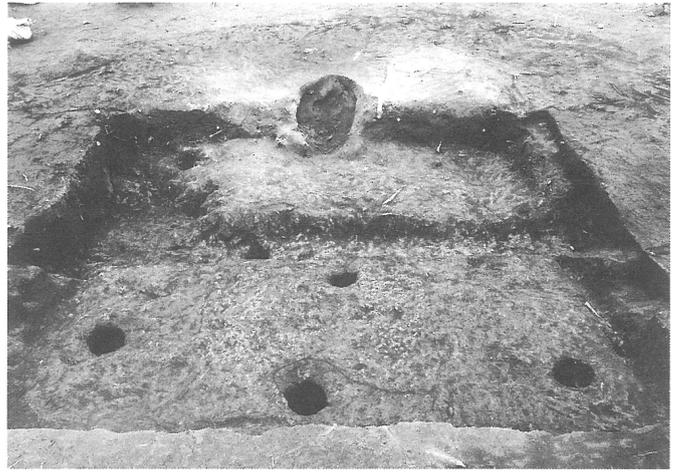
(7) 77D完掘状況



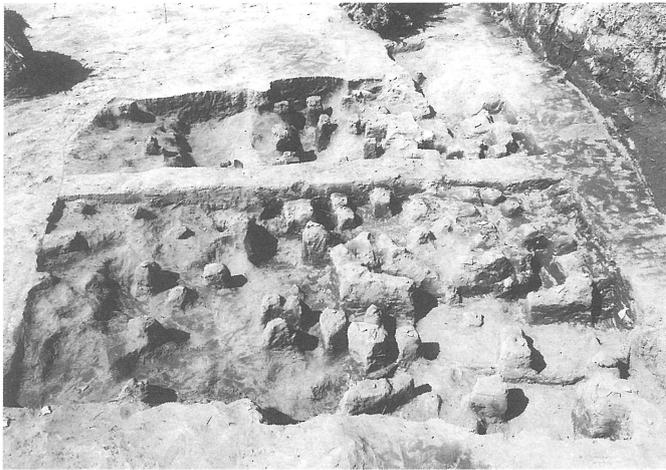
(8) 79D遺物出土状況



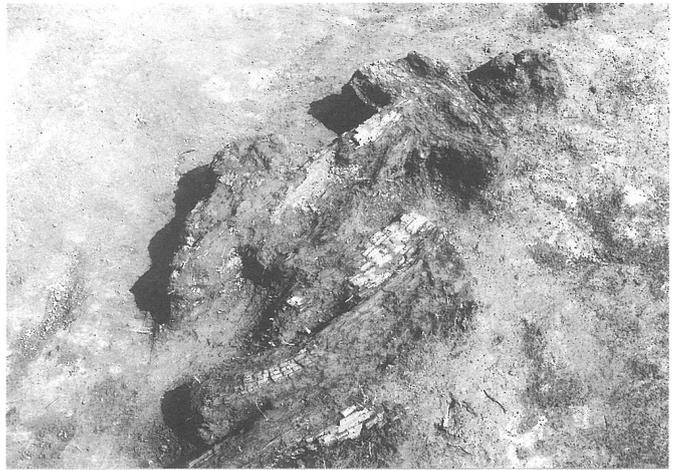
(1) 79Dカマド完掘状況



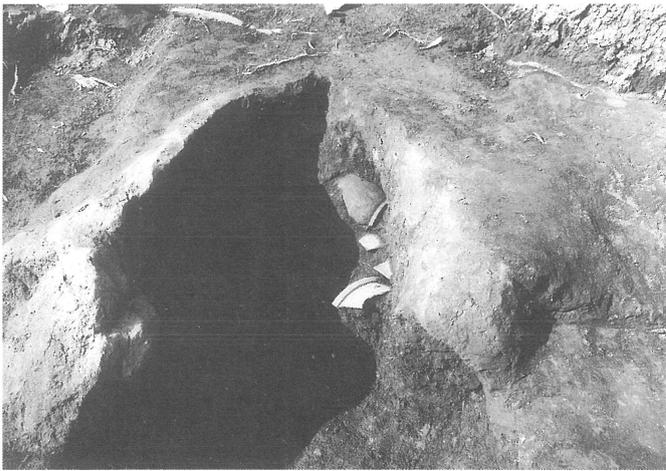
(2) 79D完掘状況



(3) 76D遺物出土状況



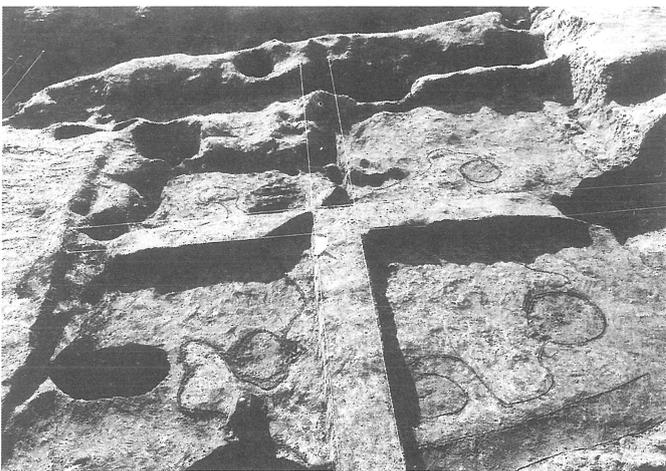
(4) 76D炭化材出土状況



(5) 76Dカマド内遺物出土状況



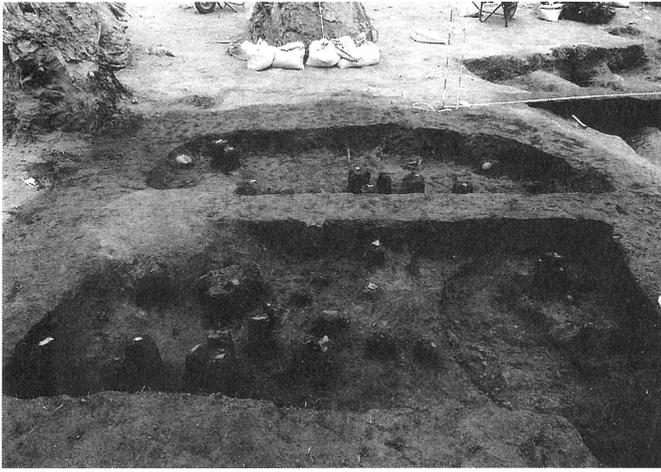
(6) 76D-A完掘状況



(7) 76D-B床面検出状況



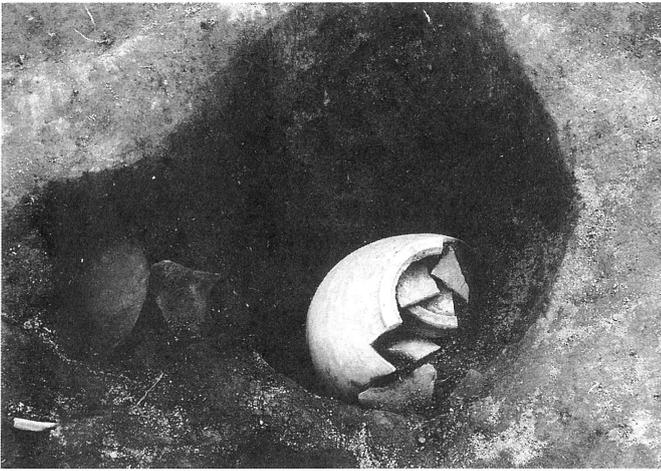
(8) 76D-B完掘状況



(1) 78D遺物出土状況



(2) 78D砥石 (No.18, 19) 出土状況



(3) 78Dカマド内遺物 (No.15) 出土状況



(4) 78D遺物 (No.5) 出土状況



(5) 78D完掘状況



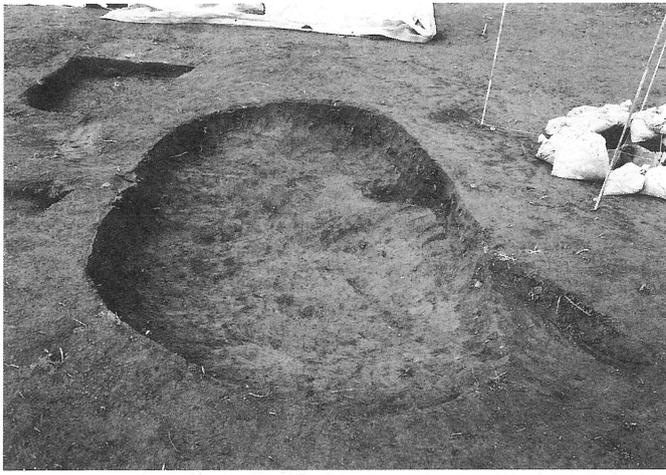
(6) 78Dカマド完掘状況



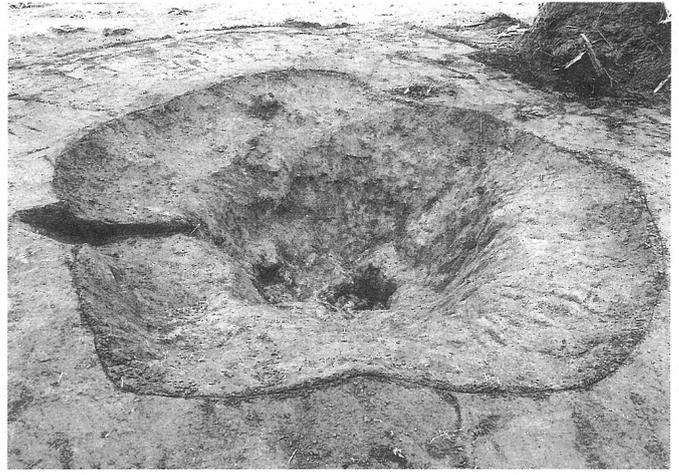
(7) 572P完掘状況



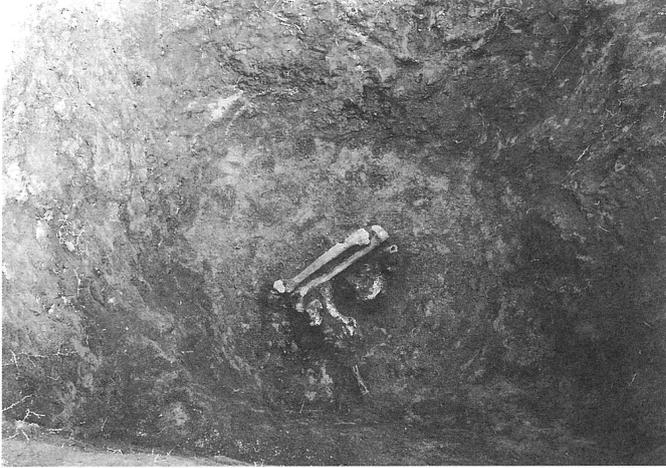
(8) 577P銅鏟出土状況



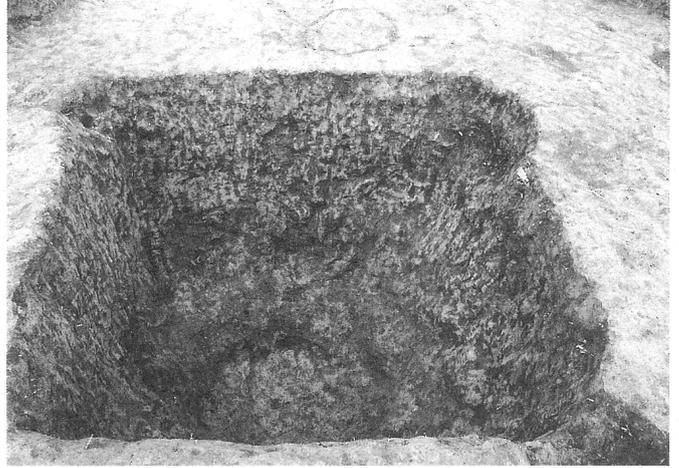
(1) 577P 完掘状況



(2) 579P 完掘状況



(3) 582P 人骨出土状況



(4) 582P 完掘状況



(5) 4I 調査状況



(6) 4I 燃焼部調査状況



(7) 4I 完掘状況



(8) 4I 煙道部



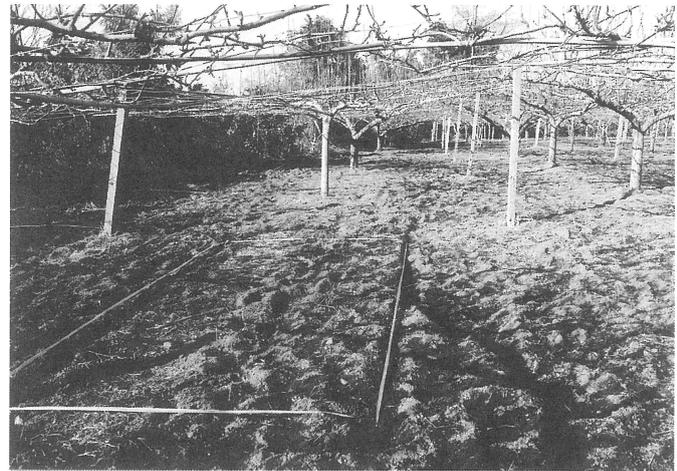
(1) 第5次本調査終了状況-1-



(2) 第5次本調査終了状況-2-



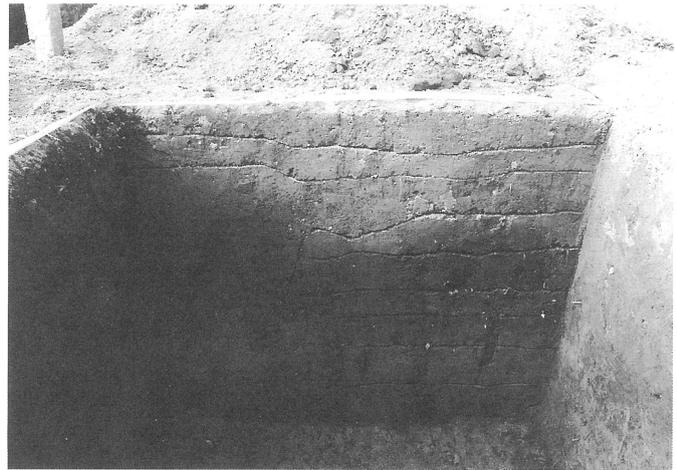
(3) 第5次本調査終了状況-3-



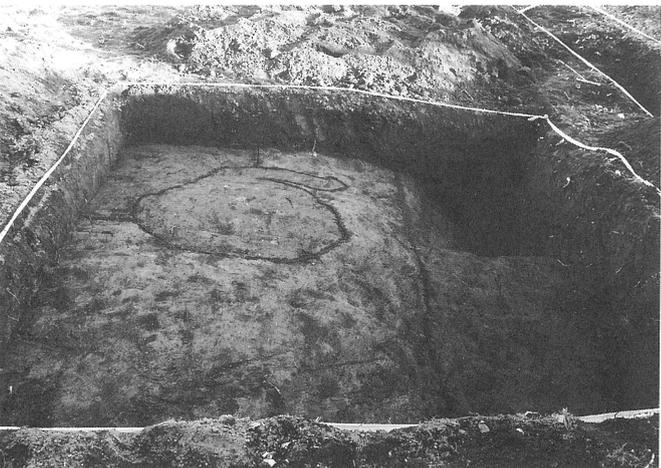
(4) 第7次確認調査区調査前風景



(5) 31T 土層断面



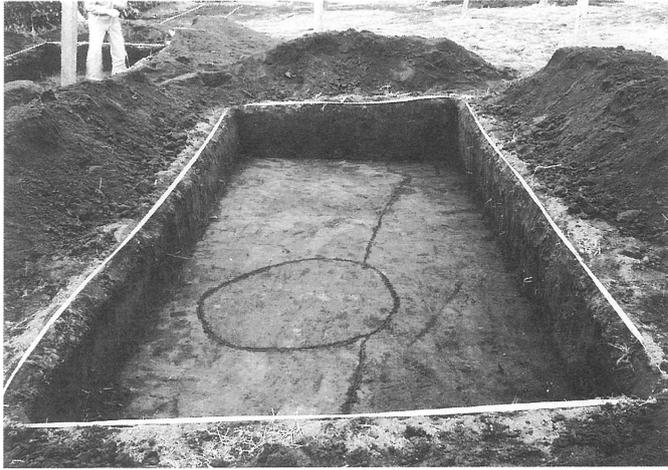
(6) 56T 土層断面



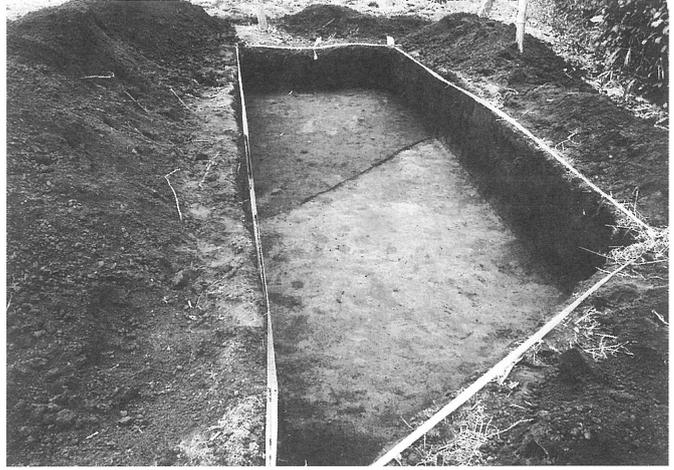
(7) 23T 遺構検出状況



(8) 33T 遺構検出状況



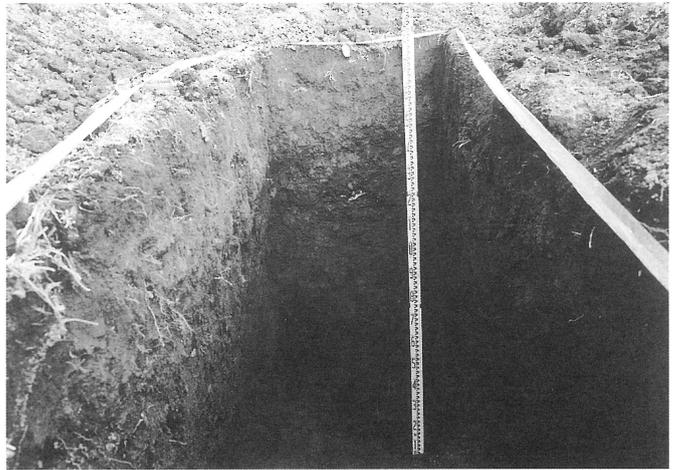
(1) 35T遺構検出状況



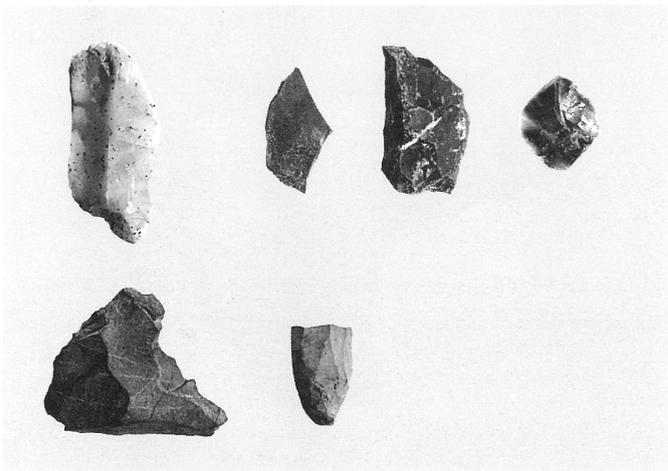
(2) 72T遺構検出状況



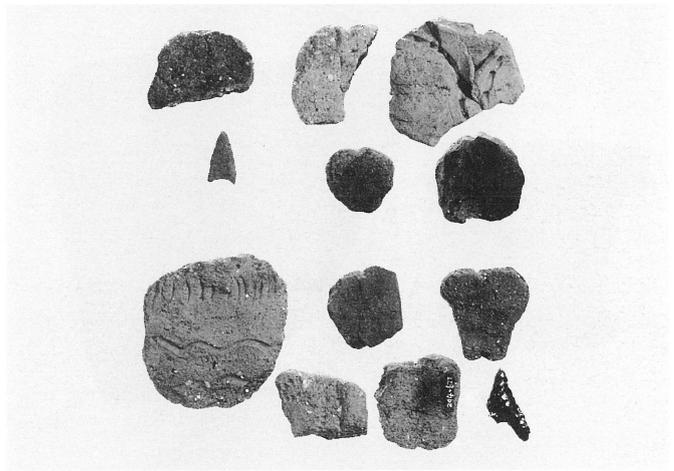
(3) 76T調査状況



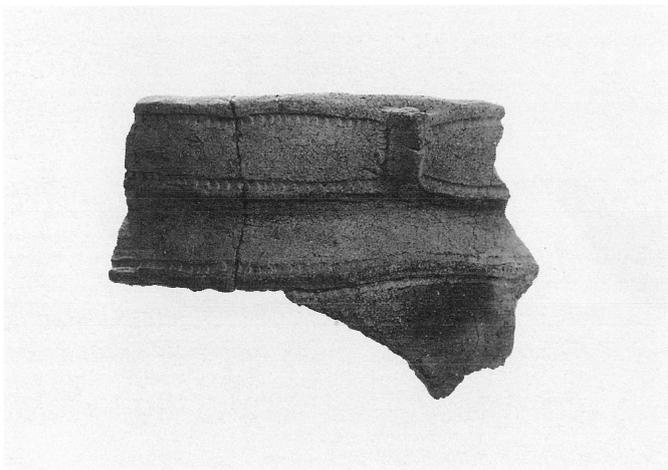
(4) 77T調査状況



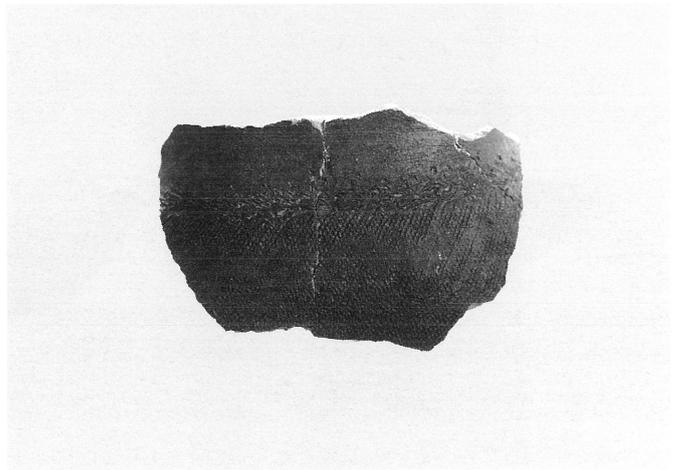
(5) 旧石器時代遺物 (第7図参照)



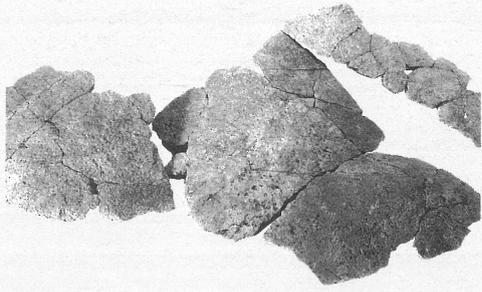
(6) 第5次本調査, 第7次確認調査出土縄文時代遺物(上段第9図14~19, 下段第52図22~27参照)



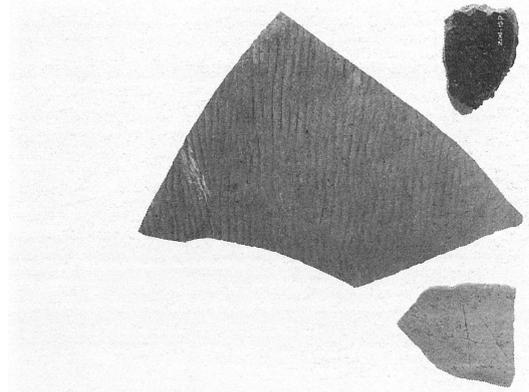
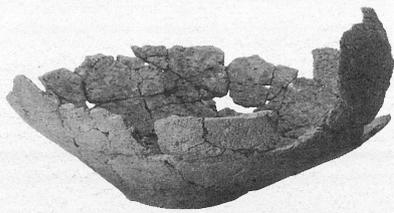
(7) 578P出土縄文土器 (第9図1参照)



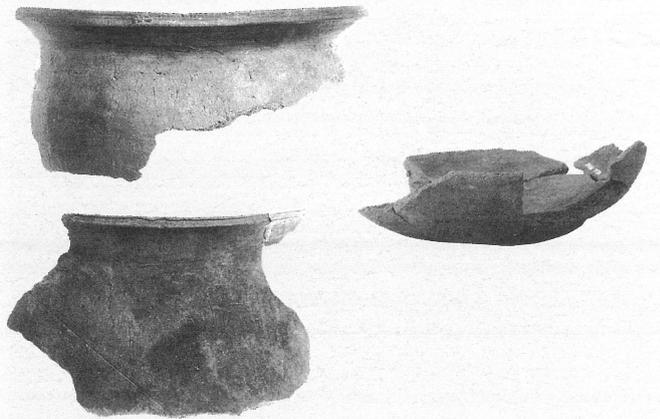
(8) 80D出土弥生土器 (第12図1参照)



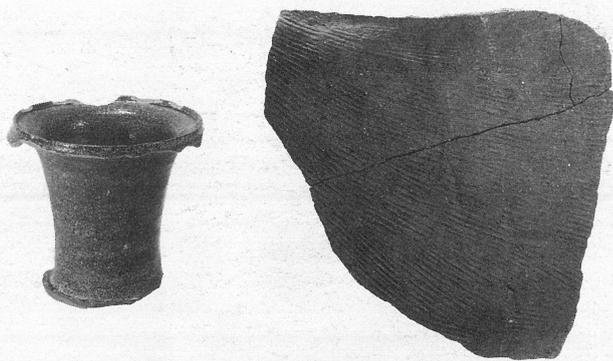
(1) 575 P 出土弥生土器 (第13图 1 参照)



(2) 10D 出土遺物 (第17图 3 ~ 5 参照)



(3) 77D 出土遺物 (第19图1, 第20图 3 · 7 参照)



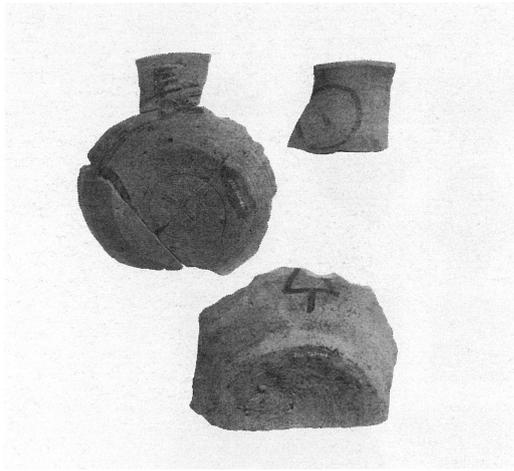
(4) 79D 出土遺物 (第23图 1 · 2 参照)



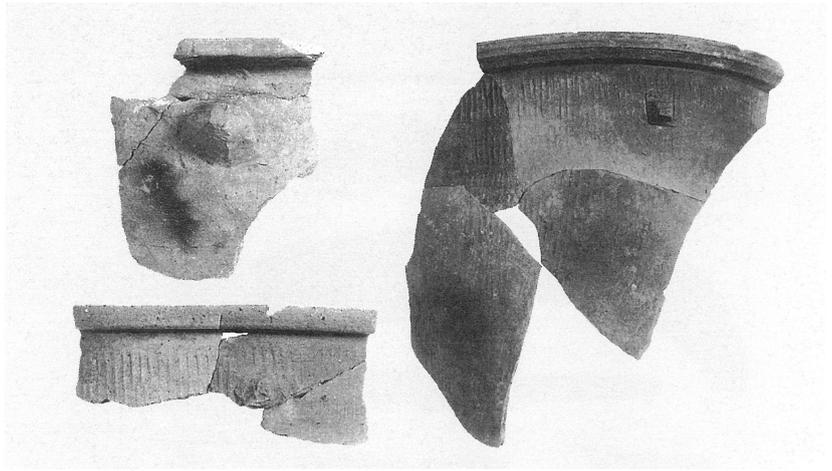
(5) 76D 出土遺物 (第30图 1 参照)



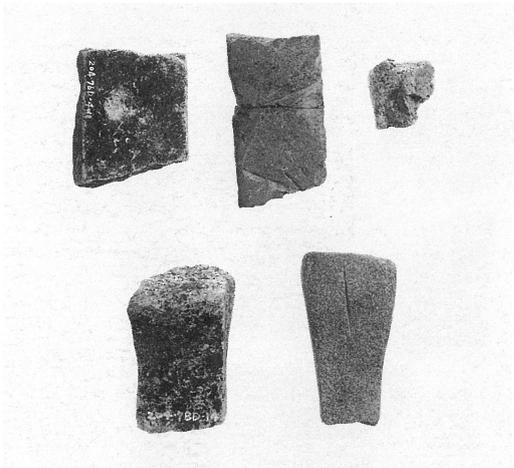
(6) 76D 出土遺物 (第32图32·34·36参照)



(1) 76D出土墨書土器(第32図46~48参照)



(2) 76D出土遺物(第31図28, 第35図65・64参照)



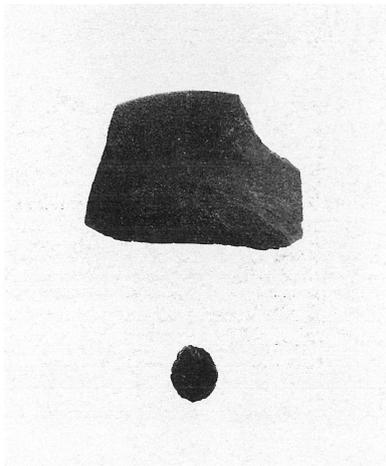
(3) 76D・78D出土石製品
(上段第36図84~86, 下段第41図18・19参照)



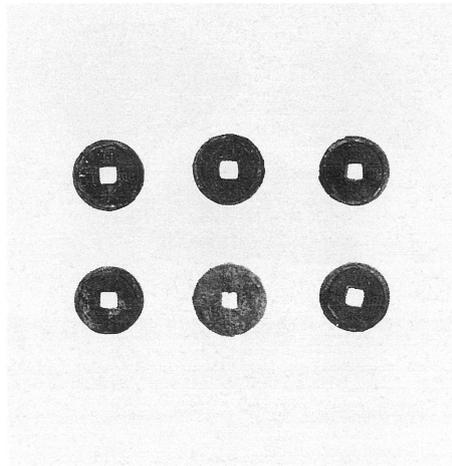
(4) 78D出土遺物(第40図1・5参照)



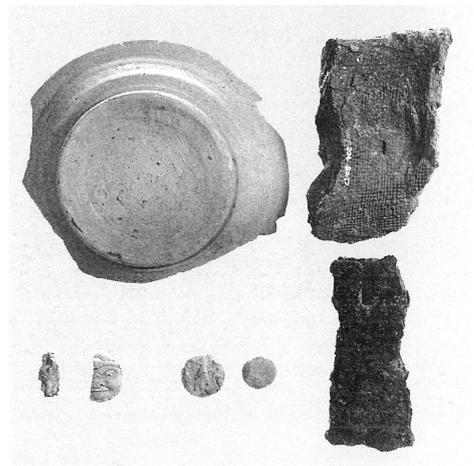
(5) 78D出土遺物(第40図6・8, 第41図15参照)



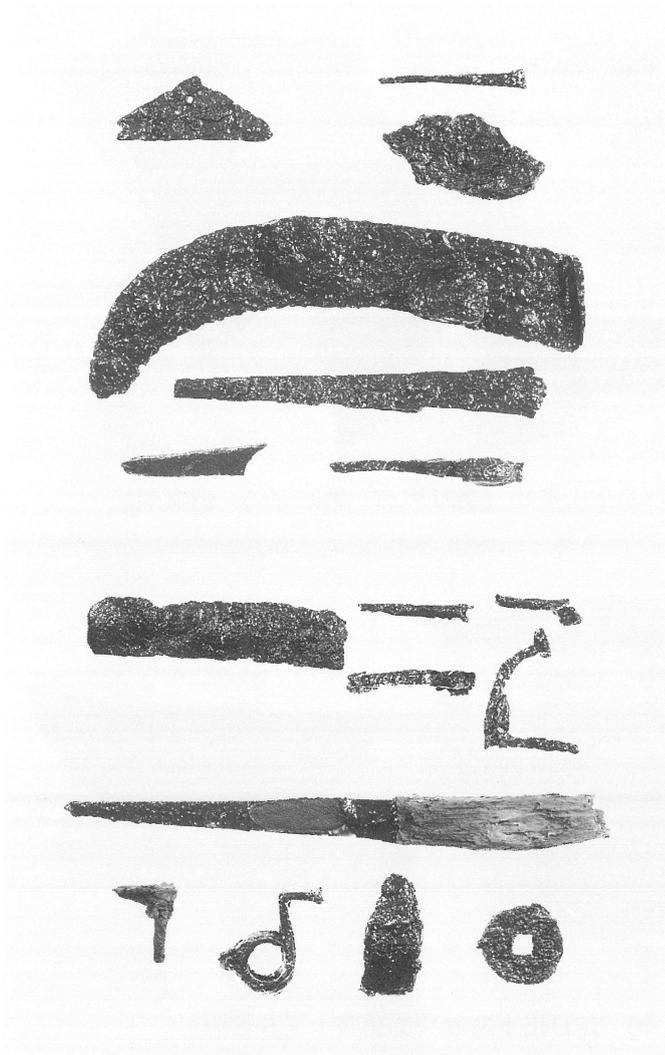
(6) 78D出土遺物
(第41図16・20参照)



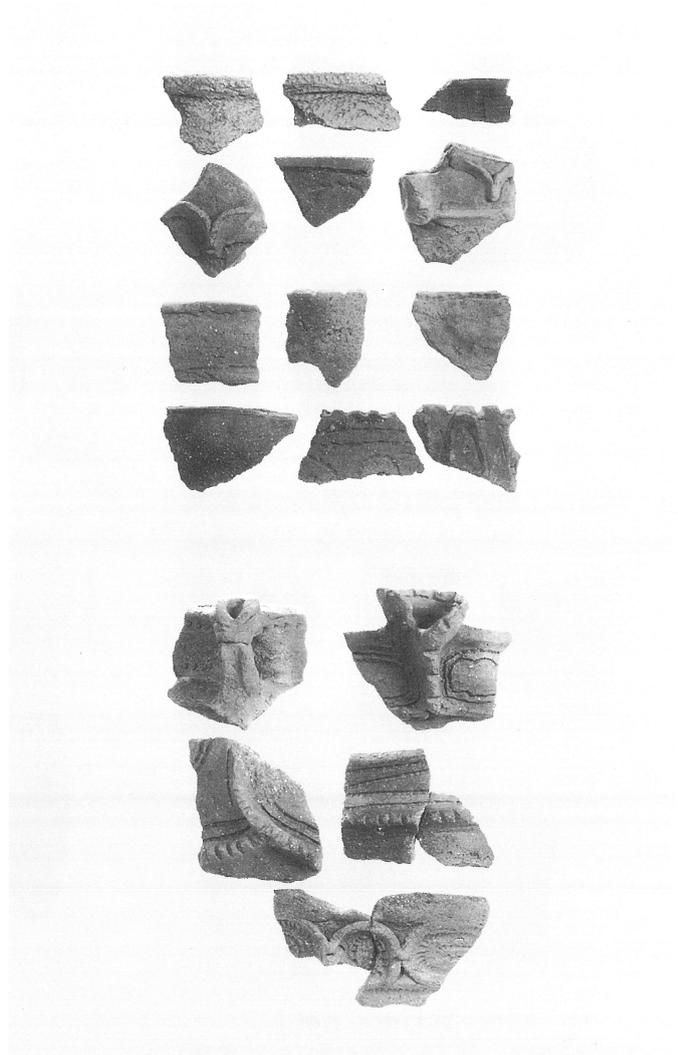
(7) 582P出土銅錢(第45図参照)



(8) 第5次本調査, 第7次確認調査
出土遺物(第49図1・2・3, 第43図, 第53図8~10参照)



(1) 第5次本調査出土鉄製品
(第12図5, 第17図6・7,
第36図74~82, 第41図17,
第45図7, 第47図4・5,
第49図4参照)



(2) 第7次確認調査出土縄文土器
(第52図1~9, 11・15・10・12~14・16参照)



(3) 第7次確認調査出土遺物 (第53図1~6参照)

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよしあさまうちいせきはくつちようさほうこくしょ へいせい14ねんど							
書名	千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書 平成14年度							
副書名	浅間内遺跡第5次本調査 浅間内遺跡第7次確認調査							
編著者名	常松成人							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 TEL.047(483)1151							
発行年月日	西暦 2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
浅間内遺跡 第5次本調査	八千代市村上字白筋 2742-1ほか	12221	204	35度 43分 21秒	140度 7分 14秒	20010606 ～ 20010928	1,400 下層確認 4	土地区画 整理
浅間内遺跡 第7次確認調査	八千代市村上字浅間内 2775ほか	12221	204	35度 43分 24秒	140度 7分 10秒	20011217 ～ 20020125	284/3,600	土地区画 整理
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
浅間内遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 奈良時代 平安時代 近世 近現代	土坑 4基 住居跡 1軒, 土坑 2基 住居跡 3軒 住居跡 2軒, 土坑 3基 墓坑 1基 炭焼窯 1基, 土坑 3基 溝 6条	石刃, 類台形石器, 端磨形刃器, 小型石槍 縄文土器, 石鏃 弥生土器, 鉄製穂摘み具 土師器, 須恵器 土師器, 須恵器, 刀子, 砥石, 炭化種子, 銅鏃 人骨, 寛永通宝, 釘 瓦, 火打ち石 寛永通宝 (鉄銭)		第5次本調査		
浅間内遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良平安時代 中・近世	土坑 5基 住居跡 6軒 住居跡 11軒 住居跡 3軒, 土坑 5基 溝 2条	縄文土器, 石鏃 弥生土器 土師器, 須恵器 土師器, 須恵器 陶器, 泥面子		第7次確認調査		

千葉県八千代市
浅間内遺跡発掘調査報告書
平成14年度

印刷日 2003年3月27日
発行日 2003年3月31日
発行 八千代市教育委員会
〒276-0045 八千代市大和田138-2
☎ 047(483)1151